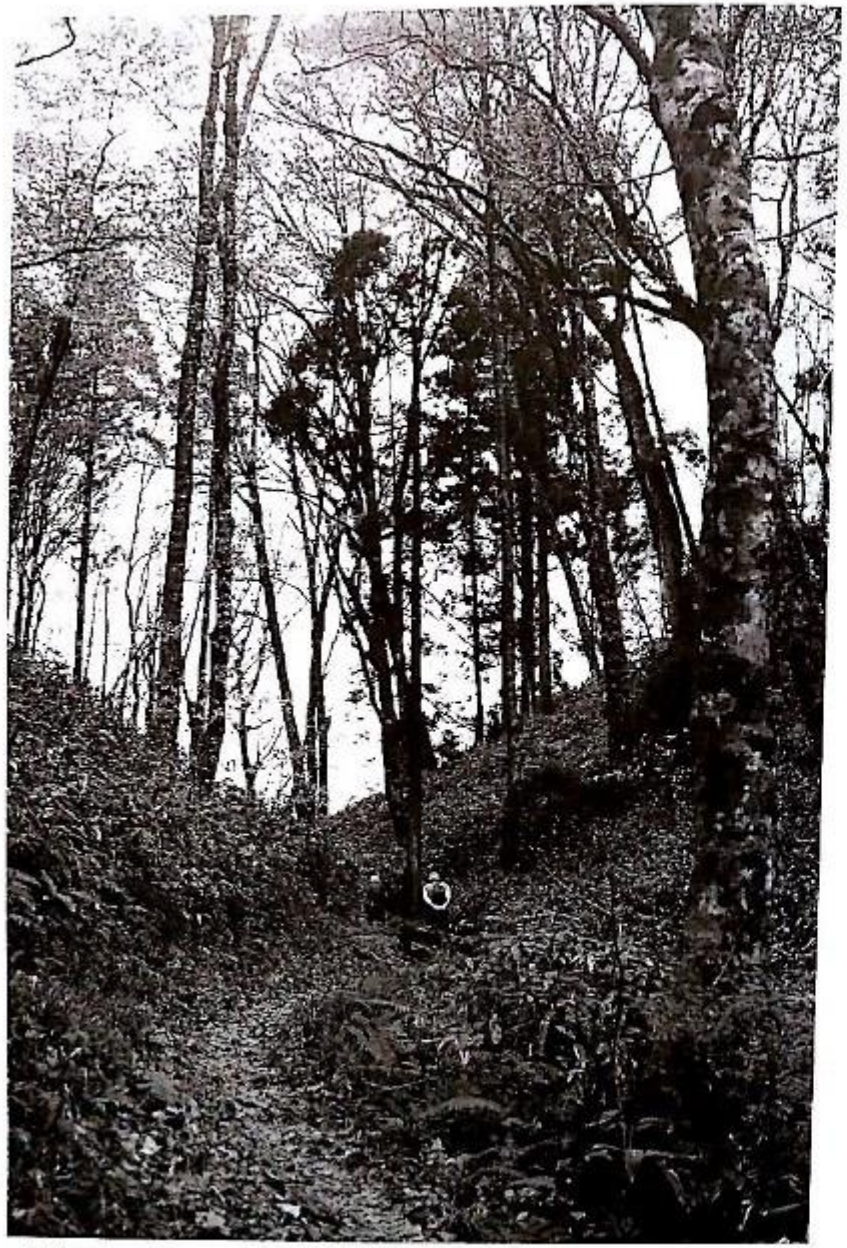


峠（戸生・杉尾峠）　　森澤　元博

OD BOXはアウトドアのトータルショップ。キャンプ、ハイキング、登山、MTB、フィッシング、カヌー、ダイビング、自然の快適アウトドアライフを応援します。

秋のシーズン前に、いいものをお買得価格で!

THE OUTLET BARGAIN!

8/21～9/30まで

旧モデル秋冬ウェア＆ギア、'97モデル春夏ウェア＆ギアの残品、デザインはなとっても
いいもののチョイス、大処分価格でご提供。秋のベストシーズンをオルタナティブ。

グッズ		ウェア	
山靴ゴアテックス仕様	¥9,800～	吸汗・速乾Tシャツ	¥1,900～
トレッキングシューズ	¥4,980～	ダクロン速乾シャツ	¥6,800～
ザック(30リットル)	¥4,900～	ストレッチトレッキングパンツ	¥7,900～
ディパック	¥3,980～	レインウェア	¥7,800～
テント	¥15,800～	フリース	¥7,800～
シュラフ(ダウン)	¥9,800～	速乾ソックス	¥780～
ヘッドランプ	¥1,980～		etc

このほか、アウトレットフロアー、コーナーにはこれという掘り出し物がいっぱいです。きっとお客様が欲しいと思っていたものが見つかります。

'97モデル秋冬ウェア入荷開始！

便利な名古屋の中心・栄

名古屋店
TEL 052-951-4141
FAX 052-951-4040

大阪店

通信販売も取り扱っています。

アウトドアのトータルショップ

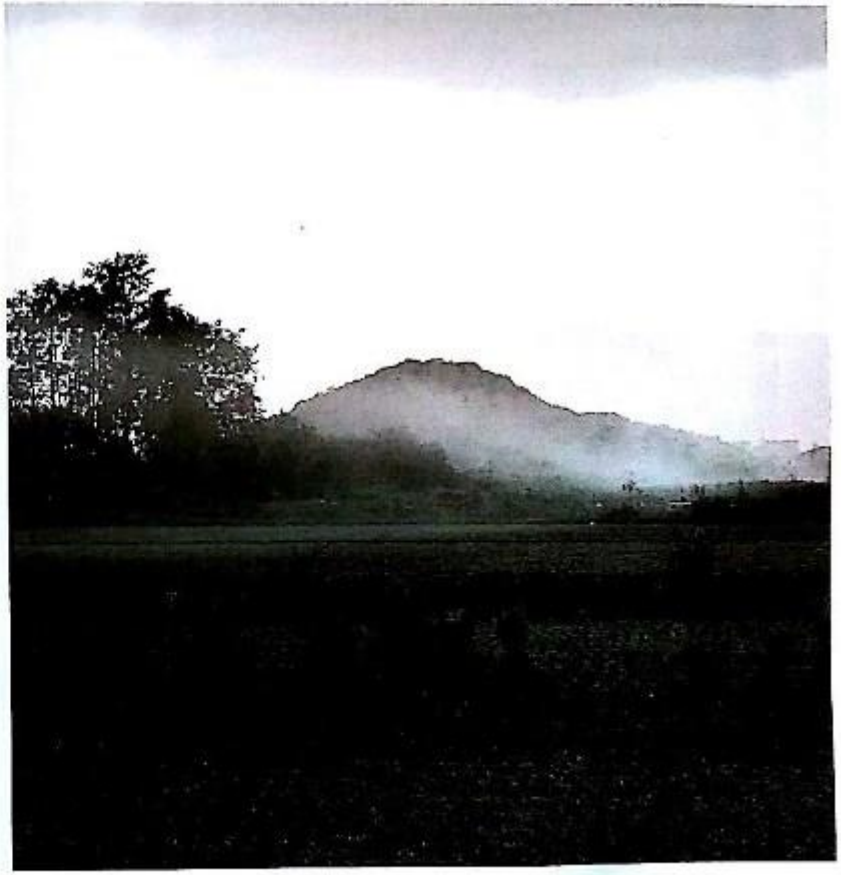
遊衣自然で暮らす。
登食
CAMP住

OD BOX

Photo essay

秋の音

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一



里の秋（桜井市大福付近より）

ススキ（法起寺）

秋（とき）

鳥の声　人の声　虫の音（ね）
樹の　草の　風の音までが
清澄な空気を伝わって身にしむ
真っ青の空にちぎれた白い雲が遊ぶ
奏であう虫たちの美しい音が
秋の野に彩りを添える
三輪山はひときわ高く
おおらかな曲線を描いてそびえ
霞がかかり雲がたなびく
咲き始めたばかりの花穂
乱れ咲く清らかなコスモス
あでやかな衣裳をまとい華やぐ塔
大仏殿を照らすばかりに輝く紅葉
交錯する枝は繊細な韻律を奏でる

大仏殿夕照

季節の実景

撮影　武市通治

初秋

水の宝石

連　玉

秋　桜

光の朝

連　山

宮指路岳東峰・三体仏より犬帰りの険（鈴鹿）　榊原　計国

雨あがりの濃沢（北アルプス）　中川　光邸

清流（京都北山・芦生）　吉沢　栄一

冠雪をみる上高地（北アルプス）　吉沢　栄一

●目次

表紙：松田敏男「千枚岳より早朝の赤石岳を望む」（南アルプス）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学学。1987年より山岳風景、山岳画の制作多数開催。（京都写友連盟、南アルプス絵画小会、東京ギャラリー百号、他）
京都山と自然に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

新ハイキング 別冊 関西の山
'97年9・10月 初版 第36号

●グラビア
秋の音……撮影 中井 収 文 松永 恵一
季節の実景（初秋）光の朝他……森澤元博 中川光郎 吉沢栄一 制作計画 武市 道治
（口絵）
雑想（山のエッセイ）
林間に酒を燈めて紅葉を焼く……奥田英一郎
朽木村の雑木山……平野 八郎
奥比良のクマ……尾家 建生
二つの不老不死温泉……生駒 巌峰
夏山の思い出……吉田 信秀 奥田英一郎 15 14 12 11 10 05 4 2

紀行
蒜山と弁伏山……牛駒 巌峰
牛草山へ……稲垣 いつを
日本霊山紀行34 薬師岳……浅野 孝一
三周ヶ岳……多摩 雪雄
乗鞍岳から硫黄岳……松田 敏男
阿弥陀岳から赤岳……鷲見 守康
近江利から登る鈴鹿の山々……岩野 明
イブキ・イワス・比婆山
鍋尻山・地蔵峠
向山と高室山
阿弥陀ヶ峰（仏坐し山）
22 19 16 26 30 34 42 44 46 49

エリア別研究
1等三角点峰（600m以上）548座完登の記録（第3回）
三角点を登る会を今西博士と創立……坂井 久光
（関連）モンゴルでツチノコを見た！……奥田英一郎
●当尾の里散策 岩船寺から浄瑠璃寺……中村 敏文
●文学歴史探訪ハイク㊱
大阪・上町台地を訪ねて……松永 恵一
●錦秋の尾瀬紀行① 尾瀬ヶ原と至仏山……田中 誠
51 41 38 54 69

ニュースガイド
地獄谷から御在所岳……岡崎 五郎
鋸ヶ畑……慶枕次盛一
日月山と湯田山……山形 敏之
清九郎滝……柴山 昭彦
64 62 60 58

沿線ハイキングガイド……72
サービスチューン……73
せせらぎ……75
新ハイ関西山行計画と報告……80
バス時刻表（鈴蘭方面）……94
編集後記・広告案内……95

巻頭言

7月の5日～8日、新ハイ関西倶会で大峰・弥山と八経ヶ岳に登ってきました。二日間とも晴天に恵まれ、さわやかな初夏の風を受け、新緑の中を気持ちよく歩けました。

ところで、楽しみにしていたオオヤマレンゲの花ですが、今年も弥山への登り道や八経ヶ岳の群生地で見ることができました。しかし、例年に比べ木の数がめっきり減っていて淋しい花の数でした。シカがオオヤマレンゲの木を食べてしまったからだということです。群生地にはシカの侵入を防ぐために、一部分は金網で囲ってありましたが、時すでに遅しで、周辺には立ち枯れの木がいっぱいです。よくもまあ、豊富なオオヤマレンゲをこれ程までに無残な姿にさらしたものだと腹立たしく思いました。

また本号の「せせらぎ」欄で、山田明男さんが指摘されているバイケイソウですが、大峰の登山道のいたるところに群生しており、こちらは百花繚乱、めずらしい光景でした。

怖いことですが、いつも目や耳にする自然に少しずつ異変がおきています。注意して観察してみてください。

新ハイキング関西（役員）村田 智敏

風倒木のオブジェ三題 －大台ヶ原（牛石ヶ原）にて－

奥田 英一郎

その2

その1

その3

林間に酒を煖めて 紅葉を焼く

―台高・東ノ川にて―

奥田　英一郎

朝靄に濡れたササ原を行くと、一頭の鹿が横切って走り抜けた。行方を追うと、とあるモミの木に体を寄せて、かわいい顔と白いお尻をこちらに向けて立ち止まった。「ホオッホオッ」と声をかけると、耳をひくひくさせて再び駆けだし、やがて樹間に消えた。

大蛇嶽と蒸籠嶽の間の中崩谷の源頭に向かってくだって行った。暗くて細いガレ場が続いた。水が現れたところで軽い食事をとった。そばに洞窟が暗い口を開けていた。熊でもひそんでいそうな穴だった。

小さな流が現れるたびに、ザイルを肩からみにしてくだった。25㍍ばかりの垂直の壁にぶつかったところで、オヤジは石に腰を下ろして、ゆっくりとパイプを取りだした。そのあと、やや緊張になった一行を静かに制して、「怖くなったら、ナマンダブツと唱えると気が落ち着くから……」と言い残して、岩壁に足を突っ張らせてさっさと肩がらみで降りて行った。

Yはいつどのようにして降りたのか、下の河原に座り込んで上を見上げていた。いざ自分がザイルを使って降りるとなると、緊張のせいか、オヤジの言った言葉などすっかり忘れてしまっていた。河原に降り立った時には喉がカラカラだった。

扇状に広がる明るい河原に出ると、そこは東ノ川の出合だった。巨岩が累々と谷を埋める流れの中で、ここにはわずかな砂地があり、一行の露営地となった。

竿を持ったYは、早くも岩陰に見えなくなった。汗に濡れた肌着を岩の上に広げ、青い空に流れてゆくちぎれ雲を眺めた。日差しはまだ強くて暑かったが、谷間をよぎる風は確実に秋のものだった。

近くは名刀を立てかけたような地獄の釜滝が、勢いよく落ちていた。周りを巨大な岩で囲まれた滝壺は深い淵となり、緑青の水面に激しく舞い落ちるしぶきのさまは、どこか妖気さえ感じさせた。

オヤジの姿が対岸の樹間に見え隠れしていた。愛用の土佐の鉈を振っているに違いない。春の氷ノ山では雪崩を誘び、夏は北アの北穂川に手を入れ、冬は穂高牧場で屠蘇を祝うのが年中行事となっているオヤジの、秋の東ノ川での楽しみは、あの白居易の詩に言う、「林間に酒を煖めて紅葉を焼く」ことなのである。

随想

（山のエッセイ）

渓谷に冷気が漂う頃には、姿のいいアマゴが串刺しにされて焚火の周りに並んでいた。冷たい水から抜き取られたばかりのアマゴの体側には赤いパールマークが鮮やかであった。

飯盒の飯が炊きあがる頃には、火を囲んでの小さな宴となった。流れは音を立て、燃え盛る火は火の粉を舞い上げ、暗い渓間を焦がした。心は満たされ、黙って火を見ていた。ほだ木の上に緑のかえでの葉っぱがへばり付いていた。

「オイッ。月が出たぞ。君たちは山に来て眠るのかっ！」

オヤジの押し殺した低い声に頭を上げると、大蛇嶽と蒸籠嶽の間の窪みの上に、細い刃物のような月が出ていた。中天に目を向けると、銀河が東ノ川に沿って流れていた。それはあたかも天と地が呼応するかのようであった。

午前3時にはオリオン座が横たわっていた。オヤジは火のそばで横になっていたが眠ってはいなかったようである。齢八十に及ぼうとする老登山家の脳裏に去来するものは、何だったのだろう。

流れの音は、変わらないリズムで大きく小さくなりながら、軽やかに響いていた。

朽木村の雑木山

平野　八郎

4月20日、琵琶湖に注ぐ安曇川の源流にあたる朽木村の雑木山へ、雪解けの春を感じさせる山行会に参加した。

現地のこの谷は「杣の会」所有のものである。大学で林学を専攻した今北哲也氏が、1977年に、山を愛し、また、山の村の明日に関心を寄せる人たちに呼びかけて、数百人が十万円ずつの募金を出し合って購入した。

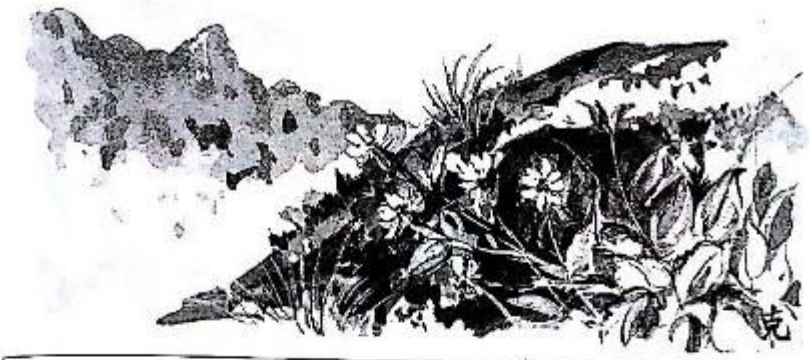
「山」というから、頂上のある山を買い取ったのかと思っていたが、谷をはさんで両側の斜面を買っていたのである。約25㌶の斜面は、さすが今北氏の熟慮の結果で、すばらしいの一言に尽きる。

まず、谷がいい。一言で言えば明るい谷だ。木が雑然と生い茂っているが、荒れた感じがいっさいない。

滝も二つあるという。この日は一つだけしか見なかったが、上流に行くと、落差の大きい滝があるらしい。「サルナシの滝」と会では呼んでいるそうな。

もちろん、両側の斜面にはブナなどが生い茂っている。右手の山の斜面にはシャクナゲの木、花はまだ咲いていない。氏によるとシャクナゲは、やせた岩だらけのカベ山に多いとのこと。

さて、この日のメインはカタ



クリの花。滝近くの山の斜面に数多く咲いている。参加者は子どもを入れて約20人。若い女性が「カタクリの花！」と声をあげる。

近年カタクリの花の人気が高まっている。花の色や形もいいが葉も美しい。取って持ち帰ろうなどという不心得者は一人もいない。仮に持って帰ったとしても、自分の庭で咲かせることは無理なのだ。冬、冷たい土の中でじっと息をひそめ、春の光とともに目覚めるこの花は、山の中でこそ美しい姿を見せる。

しばらくカタクリの花を楽しんだ後、それぞれがそれぞれの楽しみを。滝を見に行く者、木に登る者等……。

今北氏は組いブナの木を切って、そこにナメコの種駒を入れる。秋にはマイタケの出る原木を山の斜面に穴を掘って植えこむ。そう、この山は、いろいろの生産活動を楽しみながら試みる場所なのだ。

経済効率優先の考え方は山々にまでも及び、人工林ばかりが幅を利かせている。昔からの伝統的な山の生活文化を守り、なおかつ発展させていこうとするのが、「杣の会」の目標なのだ。

この目標は、私たち現代人に対する大いなるアンチテーゼでもある。経済効率優先の考え方に、今や私たち現代人の生活の隅々にまで浸透している。それは消費ムードとなって、「早く消費しろ！　急げ急げ！」とかりたてる。このすさまじさに現代人の心はかなり傷ついている。その心を癒す場所として、この谷があるような気がする。

最近私たちハイカーが陥りやすいことは、できるだけ効率よく歩くことを目標としている、ということである。マイカーを目的地近くの適当な所に駐めておき、さっとその周りを歩き、さっさと引き上げ、町に帰ってまた別の楽しみにふける、といったような……。たぶんしているように見えて、実は時間をあわただしく消費しているだけではないのだろうか。

たしかに現代社会での毎日の生活のテンポは、日一日と早くなっているが、そればかりに追われているとストレスもいっぱいたまる。

時には、この谷のような場所で、山の気にふれ、体と心をゆっくりと休ませることが何よりも必要のような気がする。

奥比良のクマ

尾家　建生

三年前の風薫る5月の連休のことであった。私は奥比良の畑集落から川沿いに山中へと入った。杉林を抜け、山腹から黒谷の集落を見下ろしながら、ポポ

随想

（山のエッセイ）

フダ峠に登りついた。昨夜までの雨とはうって変わって青空が広がり、日差しは初夏そのものだった。

花物はテント装備。北陸へ芭蕉の足跡を訪ねて歩いてきた帰り、比良への登山を思いついてここまでやって来たのだ。関西に居ながら比良は初めてだった。重いザックも山登りも二十五年振りだった。典型的な中年の青春回帰というやつだ。

畑から登り始めたのは蛇谷ヶ峰へ登ってみたいと思ったからだが、稜線に出てみると、蛇谷ヶ峰への山道はブッシュぎみなので、行き先を逆方向の武奈ヶ岳に変更した。

しばらく行くとコロク峠に着いた。両側にクマザサの茂る歩きやすい尾根道が続く。と、左手のブッシュの中でガサガサと音がした。山仕事をしている里人かとも思ったが、音はすぐ止んだので気にも留めずそのまま進んだ。

数分歩くうちに、また左手のブッシュからガサガサと音がする。天かな、こんな所まで犬が登ってくるはずもないが、と思っているとその音は急に前方へ猛然と移動し始めた。ああイノシシだ、間違いない。と思う間もなく、その音は尾根筋に上って来た。そら出てくるぞ。突然、私の行く手の4㍍先の山道を黒い影が横切った。それは思いもよらないクマであった。

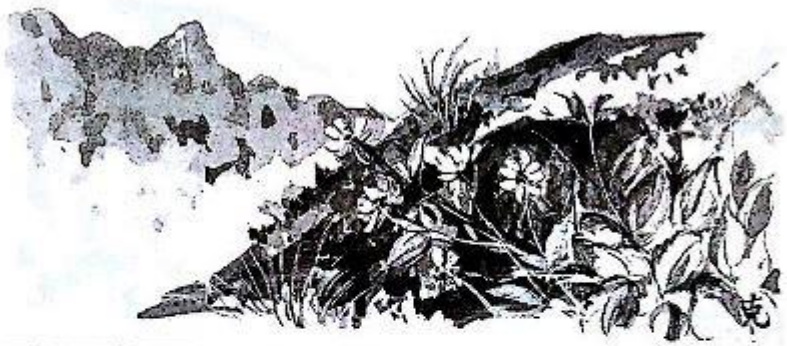
一瞬ではあったが、クマの灰銀色に光る眼は私に鋭い一瞥を投げかけ、黒い毛並みは野生の何とも言えない美しい光沢を私の眼に焼きつけた。

おそるおそるその場を通り過ぎる私の手には、いつの間にか道端にあったのだろう木刀のような一本の木が握りしめられていた。振り返るとクマの姿はすでになく、その一帯はクマの好みそうなクマザサの原で、その背後には樹林が広がっていた。

私は興奮したまま重いザックと暑さに汗しながらも、血の気を失くして歩き続けた。地蔵峠でようやくひと息ついた。そこの標識には「揚生」という地名の下にマジックで「熊注意」と記されていた。安曇川側がクマの生息地になっているらしい。

789㍍のピークからようよう釣瓶岳に登り、細川越まで来た時には、武奈ヶ岳へ行く余力もなくなり、そのまま広谷へおりた。そこには湿地帯があり、山小屋や滑りかな沢があり、残雪さえあった。初めての比良はすばらしい所であった。渓流で昼食にした。ハイカーが何組か日の前を行き交った。クマに出会ったのがうそのような、のんびりとした光景であった。

この時から、私はクマが好きになった。「何てすばらしい野生の動物。クマの住む山は自然に恵まれている。クマの住む山



域は森が生き生きしている」と西中国山地で、画期的な方法でツキノワグマの保護に努めている、青森県出身の米田さんは言っている。広葉樹のもたらす木の実がクマの命を育んでいる。クマは島たちのようにさえずりこそしないが、無言のうちに山を豊かにしている。

クマと相撲だけは取りたくないが、私はクマと幸せな出会いをした、と言える。

二つの不老不死温泉

生駒　誓峰

「不老不死」は人類永遠の願いであり、昔の中国の皇帝も、不老不死の秘薬を求めて日本に家臣を遣わしたとか。

以前から地図の中にある不老不死温泉の名前が気になっていた。しかし特に温泉マニアでもないので、温泉だけを求めて行こうとは思わなかった。

青森県津軽半島の1等三角点の山、丸扇形岳（718㍍）に登った時、ひどいやぶこぎを強いられて汗びっしょりになった。ひと汗流そうと温泉を探すと、不老不死温泉の名が目に入った。

さっそく車を走らせる。平館村の村はずれの、向かいに下北半島を望み、陸奥湾を見下ろす高台に温泉はあった。

周囲は民家も少なくひっそりとした所で、不老不死温泉の看板がなければ、温泉とは思われない建物だった。田舎の民宿風で、いわゆる温泉旅館の風情はない。こちらも温泉に泊まりに来たわけではない。さっそく温泉に入る。タイル張りの浴室も町の銭湯並みで、少しぬるめの透明の湯が満ちていた。無味無臭で、言われなければ特に温泉と感じないだろう。

宿の女将さんに由緒を訊ねると、先代が考えた名前で、この温泉に入って少しでも寿命が延びたと感じてもらえれば幸せだ、ということである。あまりにも豪勢な名前に、名刺負けしているようにも思えた。

いくつもの1等三角点峰を登頂しながら津軽半島を一周し、日本海側を南下する。滝ヶ沢では村形山（820㍍）に登頂して、温泉を探した。

周辺にはいくつも温泉が点在しているが、その中に黄金崎の不老不死温泉の名前を見つけた。まったく同じ名前である。

さっそく車を走らせる。黄金崎にある不老不死温泉は、海岸の岩礁の上に建っていた。背後の丘の上に完成したばかりの新館が建ち、そこでも入浴できるのだが、たいていの人は、この海岸べりの旧館に来る。ここのお湯は塩分を含む鮮色で、私の肌にはあまり馴染まなかった。

そこから離れた海岸の岩礁に

随想（山のエッセイ）

も露天風呂があり、荒磯に砕ける白波を、そして日本海の落日を見ながら入浴できるが、海が荒れると落ち着いて入っていられない。

宿の主人の話では、平館の不老不死温泉が本家で、二つは親戚関係にあるらしい。

お湯の性は、平館の方はナトリウム・カルシウム・硫酸塩泉。泉温40℃でややぬるく透明、弱アルカリ性である。黄金崎の方は、ナトリウム・カルシウム・マグネシウムの塩泉。泉温46℃、濃い褐鉄色をしている。

それにしても「不老不死」とはたいそうな名前を付けたもので、人はその名に引かれてやって来る。私もその一人にほかならない。宣伝力は抜群である。

◎平館不老不死温泉
☎0174（25）2611
◎黄金崎不老不死温泉
☎0173（74）3500㈹

夏山の思い出

弦秋

亡霊の声谷に消ゆ霧の夜
夜の闇が渓谷をつつむ時刻になると成仏できない亡霊たちが小屋まで降りてくる。
岩壁から消えたクライマーたちが戸口の外で立ち話をしている。
しかし中に入る様子はない。
何かいかがわしい物の怪を感じる。

館平鮨寿司酒古城

夏山で鮨の刺身、五日寿司、すいとん汁。お酒はビール、ワイン、ウイスキー、日本酒と愉しむ。
おまけに自家製の豆腐まで作る。

賽の目を食べる冷奴
雪渓の陰に穂の影人の影
唐岳から鎖場の続くやせ尾根を降り、雪渓を北にトラバースして回り込み大絢池に降り立つ。撮影ポイントで人が多く、槍の穂先と人影が重なるように水面に映っていた。
月天心穂高の肩に小星がある
流れ星仰ぎ見て夏山終える
槍尾にベースを張って、蝶ケ岳、常念岳、奥穂高岳を登ったときの最後のキャンプの夜である。
百丈岩尾根、ヘールボップ彗星ほど大きくはないが、小さな流れ星が山行の無事を祝ってくれた。（吉田　信秀）

美濃

岐阜百山の
蕪山と舟伏山

生駒聳峰

最近は週休二日制も定着したので、1泊2日でゆっくりと岐阜の山に登る計画を立てることができる。

ハイウェイを利用すれば、関西から日帰りも十分可能だが、長時間のドライブは疲れた体でハンドルを握ることになるので、あまりおすすめできない。

また、せっかく美濃まで来たのに、一山ではもったいない。2日間かけて計画すると、余裕をもって二つの山に登ることができる。

関西圏から登山口までは、どうしても4～5時間が必要で、1日目の登山開始は昼近くになってしまう。しかし、一泊するなら夕方までに下山すればよいので、落ち着いて登ることができる。夜はテント泊でも車中泊でも、また、田舎のひなびた宿に泊まるのも楽しいものだ。

蕪山（1068・9㍍）

美濃万面に向かうときには、私はいつも関ヶ原インターで降り、国道21号線を岐阜方面に走る。大垣や岐阜羽島のインターで降りると、市内の通り抜けが面倒なうえに、ハイウェイの料金も高くなる。

岐阜市内で国道256号線を北上し、長良川を渡って美山町に到る。さらに1等三角点の高賀山がある洞戸村を抜け、アユ釣りで有名な板取川の「21世紀の森」公園に車を駐める。

ここには広い駐車場やトイレ、森林学習展示館や大工学習館等がある。また全国でもめずらしい巨大な「株杉」蕪山の森が存在する。

「株杉」とは、樹齢四百年以上の杉の根株から数本の幹が直立しているもので、黒々とした巨大な根株が静まり返った森の中に点在するさまは幻想的で、別世界に来た感がある。

駐車場から舗装された車道を300㍍程登ると、蕪山自然観察導入口の道標が立つ。ここが登山口で、前記の「株杉」は少し手前にある。道標には山頂まで3930㍍と記され、植林地が公園になっている。

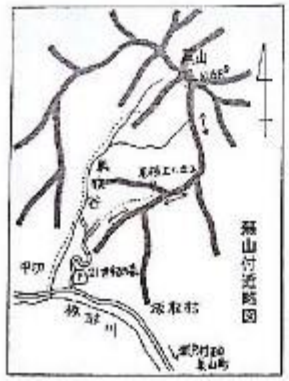
整備された遊歩道を登って行く。公園はバードウオッチングの森で、小鳥の声が絶えず響いてくる。やがて公園の最上部に登りつき、少しくだりぎみに左に回り込むと、登山道の分岐になる。ここの道標には頂上まで2495㍍とある。

植林帯を抜けて尾根上に出ると、浦木越しに蕪山が姿を現した。その姿が蕪に似ていることから蕪山と名付けられたそうだが、おだやかな丸い形をしている。

稜線の峠に登り着くと、道標は頂上まで980㍍となっていた。稜線はブナやナラなどの広葉樹林帯で、まさに新緑真っ盛り。萌え立つ若葉に埋まっていた。登山道もよく整備され、気分はルンルン。この山は新緑の頃が一番の登山時期のようである。

稜線の道は南から蕪山に向かい、西山腹を捲いて北側に回り込む。ここで東牧谷の道が合流し山頂に登り着く。まず小さな雨量計の小屋が現れ、その背後が山頂であった。

新緑の林に囲まれて、展望はあまり望られない。広くもない山頂には、簡単な山名板と2等三角点が納まっていた。いずこからともなく小鳥のさえずりが聞こえる、のどかな頂であった。



同じ道をくだる。柴火を連れた中年の女性が一人登って来た。「地元の方ですか」と声をかけると、「いや地元ではないけれど、時々来ます」と返ってきた。奥美濃の山々は道も定かでないやぶ山が多いのに、蕪山の道は登山道というより遊歩道のようなのどかさであった。

下山後、車を走らせて5～6㌔上流の板取川温泉に入る。最近は村おこしで、各地に立派な温泉が作られている。ここも山村には似合わないほどの立派な建物で、食堂や郷土物産の売店ができていた。とにもかくにも温泉は、汗を流し疲労回復には一番である。

帰途、洞戸村の高賀神社に円空記念館を訪ねる。以前、高賀山に登った時には、時間がなくて見られなかった素朴な円空仏に感動した。

その後、舟伏山の登山口に向かって車を走らせた。

《参考タイム》

21世紀の森の駐車場（7分）林道登山口（1時間20分）峠・頂上まで980㍍地点（40分）蕪山

《地形図》20万＝岐阜　5万＝八幡　2万5千＝上ヶ瀬

板取川温泉（入浴料600円）

舟伏山（1040・8㍍）

国道256号線を美山町まで戻り、根尾村に通じる国道418号線に入る。谷合の町から北上して神崎の村に到り、村はずれの夏坂谷林道に入る。「あいの森」の標示と、開放されたゲートがあり、入山届けの用紙が置かれていた。

川沿いの舗装された林道を3㌔ばかり進むと、「あいの森」の登山口に着く。案内板には「里山りコース3・9㌔」小舟伏コース3・5㌔」と記されている。広い駐車場にトイレ舎（くみ取り式）と、橋を渡った対岸には立派な山小屋が建っている。見上げる沢の奥には、名の通り舟を伏せたような形の舟伏山が、長く横たわっていた。

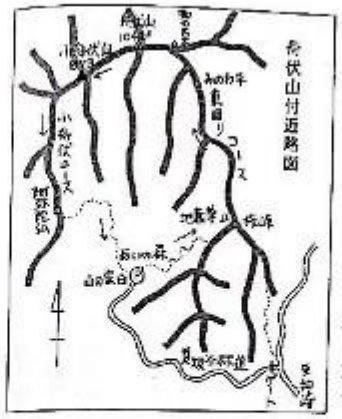
山小屋の前に車を駐める。山小屋は施錠されていて入れない。覗くと50人くらいは泊まれそうな広い板の間がある。外部のトイレや炊事場は開放されていて、雨の下の縁側も利用できる。水は谷水が引いてある

舟伏山山頂

が、電灯の設備はない。

人影も無く静かな夜であった。満月に近い月がこうこうと輝いたかと思うと小雨がぱらついたりした。山の天気は変わりやすい。以前はテントも持参していたが、最近では設営も面倒になり、雨でも降られると始末が悪いので、もっぱら車で寝ている。

翌朝、東回りコースから登り小舟伏コースをくだることにした。東回りコースはゆるやかで、小舟伏コースは急と示されていた。どちらも登山口に入山届けの用紙が置かれ、ポストを覗いてみると、休日には3～4人の登山者があるようだ。



植林の中を登って行く。よく整備された道がジクザグに付けられ、急な所もなく登りやすい。ひと登りで桜峠に出ると、夏坂谷出合からの道が合流し、一休の小さい地蔵尊がまつられていた。仮設の休憩所でひと息いれる。頂上まで2・3㌔とあった。

さらに稜線伝いに登り、「みのわ平」に着く。見渡す限りの新緑である。この周りは昭和20年代に伐採され、広葉樹に太い木はない。しかし、木々はすばらしいもえぎ色に染まっていた。「柳の古木」の標示に覗いてみると、太い枯れ木が立っていた。枯れてしまったのかと裏側に回ってみると、下のほうから、緑のか細い新芽を出していた。

舟伏山の山頂は、平坦な森の一隅で、伐採されていなければ通り過ぎてしまいそうである。300坪くらいもある刈られた頂上は、南北が大きく開け、展望案内板が立っていた。北には奥美濃の盟主能郷白山が、まだ谷筋に雪を残し、越山・屏風山・平家岳へと続く。そして眼前には、日永岳が反射板を掲げていた。南には高賀山から恵那山が霞み、山また山。遠く養老山脈の間には岐阜市街が広がっていた。ここにも2等三角点が設置されていた。

下山は小舟伏コースをとる。新緑の森の中を伝って行く。973㍍の標示があったなあと思ううちに、道はどんどんとくだって、やがて阿弥陀仏のまつられた稜線の肩に着く。西にのびる道に古びた道標が「本巣」を示していた。地図を広げると、先刻の973㍍の標示の所が小舟伏山だったのだが、全く気づかずに通り過ぎていた。

ひと休みしてさらにくだると、植林帯となって沢音が近づき、小さな沢は徐々に水量を増し、やがて古い椎茸栽培地が現れると、山小屋の下に到着した。

車を走らせて谷合に戻る。ここには瀬見峡温泉があって、汗を流すことができる。ゆっくりと体を休める。大阪までは先が長い。

（平成9年5月歩く）

△コースタイム▽

あいの森（40分）桜峠（1時間10分）舟伏山（40分）山の肩（40分）あいの森

△地形図▽ 20万＝岐阜　5万＝谷汲　2万5千＝谷合

瀬見峡温泉（入浴料400円）

日向から白草尾根を 牛草山へ

伊勢

稲垣　いつを

5月8日、体調も天候もまずまず。度会郡度会町、標高550・3㍍、牛草山に出かけることにする。いきなりの山行ゆえ、だれも誘わない。伊勢自動車道を玉城で降り、ナニーロード経由で県道22号・伊勢南島線を南下。日向バス停から橋を渡ってすぐの「日向多目的集会所」に駐車する。

「山登りかね。ああ、車はそこでええよ。そら、あの寺の左手が登り口さ」と、軽トラックを停めて教えてくれるおじさん。

「そこの、稲木のおじいさんに聞くとええわ、急がへんのやったらな」と畑仕事の腰をのばしながらのおばさん。余所者の登山者なんて、村人にとってはなんらプラスにならないはずなのに。こんなに気さくに受け入れてくださる。有り難いことだ。

橋本のおじいさん」は、「牛草山登山案内図・日向コース」という一万分の一の地形図と、「牛草山日向登山コース見どころ」という印刷物を一枚ずつくださった。どちらも橋本さんの手作りだそうだ。八十？歳とか言われたが、登山コースの標識も私の作ですと、作りかけのそれも見せてくださる。

「今年は五年だから登山者が多い。一月からここまでもう四百人を超えました」と、登山者名簿も見せてくださる。なるほど先ほどのおばさんが、「急がへんのやったら」と付け加えてくれたのはこういうことかと納得した。

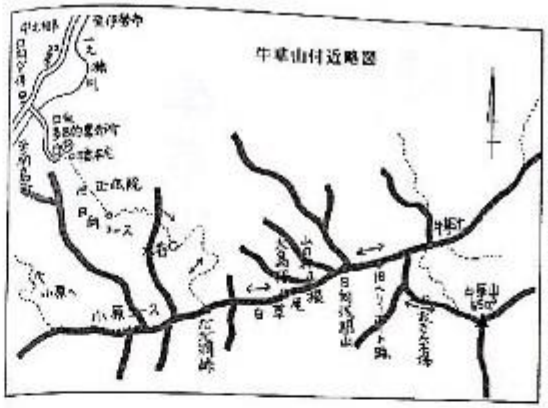
牛草山の山頂にて

もうすでに11時。ついつい腰を据えてしまいそうになる自分を急き立てて、四百同人目かの櫛に住所・氏名・名前・電話番号を記す。とそこへ一人の先輩の女性がせかせかと登場。

「初めての山なので、いっしょにおねがいできませんか」と言う。こちらだって初めてなのだから、内心弱りはしたものの、「こちらこそ」と応じてしまった。今度は

その女性が地図を貰い名前を書く。結局出発は11時15分になった。

登山口は正法院の左手。村を背に、林道がまっすぐ山に向かっている。しかしこの道、100程でちょん切れて、いきなり急な植林帯に入る。アプローチが短かすぎる。5分も行くと、道連れのKさんの息が荒くなる。こちらも一気に汗が吹き出る。いっだったか国会でやっていた牛歩戦術よ



そしく、のらりくらりと登ることにする。ここは牛草山なのだから……。

30分足らずで、地図上に「水呑」とある格好の水場に着く。先ほど頂いた印刷物には、「樹齢二百年以上の巨木（スギ）」、「昔は炭焼き、薪つくり、カヤ刈りや牛の草刈りなどを行っており、それらを運ぶ時に必ずここで水を飲んで一服した。この水はウィスキーの水割りや茶道用の水に適している」と記されてある。たしかに見事な杉である。それと、クリハランの群生も見事だ。栗の葉に似ているところから付けられたというこの名前、蘭ではなくて羊歯の仲間だ。喉を潤し先を急ぐ。

道はここからも傾斜をゆるめない。「ただ洞峠」というおもしろい名の峠に着き、これまたさわやかな「白草尾根」という名の尾根に取りつくまでの約30分間も、なかなか手こわい。Kさんはしきりに足手まといを詫びる。「いえいえ、どういたしまして」、こちらだってけっこうきつい。こんな道は一人で黙黙と取り組むより、あんな山こんな山の情報交換をしながらの、のらりくらりのほうが楽しいと思っている。おっ、テッペンカケタカホトトギス。いやいや、あれは、「トッチャンコケタカ」だそうですよ。

やっぱり山は道連れのあるほうがいい。この白草尾根は小さな起伏の繰り返しで、ルンルン気分とまではいかないが、山の神・日向浅間山の大日如来・明野航空自衛隊の旧ヘリポート跡等々のアクセントが気分をほぐしてくれる。またここは植物が豊富で、こんな所にと驚かされるのは、一抱えもありそうな桜の古木群。印刷物には、「白草山道左（北側）に9本の大島桜があり、4月中旬に淡紅色の花が枝上一杯に付く。花は淡緑色の新葉が出るのと同時に咲くのがこの桜の特徴で、フマリン等を含み芳香を放つ。また、樹液や葉からでるフィトンチッドにも富み、森林浴によく、健康増進に適している」とある。

浅間山に転がっていた鹿のしゃれこうべにはドキッとさせられたが、ヒメシャラの幹の感触を楽しみながら、木いちごの実をつまみながら、テイカカズラの花を愛でながらのこの尾根道、退屈はしなかった。

山頂は、十畳くらいの岩場で、南に五ヶ所湾と志摩半島、東にサニーロードを望むことができる。薄曇りではあったがなかなかの展望。Kさんのおかずにも手をのばしながら、おにぎり代りの中国産に舌鼓を打

つ。缶ビールが美味しかった。ゆっくりしたい気分だが、空模様が少しあやしい。くだることにする。同じ道でも方向が変わると雰囲気も変わる。Kさんの山歴を聞きながら、ゆっくりゆっくりくだる。来る時は、男性の単独行者とすれ違ったが、それ以来だれにも会わない。50分程で、しゃれこうべの浅間山に着く。

「ここからだったら一人で戻れますから」とKさんがしきりに言うので、それではと先にくだる。10分程おりた所で山の神に立ち寄り、1～2分で本道に戻ったがKさんの気配はまだない。少し待ってみたがまだ来ない。ちょっと遅すぎるのとちがうか。オーイと呼んでみるが返事がない。先にくだったとは考えられない。心配になって浅間山まで急ピッチで登り返してみたが、いない。右手の小バイパスも見たが、やっぱりいない。「こはいかに。かかるやうやはある」。こうなると、山の神に立ち寄った1～2分の間に行き違いになったとしか考えられない。そうでなかったら大変だ。ということで霊駐天よろしく一気に駆けくだる。途中一匹のはぐれ猿と出会う。かまっておれない。そして例の水呑場。頭上に近づく足音にギョッとしたのか、Kさんがキッと身構えて立っているではないか。そして顔を見合わせてホッ。なんだそうだったのかと納得。

結局、二人いっしょに「ただいま帰りました」と橋本さん宅に到着。16時半であった。おじいさん、おばあさん、橋本家の御主人、奥さま、皆さん総出で迎えてくださる。よく冷えたお茶をごちそうになりながら、しばし話に花を咲かせる。おじいさん、橋本増雄さんからいただいた案内図と見どころの印刷物はほんとうに有り難かった。御主人の丈夫さんは、伊勢市内の県立高校を校長で退職されたという方であった。

16時45分、この気さくな御家族に送られてやっと帰途についたのだが、実は、もう一つハプニングがあった。Kさんがキイをつけたまま車をロックしてしまっていたのだ。しかしここではそれは書かない。

（平成9年5月8日歩く）

《コースタイム》

日向バス停（20分）登り口（20分）水呑（35分）だだ洞峠（20分）白根大島桜（20分）山の神（20分）日向浅間山（1時間）牛草山

《地形図》2万5千ｇ五ヶ所浦・脇出

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
新ハイの会目録で更に値引します。
山とスキーのヨシミ
〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231
JR天王寺駅北出口右へ歩道橋渡ってスグ

連載

日本霊山紀行 34

薬師岳

2926メートル

浅野孝一

立山方面、特に奥大日岳から見た薬師岳の偉容はすばらしいものがある。北アルプスの中にあって、その山容は雄大で、登行欲をそそられるのは私のみではあるまい。それだけに、山頂に達する行程は大変なものである。

私にとって薬師岳登頂は今回が二度目である。一度目は折立から薬師峠を経ての登頂であった。今から約三十年前のことなので私の記憶は薄れてしまっている。

日本全国に薬師岳と名のつく山は十五ほどあり、薬師山とか薬師峠を含めると、約四十近いものがある。全てその山頂には薬師如来をまつる祠がある。

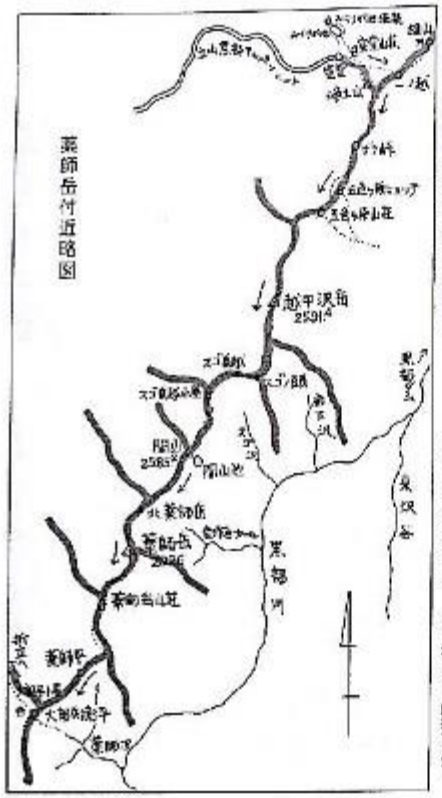
『日本山嶽志』は「薬師嶽　越中國中新川郡ノ南方ニアリ、白萩村大字伊折ヨリ九里十町、上新川郡大山村大字有峰ヨリ凡四里ニシテ其山頂ニ達ス、標高九千八百七十四尺」と記している。

参考まで登山に関する記録を記してみる。明治末期に登った田部重治は『わが山旅五十年』の中で「……道は左辺めに薬師岳の麓に向かってゐる。……祠のある頂上にたどりついて、私たちは黒部川を距てた彼方の赤牛、黒岳、さらに東沢の向うの信濃国境の……頂上の参謀本部の三角標の一部がまだ残っていて、日本山岳会の幹事辻本満丸さんの名刺がはってあるのが見出された。氏は私たちより数日早く登山されたらしい。……」。その後大正初期に田部は、木暮理太郎と二人で上高地、槍ヶ岳、三俣蓮華岳、薬師岳、五色ヶ原、立山への大縦走をしている。

北薬師岳から薬師岳を望む

深田久弥は『日本百名山』の中で、「本峰の絶頂には祠があって、その前に献納の宝剣の錆びて折れたのがたくさん散乱していた。昔、有峰が登山口であった頃、登拝の人々はそれぞれ鉄で作った宝剣を捧げて、それを頂上の祠に奉納するのが習慣だった

薬師岳山頂の薬師堂



らしい」と記している。

8月上旬、私たちは泊駅から富山行きの夜行バスに乗った。当初の私の計画は折立より入山して太郎兵衛平から往復することを考えていた。友人たちに山行の計画を発表すると三名の同行者が集り、立山からの縦走を希望するので、山中4泊5日の山行を実行することになった。私たちの逆コースを歩いた友人から、コース中の注意事項を聞いた。ハードな個所は越中沢岳からスゴ乗越の間にあると知った。

初日は室堂平にザックを預け、軽装となって一ノ越、浄土山に登ってからみくりが池温泉に泊まった。

2日目は再び一ノ越から浄土山に登り、ザラ峠を経て五色ヶ原へくだり、五色ヶ原山荘に泊まった。霧が山を包んでいたので、暑さから逃れられ、爽な山行であった。

3日目、深い霧が五色ヶ原を包んでいた。しかし越中沢岳の登りにかかると晴れてきて、北アルプス中央部の山々や黒部の谷をへだてた後立山の山がよく見えた。スゴ乗越への登山道には巨岩が積み重なり、その間をくだってゆくが、思ったより楽に歩くことができた。この夜スゴ乗越小屋は混んでいたが、ぐっすり眠れた。

4日目、晴れ。いよいよ薬師岳登頂の日である。スゴ乗越小屋は樹林帯の中にある。登山道はすぐ樹林帯を抜けて、間山に続く広々とした山稜をたどる。ふり返ると歩いてきた山々が見えてくる。ゆるい登りの右下に小さな池がある。登りついたピークは間山、そのすぐ下に間山池があった。

前方に薬師岳が見えてくる。左手には黒部川の上流が見え、その上に赤牛岳の山体が大きく見える。その右手遠くに槍ヶ岳が見えてきた。

私たちは北薬師岳への途中で昼食をとっ

たので、北薬師岳への到着時間がおくれた。しかしこの快晴、周りの風景を楽しみながら薬師岳山頂へ続く岩稜をたどった。行く手左手の金作カールが広々とした斜面に残雪を見せている。薬師岳が近づき、山頂に登山者の姿を見るようになった。薬師岳山頂へは12時30分に着いた。55分までゆっくり休み、四方の風景を堪能した。

ゆるい山稜をくだり、薬師岳山荘でうどんを食べた。さらに残雪の間に咲いている高山植物の中を歩いて薬師平へ、ここから

太郎兵衛平から薬師岳を見る

薬師峠の天幕場へのくだりが、全コース中一番歩きにくかったように思えた。この日は太郎兵衛平にある太郎平小屋に泊まった。夕方から、霧が真川の谷から昇ってきて薬師岳を包んだ。

3日目、雲の多い天気であった。ゆっくりして太郎平小屋を出発。ゆるい尾根状の山稜を折立に向かってくだった。途中薬師岳がよく見えた。折立ではバスの出発時間まで休憩所横の清水で汗ばんだ体を洗った。11時15分発のバスに乗り、有峰口駅から富山地鉄に乗り、その日のうちに東京へ戻ることができた。

（平成8年8月3日～7日歩く）

〈参考タイム〉

（8月6日）スゴ乗越小屋6・00—南山7・35～7・50—北薬師岳10・30～10・40—薬師岳12・30～12・55—薬師小屋13・50～14・10—薬師平14・55～15・05—薬師峠15・40～15・50—太郎平小屋16・30

（8月7日）太郎平小屋6・50—1875ピーク8・55～9・05—折立10・35～11・15発（バス）有峰口駅

〈地形図〉

2万5千＝立山・薬師岳・有峰湖

〔この花・この草〕

ハトムギ（Coix lachryma-jobi var. ma-yuen）

イネ科

最近の健康茶ブームのおかげで、自動販売機の商品にもハトムギをブレンドしたものが数多く見られます。

原産地は熱帯アジア。日本には享保年間に渡来したといわれ、現在も温暖な地方で広く栽培されています。

里子葉植物で、ジュズダマに似た大型の一年草です。晩夏～秋、葉腋から穂状花穂を1～3個出します。果実が緑色から暗褐色に熟したころに採取、天日干しにしたものがハトムギで、種皮を除いた白色の種子を生薬では薏苡仁といいます。澱粉・タンパク質・脂肪油・多糖類・ステロール類を含み、最近の研究では数々の薬理効果の報告がなされています。

消炎・鎮痛・排膿・利尿作用などは古くから知られており、漢方では手足の痛み・関節の腫張などに処方されます。

民間療法としては「イボ取り」として、荒く砕いたハトムギ30gを500mlの水に入れ、水の量が約半分になるまで煎じたものを一日三回に分けて服用したり、その液を直接「イボ」に塗布します。また、小麦粉のかわりにパン等の材料にも。㉔

"冒険クラブ"の山旅

"美しい森と湖沼を巡る" 北八ガ岳 9/6(土)～7(日)17,000円
"東京都の最高峰" 雲取山 9/13(土)～15(月祝)39,800円
"隠れた名峰" 四阿山～草津白根山 9/26(金)～28(日)45,000円
"秋色に染まる妙高連峰の秀峰" 雨飾山 10/10(金祝)～12(日)55,000円
"雨の少ない秋に世界遺産の島へ" 屋久島・宮之浦岳と縄文杉 123,000円
10/16(木)～19(日)・11/1(土)～4(火)・11/21(金)～24(月)
"紅葉のベストシーズン" 四国・剣山 10/18(土)～19(日)35,000円
"紅葉のベストシーズン" 伯耆大山 超格安プラン！＊6,500～7,500円
［日帰り］10/15(水)・18(土)・19(日)・21(火)・25(土)・26(日)

"やませみクラブ"の山行

＊やませみクラブは登山講師同行。山を学びながら山歩きを楽しむ初心者中心の会です。女性お一人での参加や中高年初心者の参加を歓迎します。

西穂高独標 9/6(土)～8(月)48,000円
北海道・大雪山縦走 9/13(土)～16(火)149,000円
羅臼岳～斜里岳～雌阿寒岳 9/21(日)～24(水)155,000円
白神岳～八甲田山～岩木山 10/10(金)～13(月)139,000円
吾妻山～磐梯山～安達太良山 10/10(金)～13(月)128,000円
四国・石鎚山～面河渓 11/1(土)～3(月)70,000円(往復空路)
大普賢岳～弥山～八経ガ岳 11/1(土)～3(月)43,000円
小処温泉～大台ガ原 11/8(土)～10(月)39,000円
＊他に日帰り山行も多数あります。お問合せ下さい。

"海外を歩こう"お薦めプラン

"日本航空で行くモニターツアー" 9/27(土)～10/2(木)
黄葉のカナディアンロッキー・ハイキング6日間 258,000円
＊別途資料がございます。ご請求下さい。

"韓国の名峰" 10/8(水)～11(土)
雪岳山と北漢山4日間 138,000円

"アフリカ大陸最高峰" '98.1/11(日)～25(日)
キリマンジャロゆったり登頂とサファリ15日間 588,000円
＊高度順応日を設け、日本からツアーリーダー2名が同行する安心プラン。キボハットまではプライベートポーターも同行します。

アミューズトラベル株式会社 ☎06-265-3303
〒541大阪市中央区本町4-5-3本町三井ビル2号館 運輸大臣登録旅行業第1366号

眺望の良い1等三角点

三周ヶ岳

越美

多摩雪雄

再訪の宿

平成3年10月、1等三角点の当杭ノ峰から極楽寺経ヶ北稜を菅山寺に詣で、北国街道にくだって余呉湖の旅館・文右衛門に泊まった。合掌造り大梁の部屋と食べきれない数々の料理に、「また来たいね」と太誌6号（平成4年9・10月）に発表した。今回、皆の希望をかなえるべく、荒島岳の帰途、再訪したのであった。

食堂は改装されて卓子席になったが、鮭、鮎の刺身と鯉の洗い・小鮎味噌焼・貝と魚の白あえ・牛肉と野菜鍋・大正海老フライに胡瓜とトマト添え・レタス、胡瓜とスパゲティ・ポテトサラダ・ケンチン汁・漬物。5年前よりやや劣るが、それでも食べきれないほどの量で八千円であった。おすすめの宿である。

大之本のタクシーは二台だけで、朝は8時にならないと運転手が出勤しない。そのため長浜の近江タクシーに予約して、文右衛門を6時15分に出発する。

三周ヶ岳の紀行文の初見は昭和57年10月下旬行の深谷泰さんで、夜叉ヶ池伝説を記載。次は同63年6月中旬行の佐藤節さんの名文と平成元年行の一編があるが、いずれも指梁から川上ルートである。本誌関西版16号（平成6年5・6月）では柴垣貞夫さんが、今庄から広野ルートで登っている。

単行本を除いて、新ハイキング誌上では右の四編が指針となるが、壮年健脚者の記録なので、今回はシルバー隊の、のんびり行を記すことにする。

三周ヶ岳山頂の1等点と筆者

木之本から国道303号線を、杉野川に沿う山間の集落を次々に抜け、高度をあげて北上する。国境の八草峠を越えて美濃に入り、八草川を杉林の中から真下に見下ろしてくだって行く。

ちょうど1時間で揖斐ルートとの合流点、川上集落に着く。過ぐる年、谷汲から広瀬まで通上したのに、荒天のため断念したことが思いだされる。

車は坂内川沿いに北上し、大桧尾谷を分けて池ノ又谷に入ると、間もなく石の鳥居を見る。少し先に清潔なトイレが新設されていた。登山口の広場に着く。

2万5千図上の二本車道は、752㍍地点で終わっているが、そこが石鳥居の立つ昔の登山口で、現在はそれより300㍍上流まで延長されている。豊富な水と、一段上には新設の休憩舎があり、川上からここまで30分。大型車通行可能となっていた。

朝食後ストレッチ体操をして、8時15分に出発する。登途のためにタクシーは待たせておいた。

越美国境へ

わずかの間登降して、2万5千図上の坂内村の「村」の字から流下する沢を渡る。本流左岸の高みに付けられよく踏まれた一本道の道は、始め2～3度沢を渡るので小さい降登があり、図上通りにジグザグに登って、8時45分、「あと2250㍍」の標示を過ぎる。

杉林の中、ほとんど平らな道だが、連続する小さい降登ののち、くだりとなる。8時55分通過の岐路は、正面に登る。羅龍とあと2000㍍の地点を過ぎ、再び小さい降登があって、樹林多板を数枚見る。

小沢を数多く渡るので水には不自由しない。途中10分休んでから、だいぶくだって登り返すと、正面に夜叉壁が見えてくる。また降登を繰り返して大きく登ると、9時30分、あと800㍍標示を通過する。

標高950㍍、幽玄ノ滝が右手にかかり、「夜叉廻、池上り（奥入れ）にあたり湧水にて肌を清め入水したとの伝えあり、その水は肌を若返らせ不老の効あると伝えあるも○熱の医にて所在わからず幽玄の滝といわれていたが○○○のたび不思議と出○○○のである」と、破損はなはだしい由来書が横倒しになっていた。

9時45分、滝下の浅い釜脇を渡って、ひと登りして岩壁を踏み登ると、東の岩壁に落下する数段の滝が見える。佐藤さん記す昇龍の滝であろう。

みなさんの紀行文では、夜叉壁に威圧され息をのんでおられるが、まったく、どのようにして登るのかと少々不安になった。トラロープで岩壁を伝い、ゴロ石の狭い溝を登って行き、最後に岩肌を踏み登って夜

三周ヶ岳付近略図

双ヶ池を見下ろす越美国境稜線に立った。

南西の冷たい風が吹いているので、池側の矮樹帯に入り15分休んで、10時35分出発。

三周ヶ岳へ

ハンノキとササの矮線道はすぐ深ザサとなり、連続する岩峰が行く手に立ちはだかる。夜叉壁頂部の狭い岩頭を踏むのだが、ササと低樹密生で、目のくらむ壁上の通過はほんのわずかである。第二岩峰の根を右から捲いて登り、次の小岩峰も越える。

左奥に本峰が現れ、小広く見晴らしのいい草地の1230㍍峰でひと休み。ササを分けて降登し樹草におおわれて狭いピーク1252㍍を11時50分通過。再びササを分けての平頂のくだりから登りにかけては歩きよく、ここから三つ目が1292・02㍍の三周ヶ岳である。

低木にびっしく囲まれてはいるが、小広い裸地の中央に、瑕疵のないきれいな一等三角点標石が化粧面を現している。四周の眺望もよい。時に12時25分、登り始めてから実に4時間10分かかっていた。深谷さん、佐藤さん共に3時間30分であった。

20万分の1地図にすべての一等三角点の深訪はここに終了した。

先輩者の収録

新ハイキング336号（昭和58年10月刊）深谷泰さんによる。

昔、美濃の国安八郡安次村に安八大夫という長者がおり、八人の娘がいた。ある年大旱魃にみまわれ、住民は飢渇の苦しみに喘いでいた。長者は「雨を降らせてくれたら誰れにでも自分の娘をさしあげよう」と、見回っていた田の畦に姿を見せた蛇に誓りかけた。その夜雨が降りしきり、すべてが生きかえった。翌朝一人の若い山伏がやってきて、約束どおり娘を迎えにきた。という。七番目の娘が「約束に背いては生きていられないでしょう」と、縋りかけの機具を携え、広瀬川を遡り、川上で髪を結い身を整えて夜叉ヶ池へ入った。大夫の雨乞いを受けた蛇は池に棲む龍神の化身であった。

これが夜叉ヶ池の伝説であり、少しずつ違う幾つかの伝承があるが、大筋は変わらない。（「不破郡誌」「岐のをだまき」）

また、正保四年（1647）大垣藩主・戸田氏鉄が川上に夜叉池神社を勧請し、その守護職を白龍山長昌寺（図上の寺院記号）が司どってきた。そして、安八大夫の子孫といわれる安次村石原伝兵衛を通じて潜命により、日照りの雨乞いのみならず、雨天続きに対しては快晴祈願も行なっている。（大垣藩「郡名類編」）

川上の夜叉龍神社（図上若狭の神社記号、

KOBEの登山専門店

手作りザックの店です。
心ときめき、背負いやすいザックです。

NEW
ウォーキングスナッグタイプ
●ベンチレーションサポートバンドにより背中は常に快適。
●バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。
●新案マグネットを装備、アルミフレーム内蔵。
●日帰りから一泊山行きに最適、軽く良きで実用のアタックタイプです。

カラー　ジェードXレッド、ジェードXブルー、ジェードXワイン
容量　35ℓ　重量　1,400g
素材　エスタルリップストップ
価格　¥12,000

OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBE
神戸ザック
神戸市長田区大橋町9丁目3-1
〒653　TEL(078)621-5851
FAX(078)621-3528

祭神は高龗大神＝水を司どる神）から坂内川を遡ると、椚戸谷合流点の神ヶ岳ダムに着く。此処までの途中に、夜叉姫が機具を置いた「はたご岩」と、髪を洗い直した「髪結い岩」がある。

新ハイキング405号（平成元年7月刊）佐藤節さんによる。

龍神が夜叉姫を迎える前、越前から迎えた尺羅比咩と住んでいたと言う夜叉の古池へは、夜叉ヶ池北畔の龍神祠の背後から、池の北側へ張り出す尾根に登り、尾根の背を50㍍程下った東側山腹の窪地、夜叉ヶ池北東方の図上草地記号の辺りがそれで、水は透過して越前日野川の板沢へ落ちるのか西半は湿地で、東南山際に細長く水面を見せていて、チガヤの繁立つ藪原になっている。

夜叉ヶ池

南条郡誌「夜叉ヶ池北八一程峰を渡れば古池あり、尺羅池と称す。長さ一丁、幅三十間、舟形を成し、夜叉ヶ池の清澄なる水に反し、落葉うづたかく積り……周囲山毛欅の深林に包まれ日光を洩さず、陰惨として如何にも龍神の潜むが如し」。

夜叉ヶ池

40分の昼食休憩後、離れがたい三周ヶ岳山頂を後にして、今来た道を引き返し、1時間半後に夜叉ヶ池に着いた。

池へは、夜叉壁から登り右いた越美国境稜を西へわずか登ってから、池西端へくだって行く。そこには越前側の広野からの登路が判然と、改修間もない夜叉龍神社前へ通じている。

池北側の古池への道をたどると、池に向かってまつられた青銅製の龍神社前の三宝に、御神酒と白粉・口紅等の化粧具が供えてあった。

紺碧の池面に、晩秋の冷風が渡ると、白い小波が西から東へ移動してゆく。その砂浜に立って、しばし瞑想していると、「龍天に昇る」という季語が思いだされた。

初老の夫妻がくだって行くのを見送ってから、静謐の山上池を後にしたのは14時50分。岩肌をくだり、若いカップルが登ってくるのに道を譲って、幽玄ノ滝まで30分。あとは樹林中の踏み道をゆっくりくだって、タクシーの待っている池ノ又登山口に16時20分に着いた。

列車の粉雪駅長浜まで飛ばして、その日のうちに帰京できたのであった。

（平成8年9月下旬歩く）

△コースタイム▽文中を参照
△地形図▽2万5千＝美濃川上・広野
△参考▽
○長浜近辺タクシー
☎0749（62）0106
余呉＝池ノ又登山口　約1万5千円
池ノ又登山口＝長浜駅　約1万8千円
○旅館「文右衛門」
☎0749（86）2425

静かな山旅

乗鞍岳

松田敏男

北アルプス

乗鞍岳はバスで山頂近くまで行ける。たいへん人の多い山である。だから私の頭の中には、久しくこの山の存在すらなかった。

鉢盛山という標高2400㍍台の山をある案内書で見つけて、雪のある頃にその山頂に立てば、北アルプスの展望がさぞすばらしいだろうと思い、エアリアマップの乗鞍高原を買ってみた。鉢盛山はまだ実現していないのだが、せっかく買った地図だからと眺めているうちに、乗鞍岳もルート次第でいい山かもしれない、と思い始めたのだった。岡から、あるいは西からの数本の登山道は、静かそうだ。

山の会の集会で地図を広げて行きたそうな素振りをしてみると、その中でもいちばん長いルートを辿ってみようという意見でまとまり、高橋さんの車で保田さんと私の三人が行くことに決まった。

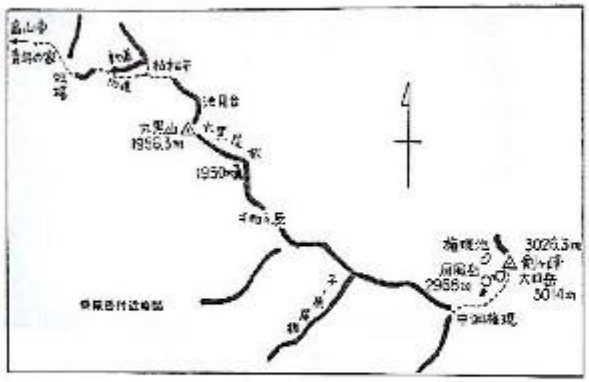
尾根上の長いルートに水場はない。山中2泊である。問題は水の重量、各自5㍑程の水を持って、ゆっくりゆっくり行きましょうということになった。ウィスキーをしっかり上乗せすることも忘らない。

未明の2時頃、国立乗鞍青年の家に着く。車の中で眠り、朝9時15分に出発した。遠くはかすみがちだが、よく晴れている。

牧場の横を登る。牛の大きな糞が木の株のように、あちこち散らばっている中をぬって行く。急登の新道とトラバースの旧道の分岐に出る。迷わずに右の旧道へ。旧道は刈り込みがしてなくて、草がかぶさり茂んだ。途中の唯一の水場を過ぎ、新道と合流する。そこは広場になっていて、尾根のようにシートがけした休憩所がしつらえてあった。人には全く出会わないのに、ゴミが少々目につく所だ。青年の家に泊まった人のハイキングコースなのだろうか。清掃をしない寂しさが周囲に漂う。

子ノ原尾根分岐より望む御岳

木の階段道という、休の動きが拘束される歩きにくい道を我慢して登りつめていく。白山展望台とか池見台とか、期待したくなる地点も、あいにくのぼんやりかすんだ天気で、視線を確認するだけだった。丸黒山の頂上は、地元の学校の登山記念のプレートや石コロなどがにぎやかにあって、遠足の到達地点を思わせる所だった。



ここからが私たちの待ちに待った登山道。木々の匂いに急に親しみを覚える。まず急激な下降があった。針葉樹の根で自然の階段道になっている。階段と言っても、あの遊歩道とやらの歩きづらい道とは大違い。幹や根をつかみながら幽寂な針葉樹林帯に分けおりていく気分は、心を透明にする。混声合唱組曲の、ある一節が心に響いた。

山が遠くから　人の心をとりこにする
人が　その心をさがしにゆく
それで　身体ごと　とりこになる

いつの間にか、まわりは霧。やさしい小径が、深い静寂の針葉樹林の中をゆるやかに、ゆるやかに登り返し始めた。まだ時間は長いが、この霧けぶる中にテントを張ろうということになり、八広い所を探しながら進んだ。丸黒尾根が南向きに方向を変えるあたり、国立公園に入る手前に、一張なら登山道をさけて張れる所を見つけた。三人用のテントに男性三人は少々窮屈なので、ツェルトのブライシートをテントにひっかけて、幹に引っ張り一人分の廊をつくった。

そこは岸の匂いに包まれる自然との融和の場だった。ウィスキーを飲むほどに、三人は自然の中に夢かうつつかの境地をさまよった。目を外に向ければ、夕闇に包まれ始めた霧の樹林。その根元にはやさしい苔の感触が。そしてチノコがそこここに濡れた傘を広げていた。手をのばしてササに触れればその香りがいっそうつややかに匂い立ち、体を包みこんだ。自然にいだかれた幸せな気分の中で、ぐっすりと眠ったのだった。

翌朝は、深い樹林の間から明るい日差しが無数の日矢となって、苔の地面を射抜いていた。重い荷物はテントに置いて、日帰り装備で出発。

少しの登りで木道の千町ヶ原に出る。霧が凍って、わずかの傾斜でも足が滑る。思わず四つん這いになり進む。木道を踏みはずしても何のケガもしないけれど、木道の下のふかふかの苔を荒らしてはいけない。しかし美事に伝わってくる冷たさは、すぐに痛さに変わる。大自然と戯れている心地よさだ。斜めからの朝日にキラキラと輝く白い木道。凛とした美しさが、人工の木道を生き生きとさせた。ひとまず霜が融けるまで、ゆっくり荷物を広げて朝食にしよう。池塘を前にして、温かい朝食をつくった。鏡のような池塘のまわりには、かわいらし

池塘と屏風岩

い針葉樹の森。まさにメルヘンの世界だ。斜めの光線に、木々の枝がくっきりと立体的に浮かび上がる。大空は真っ青。ぽっかり開いた池塘も深い青をたたえ、木々の緑を映している。まわりは、時が停まってるかのような静寂境。

9月だから、日が昇ると霜の融け去るのは早かった。先岩までのツルツルの木道が、ごく一般的な道に変わった。先に進めば、木道のそばにお地蔵様が。ここは信仰の道だったのだ。足早の男性一人にすれ違った。言葉を交わすほどもなく、今のは人だったのかしらと思ってみたりした。きのう青年の家を出発してから、初めて会う人だった。

子ノ原尾根分岐に登ると、南に御岳が大きく近く望まれた。池塘に映る姿もまた優美なことこの上なく、思わず絶句するほどの情景だった。ふり返れば、遠く白山が長く長く南北に幾つもの峰を連ねて光っていた。めざす乗鞍岳はあまりにも大きく、もう写真のレンズでは全貌がとらえきれない。緑いっぱいのたおやかな峰、乗鞍。上のほうには秋色の草紅葉が、白い岩の盛り上がりの中に映えていた。

太尾根になって中洞雛契に着いた。その少し先の大きな岩の上で昼食にした。岩の窪みには、一晩の夜露でつくられた水たまりがあった。思いがけない水の補給。ていねいにほとんど全部すくいとると、1l弱を超える水が得られて、コーヒーをたてる。気分は最高だ。目の前には、とてつもなく大きい乗鞍岳。手前には草紅葉の大縦面が、気持ちよく左の谷に続いていた。

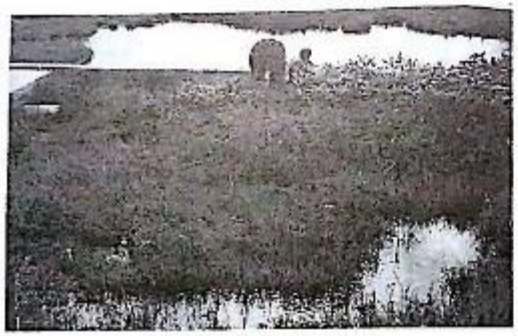
大きな岩の間をぬうような道に変わり、大空の青と乾いた白い岩肌と草の赤色が暫き合っている。先程まで感嘆のように見えていた屏風岩が、後方に遠のいていき、最後の大斜面を登っていく。

登り終えた所が、大日岳と剣ヶ峰の鞍部。目の前に権現池が見え、頂上付近には、まさに絵なりの人だかりが望まれた。剣ヶ峰へのわずかな登りに入ると、左の斜面には、頂上より大量に落とされたゴミが、濁流のようだった。錆びたカンの古さからして、長い歴史を語っている。信仰の山を、このような姿にした先達よ。心はいつしか、今までの大自然との語らいから離れて、人間界のことばかり考えるようになり、足早に登りつめた。

絶賛な観光登山者の中をかき分け、三角点を踏んだ。すぐ駆けおりるはずであったが、私たちはビールの誘いに負けてしまった。頂上小屋にはビールなどの飲み物が並んでいたのだ。しかしすぐに権現池の見える鞍部まで戻り、乾杯。

いやはや、とんでもない所だったねと言いながらも、飲み干したビールの喉ごしのさわやかさ。頂上からの展望は何も印象に残ってなかったけれど、きっと槍ヶ岳も穂高岳も見えなかっただろう。たとえ見えていたとしても、人道から並間見る山に感動があっただろうか。

すっかり青空が消えていた。空全体が薄日のたよりない白っぽさ。霧が出てすぐ近くの池もかくれかけている。あとは同じ道をくだるだけだ。登ってきた時のような、光線を浴びてすべてが生き生きしていた世界も消え失せて、単調な眺くなるようなくだりだった。しかしそのぶん、道の脇の燃え立つような赤いナナカマドなどは、そこだけが鮮やかで、登りの時よりも印象的だった。そして点々と現れ、私たちを見守るお地蔵様の表情が、いっそう心のうちに語りかけてくるように感じた。池塘も青い透明感が失せて、秋の寂寞に変わっていた。水面の白さが乾いた木道とあいまって、切ない情景になっていた。子ノ原尾根分岐には、子ノ原から往復という女性三人が休憩していた。



池塘と木道とお地蔵様

テントに戻って、長い日帰り山行に大満足の気分を味わった。二泊目の御の草の匂いが、いっそう満ち足りた気持ちにさせてくれたことは言うまでもない。残りのウィスキーを飲んで、同じ山行の喜びを分かちあう会話が、どれだけはずんだことか。

次の日、天気は持ち直していた。登りの時には見えなかった乗鞍岳が、丸黒山から池見台へくだるあたりからよく見えた。それはあまりにも大きく近く、よく登ったなあと思えてしまうほどの距離感であった。登りに見えなくてよかったねという言葉に、納得してしまうばかりだった。博快平からは新道を選んだが、木の階段道には閉口した。人のくだる呼吸を解さないつくり方にはげんなりだ。

牧場が見え出した所で、突然右手のササの中からガサガサと大きな音がした途端、カモシカが一頭登山道に飛び出してきて前方へ走り去った。牧場の牛が呼応して、聞いたことのない豪快な声をあげて数頭走り出したのには、びっくりした。その速さはかなりのもので、牛歩とはバカな人間の造語だと思った。

帰路は、以前に下呂の北の高原町より登った御前山の帰りに立ち寄った椛乃湯をめざした。椛乃湯は飛騨川の河原にある、露天湯のみの温泉である。背の高さ以上の大岩で囲まれただだっ広い湯長は、大づくりな素朴きわまりない風情だった。

頂上以外では、登山者に三日間で四人しか出会わなかった、きわめて静かな山、乗鞍岳。しみじみとした山旅を味わった、たおやかで優美な山、乗鞍岳。いつまでも強く心に残るだろう。

（平成3年8月14日～16日歩く）

△コースタイム▽

国立青年の家駐車場（5時間30分）標高1950m のテント場（10時間30分）乗鞍岳剣ヶ峰往復（4時間）国立青年の家駐車場

△地形図▽昭文社＝「5乗鞍高原」

南八ヶ岳遊遙

阿弥陀岳から硫黄岳

鷲見守康

八ヶ岳

盆を過ぎた頃、ひょっこりとFさんから電話が入った。久しぶりに山を歩かないか、との誘いである。お互いの仕事の近況を簡単に報告し合って、さて、じゃあどこへ行こうか、となった。1泊2日の日程とFさんの希望に、では八ヶ岳はどうか、と提案すると、「うん、いいね」と即決。

行く先は決まったものの、日取りがなかなか決まらなかった。例年なら、比較的天候の安定する8月下旬も変様がはっきりせず、二人の仕事の都合に天気予報を重ね合わせて日程を調整しているうちに、とうとう8月は過ぎた。

そして、ゆく夏を惜しむように、9月初旬、Fさんの車で早朝出発。名神の小牧東インターから高速道に乗り、中央自動車道に入って長野県の伊那谷を北上した。

伊那谷は、毎年、夏から秋にかけての山行で訪れている。北アルプスや南アルプスへの通り道であったり、中央アルプスのアプローチであったりだが、諏訪湖から流れ出した天竜川が開いたこの伊那谷は、木曽谷に比べて広く、明るく開放的な谷だ。何より、すぐ西に中央アルプスのピークがそびえ立ち、東には南アルプスの山並みを見はるかす爽快さがいい。

伊那谷の人たちは、中央アルプスの木曽駒ヶ岳を西駒と言い、南アルプスの甲斐駒ヶ岳を東駒と呼び慣わしている。そんな風土のなかでの暮らしに、私はひそかな憧れを抱いている。

南沢からの横岳（大同心・小同心）

中央自動車道を諏訪インターで降りてから道に迷った。私は、南八ヶ岳は初めてであったし、Fさんは、かつて一度歩いているとは言っても、もう30年ほど昔のことだ。ともかく八ヶ岳のスカイラインを目標に走り続け、7時過ぎ美濃戸口に到着した。八ヶ岳山麓の建つ美濃戸口の大駐車場は、9月初旬のウィークデーとあって閑散としていた。

身仕度を整え、美濃戸へ向け出発。歩き始めてすぐ、アカマツとシラカバの混生する林に入った。共に広葉樹の中にパイオニア的に育つ樹木だが、標高により住み分けているものとばかり理解していた私には、実に不思議な風景であった。

ガイドブックなどでは、美濃戸口から一般車の通行は不可とされているが、実際には奥へ奥へと車が進入しており、数軒ある山小屋には有料駐車場も整備されている。結局、美濃戸山荘まで車の進入は可能で、山荘付近にも駐車場があった。料金も美濃戸口と同じく1日500円である。夏の混雑期ならともかく、きょうのような日なら登山者も少なく、美濃戸山荘まで何なく車で入れるようだ。

山荘で休憩して、南沢ルートをとった。亜高山帯針葉樹林の中を歩く。オオシラビソとシラビソが多く混生しており、両者を比較する絶好の機会だ。図鑑には、両者の区別点として、樹皮の相違や若枝の毛色の相違などがあげられているが、現実に野外でそれらの識別をするのはかなり困難なことである。枝葉の付き方で区別するほうが実際的だ。オオシラビソの葉は、枝が見えないほどびっしりと密生している。

プロムナード気分で、Fさんに針葉樹の説明をしながら進んでいくと、やがて前方に険しい稜線が見えてきた。横岳のようだ。

美濃戸口から3時間ほどで行者小屋に到着。小屋前の広場でティーブレイク。晴れ渡った空の下に、阿弥陀岳・赤岳・横岳がくっきりと姿を見せている。その意外なほどこじんまりとした山容に、私は驚きの声を上げた。

「アルプスなんかに比べると、まるで箱庭のようでしょう」とFさん。

遠くから望む八ヶ岳連峰は、裾野を長く引いた雄大な山脈を印象づけているのだが、こうして山懐に入ってしまうと、実にコンパクトにまとまっている。

行者小屋から阿弥陀岳をめざす。オオシラビソとシラビソ、そしてコメツガの針葉樹林帯を過ぎるとダケカンバ、ミヤマハンノキなどの広葉樹が続き、まもなく岩と赤土の稜線に達して中岳とのコルに出た。

休憩がすぐれないのか、途中から遅れぎみのFさんは阿弥陀岳の登頂をあきらめ、コルで昼食をとった後、先にゆっくりと赤岳に進むという。私は、ひとり阿弥陀岳へ登る。滑りやすいザレの急登だった。

阿弥陀岳山頂は、私一人だった。頭上は晴れて、赤岳から硫黄岳まではよく見えるのだが、遠くは雲に遮られて見晴らしがきかず、南の権現岳あたりからは繰り返しガスが立ち昇っていた。

この山頂で昼食をとり、缶ビールを飲み干す。春から秋のビールのうまい季節はたいていビールを持参し、昼食時に味わって

いる。時に酒好きと誤解されるが、実は私は、アルコールはあまり体質に合わないし、晩酌もしない。しかし山での飲食は、すべからくおいしいので、いつしか350㎖缶の缶ビールを口にするようになった。

いつか登山のベテランの知人と一緒に歩いたとき、晩酌をしなければ眠れないというほどの酒好きのその人から、山を歩行中の昼間は決して飲まないと聞き、「どうして?」などと愚馬な質問をしたことがあった。知人の「安全が第一だから」というきっぱりとした答えに、飲みかけの缶ビールを片手に絶句してしまったものだ。

赤岳の登りは、アルコールの入った体には多少しんどかったが、絶景を抜けた山頂で、先着していたFさんに合流。ガスが立ちこめ、展望も悪くなったので、そそくさと頂上小屋に入った。

赤岳

小屋の受付はアルバイトの女子大生で、女子短大助教授のFさんは、教え子と呼ぶような親しさで手続きを済ませた。小屋は宿泊客もまばらで、時刻はまだ14時前。山を歩いていて、こんなにも時間に余裕ができたのは初めてである。小屋には生ビールが置いてあると聞き、私たちは、早速食堂で注文、ガスが切れだした赤岳頂上からの壮大な展望を肴に、ゆったりとくつろいだ。

夜、快晴となり、星々が降る。外に出ようというFさんの誘いに、広場のベンチに腰を下ろす。東に佐久平、西に茅野市の夜景が広がり、山麓まで街が迫っていることを改めて実感する。

昨夏、燕岳から常念岳までの縦走山行のさい、初日に宿泊した燕山荘の夜、空に満天の星と眼下に安曇野の灯がまたたき、心が和んだものであった。

昼間見た阿弥陀岳が驚くほど低く見え、Fさんと互いの目を疑う。翌朝の阿弥陀岳も低く見えたことからすれば、前日の高さがどうやら目の錯覚だったようだ。

Fさんも私も永年社会福祉の仕事にかかわってきたため、話題は当然のように仕事のこととなる。やがて、山や自然の話へと発展し、私が自然保護の活動にひかれた事情をFさんが興味深げに尋ねた。

「社会福祉も自然保護も、今の社会の経済至上主義的な価値観と根本的に対立しているからだと思う」。私の返事に、Fさんは黙ってうなずいていた。

2日目、6時半すぎ小屋を発つ。赤岳から見下ろした稜線には西から東にガスがかかり、川の流れのように見える。早朝のさわやかな冷気の中、さんさんと降り注ぐ陽光を浴びての稜線歩きは、心が踊る。縦走の醍醐味というべきなのだろう。

山頂から一気に下降して、赤岳展望荘の前に出た。頂上小屋との営業合戦なのか、大きな看板にバイキング料理とか、シャワー付きだとか、各種イベントを開催するとか宣伝をしている。バイキング料理とか各種イベントの開催などはともかく、こんな高山の稜線でシャワーのサービスなんて必要なことだろうか。Fさんも私も、軽い違和感を抱きながら、展望荘の横を通って横岳へ進んだ。

横岳への岩稜歩きは楽しく、コンパクトな南八ヶ岳を大きく感じたが、横岳に至り、赤岳や阿弥陀岳をふり返って見ると、再びコンパクトな姿に戻っていた。

横岳主峰からの大同心、小同心の偉容はまさに圧巻である。草原に吹える獅子のように迫力に満ちていた。

横岳から硫黄岳のコースには、斜面に花の終わったウルップソウ、大ダルミには咲き残ったコマクサが広く群落をつくっており、植物相の豊かな八ヶ岳の夏の最盛期の華やかさがしのばれた。

南から眺める硫黄岳は、たおやかな広い頂上部をもった山だが、北面にはすさまじい爆裂火口壁があり、そのあまりに対照的な様相に驚かされた。

風の吹き始めた広い山頂でコーヒーブレイクをしたが、いつしか濃いガスに包まれ、体温も下がってきたので休憩を早めに切り上げ、硫黄岳をくだって赤岳鉱泉におりた。再びガスが晴れ、仰ぎ見ると大同心と小同心とが間近に迫り、その景観は、まさに合掌する法師の後姿そのものであった。

大休止の後、北沢ルートをとる。北沢の樹林帯歩きは、谷が明るく開放的で、八ヶ岳のよさをしみじみと感じさせてくれる。

正午過ぎには美濃戸山荘に戻り着き、Fさんと生ビールで乾杯。夏の終わりの、のんびりとした心豊かな山旅を終えた。

（平成8年9月3日～4日歩く）

△参考タイム▽

（1日目）美濃戸口7・30—美濃戸山荘8・30—行者小屋10・40～11・00—中岳とのコル11・45—阿弥陀岳12・10～12・40—中岳とのコル12・55—中岳13・05—文三郎尾根分岐13・25—赤岳13・50

（2日目）頂上小屋6・35—横岳7・55—硫黄岳9・00～9・20—赤岩ノ頭9・35—赤岳鉱泉10・35～11・05—美濃戸山荘12・40～13・30—美濃戸口14・25

△地形図▽昭文社＝「17八ヶ岳・蓼科」

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 燕岳槍・常念岳
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 奥秩父高原
7 剱岳山
8 中央・南アルプス総図
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・赤石・聖岳
12 妙高・戸隠
13 志賀高原・草津
14 軽井沢・浅間
15 西上州・妙義
16 美ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 奥武蔵・秩父
26 奥秩父1 雁坂峠・甲武信岳
27 奥秩父2 金峰山・甲武信岳
28 谷川岳 谷川・茂倉・武尊山
29 燕岳三山 燕岳・常念岳
30 尾瀬
31 日光 男体山・奥白根
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豯山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 越後 粟ヶ岳・米山・角田山
38 飯豯・朝日
39 八幡平 岩手山・十和田湖
40 十和田湖・八甲田・奥入瀬
41 ニセコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 白山
44 霊山・伊吹・鈴鹿
45 御在所・鎌ヶ岳
46 比良山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北陸の山々
51 六甲・摩耶・有馬
52 奥越高原・二上山
53 金剛山・岩湯山
54 紀泉高原（休刊中）
55 奥高野（休刊中）
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
58 赤目・倶留尊高原
59 氷ノ山 氷ノ山・神鍋
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 福岡の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・傾
66 椎八重・霧島・屋久島

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くだいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(303)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・東京・千葉・浦和・立川・新潟・金沢・名古屋・京都・広島・福岡

連載

1等三角点峰（500㍍以上）548座完登の記録（第3回）

三角点を登る会を今西博士と創立

坂井久光

大峰の池郷川での小屋焼失事件以後、ますます山に対する情熱が燃え広がった。装具を焼失したのでしばらくは山行もままならない状態であったが、ボーナスが入り、装具もいちおう整えてからは、もはやだれも私の山狂いを止めることができないようになった。それはあたかも伝染病にかかったごとくで、まさに今西博士のパイオニア的ピークハンターのウィルスに感染したかのようであった。

その当時は、山での食料を現地調達する一手段としての渓流釣りが、安月給の身にとっては大いに実益になった。また趣味としても近郊の渓谷はもとより、近畿一円の河川を釣り歩き、「ノータリングクラブ」の創立に参加し、ツチノコの探求と渓流魚の保護増殖というスローガンに魅ひきされた。山本素石・木村落釣・天子山人・松岡枕流・本野漫楽らと知り合い、交流は今に続いている。

子どもは始めはヤマメを喜んで食べていたが、ついに飽きたのか、変がいろいろと料理を工夫しても食べなくなった。

顧問には、知り合ったばかりの今西博士になっていただいた。先生から「岩魚と山女魚」という題の小冊子を頂戴したこともあり、渓流魚の分類や棲息域の調査等にも熱を上げた。

美大教授の奥村厚一氏のお世話で、伊藤さんや美大生の新道さん（現奥山新道氏、JAC会員・著作名人）と白山に登山し、御岳

神童子谷遡行（御勢先生と私）

衣ダムへ下山ののち、タクシーで岐阜駅まで走り帰った楽しい思い出もある。森本次男先生を京交山岳部の会員に紹介して、下鴨寮でイノシシのすき焼きを食べながら飲み会を持ったこともある。今は「京都山岳会」と森本・奥村両先生のありし日の姿が偲ばれる。

「山と渓谷」誌に京都北山の記事を書いたりしていたが、その頃、「泉州山岳会」の会長である中西政一郎氏を森本先生から紹介され、『近畿の山』に愛宕山や北山を書き、のちに京都盆地の山々を書いたり、森本先生著の『比良連峰』にも一部分だがお手伝いしたりした。

「北山クラブ」会長の金久夫妻とも親しくなり頭巾山を始め、北山一円の山々をいっしょに歩き廻った。

京交山岳部の夏山登山では、槍ヶ岳・穂高岳・白馬岳・御岳などに登った。

それまでは単独行は少なかったが、森本先生や奥村先生から一君はいつまでも金魚のフンのように人と連なって登るのは止めたほうがよい」と過大な評価をしてもらった。やがて単独行や、リーダーとなって未知の山々を登るのがおもしろくなってきた。これも今西博士のお伴で、全国の山々を登るようになってからであり、今西イズムがいつしか私に浸透してきたのであろう。

その後、今西博士が毎年干支に因む山を登る会、「十二支会」を発足されたが、女性は年齢を問わず、男性は四十歳以上が入会の主条件であった。なるべく冬山岳会からは一、二名までの入会との会則だった。私はその頃、三十歳台だったので自習いとして参加したのが、卯年の赤元山が初めてであった。鳥ヶ湯で一泊して初めてイワナの刺身を食べたこと、ツチアケビや、マユミの赤実、そして雪山だったことを憶えている。以来、各地の岳人との交流が広がり、博士の作られた会に入会することにより、ますます全国登山の足がかりが出来たのだった。

やがてリーダーとしての山行が多くなり、部員から「これは何か」との質問をよく受け、草木を始め山に関するあらゆることを訊ねられるようになった。浅学非才の私には答えることができず、図鑑を買ったり「京都山岳会」に入会したり、茶花の先生について廻ったり、いろいろと手段を講じて知識を深めていった。

ツチノコの探求にも力をそそぎ、森本先生にすすめられて「山村民俗の会」にも入会した。

この頃の山行は、渓流遡行が多くなり、大峰の山上ヶ岳も森さん（京都山岳会）と御勢先生と同行した。神童子谷を遡行してレンゲ坂峠を経て登頂した。途中ガマ滝で一泊。胸まで浸る深淵を通ったり、ヘツリの高捲きもあり、つらかったが思い出の多い山行だった。また紀廻ヶ岳へも、現在ダム底になっている道で一泊し、旭川を遡行してシャクナゲのやぶを大沢君（京交山岳部）や田代君（京都山岳会）と切り開きながら千丈平に出て登った。前鬼へくだり一泊してから翌日帰京した。

大台ヶ原山も五條高校の生徒と御勢先生に同行して、河合から入り、ザンギリ峠から坂本泊まり、翌日は東ノ川を遡行した。高捲きや徒渉の連続で大蛇嵜の下で野営。翌日はシオカラ谷出合まで遡行して野営。翌日は東の滝を高捲いて日出ヶ岳へ登ってドライブウェイにくだり、バスで帰京した。

その頃は坂本ダム建設中で、坂本には工事小屋がたくさん建っていた。当時の清烈な東ノ川源流の深淵や地獄ノ釜滝の壮観、カモシカとの出会いが今でも懐かしく、大峰や台高の渓谷は、山水画を思わせる美しさがあり、これらの経験は以後の山行のよい肥やしになった。

1等三角点ではないが、今西博士と池郷川からめざした中八人山（2等三角点）へ松浦勇次氏と行った。温泉地温泉から山越えをして大野に出て途中野営。翌日芦廻瀬川源流の白谷を遡行して、大帰り、狼畑の難所を越えて中八人山へ登頂した。石仏山を登って険しい谷をくだり熊川へ出て、

風屋ダムから奈良交通バスで湯原へ。中八人山へは今西博士一行に次いで第二登であったと記憶している。

「京都山岳会」のリーダーとして松浦さんや女性二名と温見（ぬくみ）で一泊し、温見峠から能郷白山をめざした。ネマガリダケのひどいやぶで午後4時になっても登頂できなかった。山頂の手前から小谷をくだったが、女性一人が足を痛め、途中で日が暮れた。松浦さんのヘッドランプ一つを頼りに休んだり歩いたりして、やっと大河原の営林署小屋に着いたのは翌日の未明午前2時であった。朝まで泊めてもらってから能郷へ出て始発バスで帰ったこともあり、今では楽しい思い出として残っている。

松浦さんと伊藤潤治さんと三人で揖斐川源流の赤谷を遡行して、ウソ峠から家郷（かごう）川（3等三角点）を往復する。そして道谷へ

大峰駅近ケ岳（田代君と私）

だり、オジロミ谷をつめて金草岳（2等三角点）に登り、芋ケ平から今庄経由で帰京の予定で出かけたが、車の便が悪く、塚集落で一泊し、翌日梨木平（3等三角点）に登り、その翌日ヒン谷から大ボラ谷に入り、山本小屋を経由して木原林業小屋から、岩峰の雛岳・冠山へシャクナゲのブッシュをこいでめざした。その日は伊藤さんと二人だったが、バンドに登ってから東へトラバースして、ルンゼを登って登頂した思い出がある。その時『樹林の山旅』に出てくる案内人の山本盛治老に会ったことは幸運だった。七十歳を過ぎているというのに、四十歳の後妻と暮らし、中一と小学生の子どもがいた。それを帰ってから森本先生に話したら、驚愕され、「その元気さがうらやましい」と言っておられた。

昭和四十年の春頃だったと思うが、京都市交通局下鴨寮での宴会の後、顧問の今西博士が、伊藤潤治、和崎十二支会会長、吉村比佐十二支会事務局女史、高木雅子女史（日本山岳会員）と私の前で「私は京一中時代から三角点のある山（標高四百以上）を五百以上登ることを念願としてきた。そこで諸君のうちで年間に三角点のある山を十以上登る意志のあるもので会を作ろうではないか。たくさん登った人は賞賛され、少ない人は激励されるような会を」と話され、みな「それはおもしろい」と言って即座に賛同した。初めは十人程度だったが、だんだんとメンバーが増えて現在は百人以上になり、事務局は日本山岳会岐阜支部会員の小西利雄氏宅におかれている。

年二回会合があり、6月は京都、12月は大垣で開催される。初めの頃は少人数だったので、会合では今西博士が、各人の登頂山名を見て「これは良い山だ。この山はつまらん」とか批評された。1等や2等の三角点はフリーパスだったが、3等の無名峰は時々「これはあかん」と言われたこともあり、会員にみな1、2等三角点に興味を持った。

しかし、地図にはその等級の表示はなく、登ってみなければ判らない状態だった。20万図には1、2等が表示され、50万図は1等のみが表示されていると聞いて登ったが、不正確なことが判った。また会合では番付表が作られた。今西博士や伊藤さんが東西の横綱を張われ、競争意識が芽生えますます山キチの道をつき進むはめに陥ったのは、私にとって幸か不幸か、いろいろと意見の分かれるところである。

〈手紙に寄せて〉

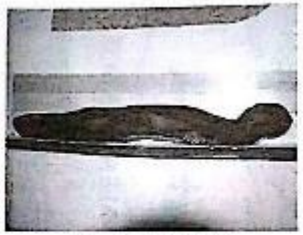
坂井　久光　様

モンゴルでツチノコを見た！

奥田　英一郎

と言ってもそれは剥製だったのですが—。

すっかりごぶさたしました。いつか仲西政一郎さんの『近畿の山』出版記念の席でお会いして以来でしょうか。それからもどこかでお会いして、飛騨の山のことなどをお聞きしたこともあったようですが、その時、確かツチノコのことも話題にしたようでしたが。



ツチノコ（？）の剥製

体が太くて短かく、わらを打つ木槌の柄のよう……北山とか奥美濃、あるいは大峰あたりでも目撃した人がいるとかいう話でしたが、その後、新しい情報などはいかがでしょうか。

実は一昨年の夏、モンゴルへの旅で、南ゴビにあるイヨリンアム峡谷（鷲の谷）への途中に立ち寄った小さな博物館でツチノコらしいものを見たのです。南ゴビは古生代から中生代にかけて生存していたという恐竜の玉子の化石が発見されたところです。赤茶けた岩肌の崖っぷちに立って心を高ぶらせました。

翌日、〝草の海〟を車で突走って約4時間、小さな駅舎のような博物館に寄りました。そこで豹や狼と共に変わったへびの剥製を見たのです。全身茶褐色で、胴の太さは6～7㌢、長さは80～40㌢で尾は特に目立たなくて、頭部の目と胸部の骨ははっきりと見え、全体は棒鱈のようなものでした。これがへびだと聞いたとき思わず、〝えっツチノコだっ〟と直感的に思ったのです。実物を知らないのに、そう思ったのです。ロシア文字で名が記されていたのですが、案内嬢はただ〝へび〟と言うだけでした。

モンゴルにもしツチノコがいたとすれば日本にツチノコがいてもおかしくない。日本列島が地殻変動によって大陸から切り離される以前にツチノコがいたとすれば—と思ったのです。

もっとも、新生代のナウマンゾウの化石が日本でも発見されたからといっても、ツチノコが当時生存してたいかどうかは分かりません。ツチノコの化石については聞いたことがありませんから。

地球の何万年か以前の話はともかく、ニホンオオカミが生存していたように、ニホンツチノコ？　も生存していたのでしょうか。ニホンオオカミが絶滅したのは伝染病によるものとか聞いていますが、病気に関係のないツチノコはまだどこかにひそんでいるのでしょうか。

モンゴルで見たのは似て非なるものかもしれません。が、剥製にしているところをみるとモンゴルでも珍しいへびだったのでしょう。写真を添えましたのでご教示ください。

イヨリンアム峡谷は万年雪の帯が流れに沿って続いていました。それにしても、この谷氷はいったい大陸のどこへ流れて行くのでしょう。尻無川となって広大な大地に吸い込まれて行くのでしょうか。

ツチノコよ、おまえはどこに消え失せたのか。それとも、おまえはもともと「幻のへび」だったのだろうか。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑥④

男鬼の山を歩く

イブキ・イワス・比婆山

霊仙山の前衛の山、男鬼カルスト台地は700㍍以下の低山地帯でほとんど歩かれていない。特にイワス（原石山）は石灰岩を採掘した鉱山跡の白い岩壁がそそり立ち、山頂からはすばらしい眺望が得られる。そして比婆山は伊邪那美命の古陵だとも言われ、比婆大神の聖なる森で、深い樹林の中には白い石灰岩の巨岩が重なり合って鎮座している。近江富士原説もあり、古代のロマンが漂うすばらしい山だ。

芹川沿いに河内線を進み、横尾への分岐を右に見て回り込むと前方急斜面に屏風岩の岩壁が望めた。廃校の上の広場に車を駐め引き返す。

右に小屋があり、その横から山腹を斜めに登る古い道があった。この道を登ると疎林の急斜面にはナンテンやアオキなどの灌木の中にシャガとヤマブキが咲き乱れ、イチリンソウやニリンソウの花も続いた。

湿れ谷に近づくと道が分かれた。屏風岩の道標に従い左にとると、屏風岩の真下で道が分かれた。左折して谷の横を折り返し登る。なお屏風岩は白と黒の岩壁がオーバーハング状に屹立し、最近はロッククライミングの練習場になっている。谷の源流を左に渡り、登りつめると舗装道路に出た。右折して後谷に向かう。

道路脇にはヒトリシズカとキバナイカリソウの花がひっそりと咲いていた。杉林に変わると道が分かれた。右は屏風に行く道だ。直進して後谷の集落が見えてくると、その奥にイワスの白い岩壁が望めた。村を過ぎて杉林の山道に入る。流れに沿って道が続き、周りにはワサビの白い花があった。大雪で太さ約20㌢もある杉が何本も折れ谷を塞いでいた。

砂防ダムを過ぎると谷が分かれた。左の谷を登ると伐採された明るい谷に変わった。雑木の斜面から左の尾根にのり、右に登りつめるとイブキ（△550・4㍍）の山頂に着いたが、樹林の中で展望はない。ひと休みして左の樹林との境目をくだり右に回り込むと、カレンフェルトの岩が続く疎林に変わった。杉林の鞍部から登り返すとイワスの旧鉱山に通じる林道に着いた。

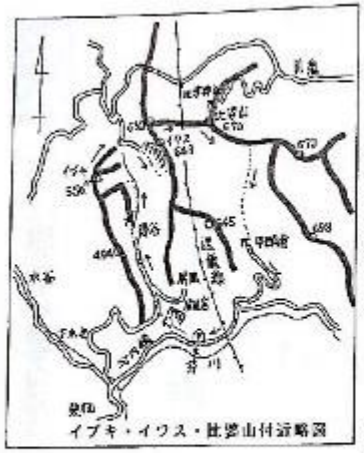
イワスよりイブキを望む

林道を右に登ると次第に展望が開け、イワスの下の採掘した広場に着いた。広場の左は切り立った白い岩壁が続き、奥に鉱山の廃屋がある。その横を過ぎると岩壁の上に登る道があった。登りつめカヤ原から廃屋の横を過ぎると、送電線の巡視路に出た。左折すると広い草原の山頂部の左側は、石灰岩を採掘した跡が段状に続き、アカ松と雑木の中にカヤ原が広がった。右に比婆山から東に続く尾根、奥には霊仙山が巨鯨のような堂々たる勇姿を見せていた。巡視路から左折して岩壁の縁の松林をたどると、

イワス（618㍍）の山頂に着いた。

岩壁の上からは下界の景観がパッと開けた。真下に鉱山の広場と廃屋、その下の谷には後谷の集落が見える。見下ろす高根市街の先には琵琶湖が春霞の中に消えていた。

ひと休みして巡視路まで引き返し、左折して杉林におりると眼鏡が現れた。その眺に歩を出したばかりのタラの木があった。最高にいいものを約二十㌢ほども摘むことができた。杉林をゆるく登り、右におりて登り返すと鉄塔の下に着いた。正面に比婆山がそびえている。雑木の尾根から杉林を急登するとササにおおわれた比婆山（670㍍）の山頂に着いた。



雑木とササで展望はない。左折して比婆神社に向かう。ゆるくくだり、ササが切れると広い台地になって、大きく茂る疎林の中にカレンフェルトが続いた。右の広い尾根をくだると左斜面に杉の大木が二本見えてきた。この杉に向かって回り込んでくだると比婆神社に着いた。白い巨岩を背にした古い社がある。周りは樹林が深く茂り、石灰岩の巨岩が重なり合って鎮座していた。

お参りして休んでいると、長浜から来たという熟年の夫婦に会った。先祖から代々引き継ぎ参拝しているとのことで、この神社の由来についていろいろと話を聞くことができた。伊邪那岐命の神社は伊吹山の麓にあると言われた。鳥居の前の広場で伊吹山と琵琶湖を眺めながら昼食にした。

食後、比婆山まで引き返し、甲頭倉の北に派生する尾根の取り付きを探す。ササやぶの中に紐の印があり、尾根にのることができたが、右斜面に植林が続き古い道は消えかけていた。いったんくだって登り返したピークから右折して、植林と雑木の境目の切り開きを谷に向かってくだる。谷が近づくにつれ斜面は急になったが、左の疎林の中の灌木を手がかりにおりると谷の他道に着いた。左折して谷をくだると巨大な砂防ダムが右の谷と左の枝谷に現れ、その間をくだり、甲頭倉の集落に着いた。

V字形に切れ込んだ急斜面の谷間に家並みが続くが、人の気配は全くない。明るい谷の村は静寂そのもの、道の斜面にはオドリコソウの群生が続き、淡紅色から白色の花が乱れ咲いていた。またヤマブキの黄色、イチリンソウやシャガの白い花なども愛でながらくだり、河内線に出て右折すると間もなく廃校の広場に着いた。

（平成9年4月20日歩く）

△コースタイム▽

廃校広場（30分）舗装道路（20分）後谷（15分）谷分岐（20分）イブキ（15分）林道（10分）採掘広場（25分）イワス（35分）比婆山（10分）比婆神社（10分）比婆山（50分）甲頭倉（40分）廃校広場

△地形図▽

2万5千＝高宮・彦根東部

昭文社＝「44霊仙・伊吹・醒原」

（岩野　明）

エリア別 徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑥⑤

安原から 鍋尻山・地蔵峠

鍋尻山は標高600㍍のカルスト台地に鍋を伏せたように盛り上がり、優美な姿を見せている。この山域の中央を東西に五僧越（鳥越峠）の街道が通り、鍋尻山はその中心的な集落である保月の裏山にすぎない。南側は台地状に大きく広がっているが、北の権現谷と西のエチガ谷側は切り落としたような急崖を連ねている。

保月まで車で入ると手軽に登れる簡単な山だが、それではこの山域の良さは分からない。安原から鍋尻山に登り、保月にくだり、地蔵峠を往復してから草花を愛でながら古い街道と権現谷の渓谷を歩いてみた。

河内線を進み、「河内の風穴」を過ぎると道が分かれた。右折して権現谷の入り口の安原に車を駐めた。谷の右には急峻な山肌が迫っていた。橋を渡って左折し川に沿って進むと、杉林に変わり右の急斜面に古い道が見えた。この道を登ると杉林にシャガが群生し、白地に紫と黄色い斑のある花が咲き誇っていた。折り返しながら登ると左下の深く切れ込んだ権現谷の入り口に「口の権現」の大杉が望めた。山腹にはイカリソウが群生しているが花は終わっていた。

自然石の急な石段が続き、杉林から雑木林に変わった。ツクバネウツギとイワガサの白い花が現れ、尾根に登り着くと風穴からの道が右から合流した。左折して鍋尻根をたどると左下には権現谷、右下にはエチガ谷の急崖、その上に鍋尻山が大きくそびえていた。

大きく茂る樹林に変わると杉の大木が二本現れ、その間には石の地蔵が鎮座していた。ウグイスの鳴き声を聞きながらひと休みする。

杉林に変わると太さ20～30㌢もある杉が今冬の大雪で折れ、何本も横たわり無残な姿を見せていた。踏み跡が消えたが適当に進み、雑木の急斜面を登ると、左下から山腹を斜めに登る古い道があった。右にとると杉林の手前で道が消えた。左上に尾根が見えたので急斜面を直登すると杉林に変わり、右斜めにゆるく登る。前方が急に開け、岳の峠のカヤ原に着いた。

地蔵峠の手前から見た鍋尻山

左折してカヤ原が広がる広尾根をたどる。昔はこの峠一帯で畑作が行われていたと聞くが、ウリハダカエデの球林に変貌していた。そのなかにクサボケの赤とレンゲツツジの朱橙色の花が混じっていた。岳ノ畑（696㍍）の山頂はカヤ原の中に苔むしたカレンフェルトが点在していた。後方には新緑の鍋尻山が大きく盛り上がっていた。

岳の峠まで引き返し、右斜面の樹林を登ると、トリシズカやニリンソウなどが続き、次第に急斜面になった。岩の間を登りつめると、雑木の中に広場があり、鍋尻山（△838・5㍍）の山頂に着いた。

展望はなく、周りの木にはアケビがからみついて大きく茂り、淡紫色の雄花と紅紫色の雌花が一緒に咲き乱れていた。ひと休みして広い山頂部を西に向かうと、カヤ原に変わり西端に着くと一気に開放感が広がり、目の前に北鈴鹿の雄峰が展開した。

急斜面のくだりにはヤマツツジが点々と咲いていた。杉林に変わり、前方に明るい舗装道路が見えてくると、保月の八幡神社裏の林道に着いた。最近出来たばかりの林道は三本のケヤキの間を通っていた。そのうちこの巨木は切り倒されるのだろうか。

五僧越の街道に出て舗装路を右折すると道路脇にはシャガとヤマブキの花が続いた。道路の中央に何かいる。近づくとタヌキが車に跳ねられたのか、のびて横たわっていた。ハエがぶんぶんと集まっていたが、道路脇の杉林に移す。ゆるく登ると地蔵峠に着いた。三本の巨大な杉が茂り、その根元の石灰岩の上に立派な地蔵尊の祠が鎮座していた。「乳地蔵」とも言われ、拝めば乳が出るとの信仰が今も残っていて、供花は絶えないようだ。

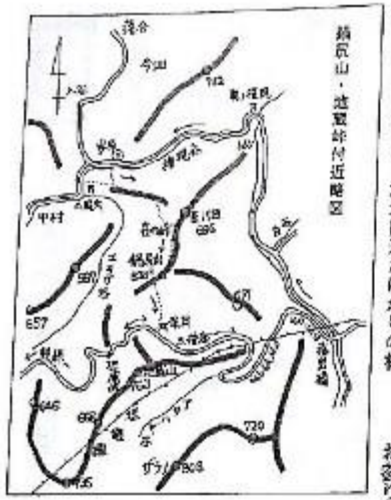
お参りして保月まで引き返し、眼西寺のお堂で昼食にする。保月の地名は鍋尻山にかかる名月に由来すると言われている。ここは無人の集落ではなく、冬期以外には住んでおられる家もあるようだ。

食後、街道を東にくだる。ラショウモンカズラ・オドリコソウ・イワカガミ・ニリンソウ等の花々を愛でながら新緑の道をのんびりとくだった。落石橋を渡り左折して白谷林道を右に見送り、「焼け地蔵」の大杉を左に見ると、谷は次第に狭くなり、両岸の断崖絶壁が頭上に迫ってきた。咲谷の新緑を楽しみながら権現橋を渡ると、右の谷に大杉と「奥の権現」の鳥居が見えた。谷におりて奥の権現に参拝した。

左に口の権現の大杉と鳥居が現れた時、上から軽ジープがゆっくりおりて来て私の横に停まった。保月の人で彦根まで行くとのことで、安原まで便乗させてもらう。

いろいろ話を聞くと、八幡神社の屋根が腐り雨漏りがひどいため、修復費の寄付を集めているがなかなか集まらない。若者も寄りつかなくなってしまったとか。結局神木ともいえるケヤキの古木三本を売ることにした。八百万円程度かかると言われた。

（平成9年5月13日歩く）



△コースタイム▽
安原（25分）支尾根（20分）石の地蔵（40分）岳の峠（20分）岳ノ畑往復（30分）鍋尻山（35分）保月（30分）地蔵峠往復（40分）落石橋（40分）奥の権現（35分）安原

△地形図▽
2万5千＝高宮・彦根東部・篠立
昭文社＝「鈴鹿山・伊吹・藤原」

（岩野　明）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑥⑥

向倉から 向山と高室山

高室山・鎌尻山山系は600㍍を超す丘陵地帯が台地状に広がっている。その中でススキとササにおおわれた高室山は丸く盛り上がり、優美な山容を見せている。芹川の支流エチガ谷の上流の室ノ谷林道は、現在高室山の北西斜面の約750㍍の山腹までのびている。車を利用すれば気軽に登れる山になってしまった。

芹川の南の山腹に廃村となった向倉があるが、この向倉から同じく廃村になった杉に通じるノボリオに古い道が残っている。今では人が通らなくなった古い道を歩いてみると、うっそうと茂る樹林の中に落ち着いた道が続いていた。

向倉の登り口には洞窟もある。杉峠の大杉。そして向倉の井戸神社の県指定自然記念物のカツラの巨木は、主幹から大小十二本の幹が林立している。その姿は実に壮観だった。

河内線を進み右下に廃校を見送ると間もなく向倉への分岐に着いた。右折して橋を渡り、急坂を折り返し登りつめると向倉の車道終点に広場があり、車を駐める。家屋は廃村となって倒壊がかなり進み荒廃していた。

広場の左奥から倒壊した家を乗り越えて登ると、杉木立の中に地蔵堂があり、その広場の手前から右の杉林に続く古い道を登る。リョウメンシダが群生する杉林にはミヤマカタバミの白い花が咲いた。台地状の平地に着くと大岩の上にケヤキの大木が岩を抱くようにして大きく茂り、その根元には花を活けるプラスチック製の筒が置いてあった。この道を利用した人たちが花を供えお参りする岩のようだ。

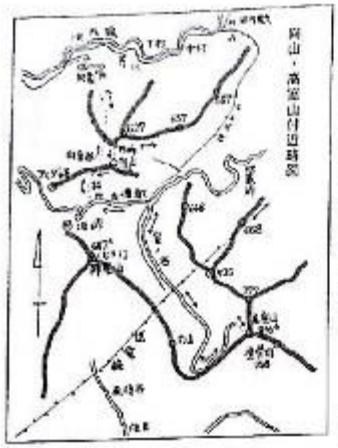
やがて深く茂る雑木林に変わり、掘り込まれた深い溝状の道が続いた。あまり人が通らなくなった古道には倒木や朽れ木、そして落ち葉が深々と積もっているが、道は消えることなくはっきりと続いていた。尾根に出ると冬枯れの樹林の先に杉峠の大杉が望めた。山腹を右に回り込むと明るい樹林の斜面にはヤブレガサの大群落が続いた。杉林に変わり登りつめると道が分かれた。右は山腹を巻いて杉に向かう道だ。左折して登ると杉峠の台地に着いた。杉の巨木が

高室山

一本大きく茂り根元に石仏がある。

この山域には大杉がかなりある。アミダ峠の大杉、地蔵峠の大杉。なかでも杉坂峠はイザナギの大神が天から降りた所と伝わり、そのさい地面に突き刺さった杉の箸が成長して大木になったと言われている。多賀大社の神木は樹齢11・9㍍と県下で最大の巨木である。これらの大杉は地下深く根を張り、何百年も悠然と成長を続けている。せちがらい現代、これらの大木を巡ってその木肌に触れながら木と対話してみるのも、時には必要なことではないかと思われた。

杉峠の大杉



さてこの杉峠はエチガ谷の枝谷の源頭で、東に派生する尾根には627㍍と557㍍のピークがあるが、すばらしい樹林が続いていた。その明るい樹林の尾根をたどり、527㍍のピークを過ぎると北斜面が植林に変わり、大きく展望が開けた。

芹川渓谷の向こうの山腹に斜風と甲頭倉の集落、その上にイワス・比婆山の山並みが続き、右には霊仙山の巨大な山塊が圧倒的なボリュウムでそびえていた。

尾根をくだってゆるく登ると広い台地に変わり、雑林の中には苔むしたカレンフェルトが続いた。657㍍の山頂部はササやぶにおおわれていた。杉峠まで引き返す。

左の急斜面に取りつき、植林と雑木の境目を急登すると向山（670㍍）の山頂に着いたが、植林の中で展望はない。右折して尾根の切り開きをおりる。右斜面は雑木、左は2㍍程の植林で展望が開けた。室ノ谷の奥には高室山の植林が目立ち、濃い緑が麓尾山へと続いていた。鞍部に近づくと古い道が現れ、向倉越の峠に着く。古い道が十字に交差している。左折して杉林の谷におりると大雪で倒れた杉が道を塞いでいた。右の杉林の中に墓地が見えるとまたはっきりとした道に変わり杉の集落に着いた。

春の日差しをいっぱいに受けた明るい廃村は、小鳥たちの声が聞こえ、枯れたカヤ原が広がり、黄色の水仙が鮮やかに咲き誇っていた。

左折して舗装された古の五僧越の街道をゆるくくだり、室ノ谷林道分岐で右折すると広い谷の右岸に埋道が続いた。この谷筋には以前は田圃が続き、シシクワズという品種の稲が栽培されていたと言うが、今は雑木と草におおわれている。

造林公社の小屋を過ぎると杉林になり、送電線が頭上に見えると正面に高室山が望めた。右に回り込んで登り、南の尾根から左に回り込むと、林道は山腹を北に向かって続いた。登りつめた林道終点から右の植林のやぶを分けて、雑木林からカヤ原の踏み跡を登ると、背の低いササ原に変わった。無線中継所のアンテナが現れ、高室山（816・6㍍）の山頂に着いた。

造るものは何もなく大展望が開けた。北から鍋冠山、羽覆の山並み、霊仙山・ソノド・烏帽子岳・三国岳・鈴ヶ岳と鈴鹿の山塊、そして湖東平野と琵琶湖は霞の中に漠然と広がっていた。北面のなだらかな広がりに反して、南は大上川に向かって一気に落ちていた。その谷からガリガリガリと石灰岩を採掘する異様な響きが這い上がってきた。眺望を楽しみながら昼食にした。

復路は向倉越の峠まで引き返し、向山の西の山腹の古い道をたどる。杉林と雑木の境目に道が続き、雑木の斜面にカタクリを確認したが、花にはまだ早いようだ。向倉に着いて広場の下で右折して杉林を行くと杉木立の中、一部折れた鳥居の先にカツラの巨木が天に向かって大きく枝をのばし芽吹き始めていた。

この巨木には蛇にまつわる伝説もあると記されていた。左下の谷には井戸神社の池が静寂のなか神秘的な濃い緑色を見せていた。

引き返してくだると、荒川を渡る手前で右に古い道が分かれていた。この道を約20分進むと石の岩壁の下に洞窟がある。この洞窟のことは八日市の小林氏から聞いて知った。入り口は狭いが、這って入ると中に小さな空間があり、左隅に穴がのびていた。横になって何とか岩の間を抜けると洞窟はなおも奥に続き、次第に狭くなっていた。

（平成9年4月18日歩く）

《コースタイム》

向倉（45分）杉峠（25分）6557m峠ピーク手前（25分）杉峠（10分）向山（10分）向倉越（10分）彡（10分）室ノ谷林道分岐（50分）林道終点（20分）高室山（1時間20分）向倉越（35分）向倉

《地形図》

2万5千＝高宮

昭文社＝「44霊仙・伊吹・藤原」

（石野　明）

山と自然の本

比良の父・角倉太郎　比良霊山今昔ものがたり　2200円
関西　山歩の古道(上)(中)(下)　中庄谷　直　1942・2000円
京都丹波の山(上)(下)　内田　嘉弘　各1942・2000円
兵庫丹波の山(上)(下)　夏苅宗盛一　各1942円
近畿の山　日帰り民登り　中田谷直・吉賀登　1942円
京都　北山百山　北山クラブ　3800円
京都　北山を歩く①～⑤　澤　深　各1845円
京都港賀南部の山　内田　嘉弘　1942円
近江　湖北の山　山本　武人　2000円
近江　朽木の山　山本　武人　1942円

〈●〉

鈴鹿の山と谷①～⑥　西尾　寿一　3107・3360円
美濃の山①　大垣山岳協会　2200円
恵那連　ヤブ山登山のすすめ　高木　泰夫　1942円
飛騨の山(ヤブ山編)(岩場編)　酒井　昭市　2427・2718円
福井の山150　増永　迪男　2913円
鈴鹿の森ノ鈴鹿の山(そいのおりーズ)　増永　迪男　各1942円
山城三十山　日本山岳会京都支部　1845円
初登山　今西錦司初期山岳著作集　森藤治明編　2718円
初登頂　花崗の峰から天空の峰へ　平井　一正　2816円
京都府の三角点峰　植田　雅雄　2816円

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎京都　075-751-1211　〒606

エリア別徹底研究　近江側から登る鈴鹿の山々 ⑥⑦

上丹生浄水場から

阿弥陀ケ峰（仏返し山）

阿弥陀ヶ峰は霊仙山の北方にそびえる衛星峰で仏返し山とも呼ばれ、昔は山岳仏教の聖地として崇められ、古い歴史を秘めている。霊仙山北東山麓の集落(長折)の西乞いの山でもある。

「霊仙寺之古図」には山頂のすぐ下に「若荷石」「阿弥陀堂」の記載があり、阿弥陀堂のあった場所にはミョウガが生えていた、という言い伝えが地元に残っている。

昭和五十三年に地元の人たちが登り、山頂付近でミョウガ探しをした結果、山頂の西の小台地に大きな岩（若荷石）があり、その周囲にいっぱい生えていたのでここを阿弥陀堂跡と推定したとのことである。若荷石の形は霊仙山の姿とよく似ていたと言われ、この辺りは小字で妙蓮とも呼ばれている。

上丹生の浄水場の横から尾根に取りつき阿弥陀ヶ峰に登ったが、古い参道が現在もかなり残っていた。

醍ヶ井から上丹生集落に入り、左折して切れ込んだ谷沿いの集落を過ぎると、右岸の浄水場の手前でイモヒ谷林道が左に分岐した。この林道を少し進むと左に広場があり車を駐めた。

浄水場のすぐ裏、右斜面の杉水立のなかの古い参道を登る。シャガの生え込むなかに道が続き、切り開きを斜めに登ると自然林に変わった。野田古墳の墓標があって道が分かれた。右折してゆるく登ると台地状の広い杉林に変わった。静寂のなか、時ぎりキツツキが枯れ木を叩く音が大きく響いていた。

登りにかかると斜面の杉林のほとんどが、大雪のため折れたり倒れたりして無残な姿を見せて道を塞いでいた。下刈りされた植林帯に変わった時、真上約10mの所で「ピュー！」と鋭い声がした。上を見ると鹿三頭が右斜めに一気に駆け上がって消えた。

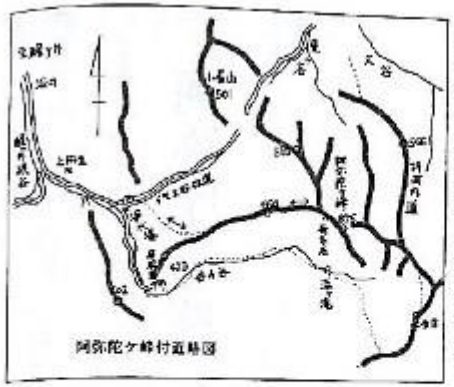
いつの間にか植林のための林道に変わった。古い道は尾根に向かっていたが、見落としたらしい。そのまま林道を進むが山腹を水平に行くと、やがて消えてしまった。右上に尾根が見えた。下刈りして植林したばかりの急斜面を尾根に向かって折り返し

阿弥陀堂跡の若荷石

て登ることにした。杉の苗木はほとんど跡に食い荒らされ丸坊主になっていた。

尾根に出て参道を左にとる。石灰岩の岩が続く尾根からは、左後方の深く切れ込んだ谷底に上戸生の集落が見え、その先は醒ヶ井、長浜市街と続いていた。琵琶湖は霞の中に消えていた。右手には谷山谷を挟んで霊仙山が圧倒的なボリュウムで長々と横たわっていた。

下刈りの尾根を過ぎると雑木の生え込みになったが、その中にはっきりと道が残っていた。平坦な広い杉林に出ると道が消えたが、正面の杉林のピークに向かってやぶを避けながら適当に登りつめると、664㍍の山頂に着いた。杉林の中で眺望はない。


上戸生
谷山
1-霊山
50
醒ヶ井
上戸生の集落
ケヤキ
ケヤキ
ケヤキ

笑い仏（三体磨崖仏）

上の集落へと1キロ行くと、巨大な岩に浅肉彫の少し微しげな憤怒相の不動明王石仏がある。

不動仏からさらに西南へ向かい、急な石の階段をくだりきると、上部の岩が屋根状になった岩肌に笑い仏（阿弥陀三尊三体磨崖仏）がある。

座高70センチの柔和な阿弥陀仏に、脇侍の観音・勢至両菩薩が寄り添っており、先に見た弥勒磨崖仏を彫った大工伊太行と永仁七年（1299）の刻銘がある。

⑥ からすの壺（東小上）

笑い仏から西へ10分ほど進み、左へ上がり石橋を渡るとからすの壺の辻で、地蔵菩薩と阿弥陀如来の二面磨崖仏がある。康永二年（1343）の銘がある室町初期の作である。近くの丘の中腹に一軒地蔵がある。

からすの壺から川沿いの道を進むと、対岸に東小簡易保育所への石段が見え、さらに簡易舗装の山道を進むと東小バス停に、東小公民館と向かい合って愛宕石灯籠がある。

⑦ 藪の地蔵三尊（西小）

左折して西小への道を進み大門への三差路を過ぎると、左手の竹やぶの中に鎌倉中期作と言われる地蔵三尊磨崖仏がある。

阿弥陀如来と観音・地蔵菩薩といわれ、弘長三年（1263）と長文及び石工橘安綱・小二平貞末の銘がある。

③ 小田原山法華院 浄瑠璃寺（西小）

藪の地蔵から数分も西へ進むと九体寺の名で知られる浄瑠璃寺の門前で、駐車場・食堂・売店が並び、観光客の多いことを証明している。

山門をくぐるときれいに整備された広い境内に、浄土池を挟んで国宝の幅広い本堂と燦然とした三重塔がある。拝観料300円を納め本堂に入ると、国宝の阿弥陀如来坐像九体と四天王立像四体が安置されている。

浄瑠璃寺本堂（国宝）

九体の本尊のうち中尊は像高224センチで嘉承二年（1107）の造立、他の八体は像高139～145センチで中尊に続いて造立されたと伝えられ、仏師定朝の作で、宇治平等院の本尊とよく似ているという。四天王立像四体も激しさを抑えた柔和な表情で平安時代の作である。

浄瑠璃寺は天平十一年（739）に、聖武天皇の勅願で行基が創建したとも、また平安時代に源氏の祖先多田満仲の創建との説もある。

永承二年（1047）に義明上人が当地の豪族阿知山大夫重頼の寄進を受けて再建し、九体の定朝作の阿弥陀如来を安置し、寺内に四九院を建立したという。

三重塔は鎌倉天皇の命により、洛中大宮の上一品遍昭寺の塔を移築したものである。

阿弥陀堂は平安時代に黒羽・白河の地域に多く建立されたが、平安の姿をそのまま残しているのは当寺だけである。

有名な重文・古祥天立像は鎌倉時代作で日時を限って開扉される。国の史跡・名勝に指定された庭園は、平安末期に一条院忠信が自然の湧水を利用して浄土庭園を造り、その後鹿都の小納言宗眼が修復した平安庭園である。

⑧ 長尾阿弥陀石仏（西小）

浄瑠璃寺から西へバス道をくだると左側に、上部欠損の三尊石仏がある。少し先の曲がり角には鎌倉後期の名作、笠石を載せた嘉治二年（1307）銘の長尾阿弥陀石仏がある。

⑩ 浄瑠璃寺奥の院不動石仏（西小）

少し先の左へ細い山道を上がると谷間へと道が続き、赤山川を渡ると奥の院の不動石仏がある。永仁二年（1294）銘のある鎌倉期のものだが、上半身が欠けている。

バス道からの往復は1・5キロほどだが、急な坂道が多いので約20分かかる。

⑪ 西小共同墓地の五輪塔（西小）

バス道に戻り西へと進むと左前に小石仏や石塔があって、二百体の無縁仏を整理した西小共同墓地に、重文指定の五輪塔二基がある。

西小公民館の手前を左へくだると小石仏に混じって、ひときわ立派な鎌倉中期の舟形後背の中にたかの坊地蔵が彫られている。

⑫ 浄瑠璃寺口バス停（高田）

墓地前から少し北へ進むと自由乗車の西小のバス停がある。浄瑠璃寺と奈良駅を結ぶバスは回数が少ないので、30分ほどバス道を歩き浄瑠璃寺口バス停へ出る。奈良駅と関加茂台住宅を結ぶバスは回数が多いので便利である。

文学歴史探訪ハイク ㊱

大阪・上町台地を訪ねて

松永恵一

難波

大阪は古くはナニハ（難波、浪速、浪華、浪花）と呼ばれた。『日本書紀』の「神武天皇即位前紀」は記す。「難波碕に到るときに、海潮ありて太だ急きなるに会ひぬ。名けて浪速国とす。亦浪花と曰ふ。今、難波と謂ふは訛れるなり」。上町台地東側に広大な湖や難波入江があった当時、干満時に大阪湾に流入する潮流は凄まじく、奔流のために航行が困難であり、速い浪でナミハヤと名づけたという。

ナニワの語源についてはいろいろと言われている。ナ（魚）ニワ（庭）、波の平らかな漁業を行う海面の転化で漁獲の豊富な大阪湾を指すとか、朝鮮語でナリ、ナルは津を意味し、ワは地名に多い接尾語というとか、アイヌ語ではナニワは水を引いた所をいうとかである。

海抜20～25㍍の上町台地は、すぐ西に海が迫り、東側もまた河内潟の水辺であった。台地には外交使節を迎える館や難波宮の壮大な宮殿が建ち並び、難波は大陸との交流の玄関口として栄えていった。推古十六年（608）には隋の使者裴世清らが訪れ、高麗館の上に迎賓館が造られた。

天平勝宝七年（755）大伴家持は難波の賑わいを歌った。『萬葉集』巻二十。

「……難波の宮は聞こしをす四方の国より奉る御調の舟は堀江より漕ぎきしつつ朝旦に掘引き上り夕潮に楫さし下り……（難波の宮、この宮に向かってお治めになっている四方の国々から献上する貢ぎ物を積んだ舟が、堀江から水路を後に引きつ船命に、朝旦には櫂を繰って漕って来、夕潮時には楫を繰って下ってきて）

『竹取物語』にも海の玄関として、「難波」が登場する。かぐや姫に求婚した五人の貴公子の一人くらもちの皇子に出された難題は、蓬来山にあるという銀を根とし、金を茎とし、白き玉を実とする枝を持ってくることであった。皇子は難波から出航し、偽りの枝を手にまた難波に帰ってくる。

難波津『摂津名所図会』

難波宮跡

難波の地には、応神天皇の大隅宮、仁徳天皇の高津宮、欽明天皇の桜津宮、孝徳天皇の難波長柄豊碕宮、天武天皇の難波宮、聖武天皇の難波宮が置かれていた。

宮跡の所在地を比定する研究は古くからなされてきたが、諸説が多く、確定するにいたらなかった。大正二年（1913）に、大阪城の南で蓮華唐草文瓦の建築工事時に、奈良時代の重圏紋と蓮華紋の軒丸瓦や重圏紋の軒平瓦が採集され、奈良時代の難波宮を比定する有力な根拠となった。

昭和二十八年に法円坂住宅の工事現場から奈良時代の鬼瓦の破片が出土したことから、難波宮跡の発掘調査が開始された。しかし、調査は順調に進まず暗中模索の状態が続いた。大阪市立大学を定年退官した山根徳太郎先生は、「あれは難波の山根の宮だ」と陰口をささやかれながらも、自分の信念を曲げることなく調査・研究に打ち込んだ。山根先生の執念は、昭和三十六年奈良時代の難波宮の大極殿の発見となって実を結んだ。

難波宮跡は、内裏・朝堂跡を中心に国の史跡に指定され、「難波宮跡公園」として環境整備され公開されている。

高津宮

『古事記』仁徳天皇条に「大雀命、難波高津宮にましまして、天の下知ろしめしき」、『日本書紀』仁徳天皇元年条に「難波に都をつくる、是高津宮といふ」と伝える。

『大阪市誌』の冒頭に「高津の宮の昔より……」と歌われた高津宮は、法円坂の難波宮跡辺りにあった。仁徳天皇を祀った社殿は石山付近にあったが、秀吉が大坂築城の際に現在地に移したという。

『古事記』の伝えるあまりにも有名な話。ある時、天皇が高い山にお登りになって、四方を見渡して仰せられますには、「国中にけぶりがたたぬ。国みなまずしい。今より三年というあいだ、すべて人民の租を免じ、賦役をゆるせ」と。

それ故に、宮殿朽ちくずれて、雨もりがしても修繕せず、桶を置けて漏る雨をうけて、濡らないところにうつり避けた。三年後に国中をご覧になりますと、見るかぎりけむりが満ちていた。そこで、人民は富めりとうなづいて、租税労役を命じた。人民は栄えて、労役に出るのを苦にしなくなっていた。この世を称えて聖の御世という。

高き屋にのぼりてみれば煙立つ。
民のかまどは賑ひにけり

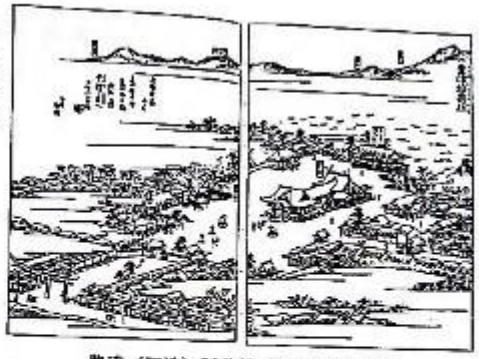
細川ガラシヤ

ガラシヤは永禄二年（1563）明智光秀の二女に生まれた。本名たま。「美貌才知卓越女性」と記された才媛であった。十六歳の時織田信長の肝いりで、同年齢の細川忠興と結婚した。天正十年（1582）光秀は信長を本能寺に襲い自刃させ、すぐに秀吉と戦って敗死した。ガラシヤは離縁され、丹後半島に幽閉された。その頃からキリスト教の信者となり、洗礼を受け、伽羅奢とサインするようになった。

秀吉没して二年後の慶長五年（1600）徳川家康は諸将に命じて会津の上杉景勝を攻めることになり、忠興も従った。石田三成は上杉と呼応して家康を挟撃する作戦に出て、大坂に残っていた諸将の妻子を人質として大坂城へ拉致した。ガラシヤは拒む。光成は三成をさし向け、力尽くで連れていこうとする。ガラシヤは家族を避難させ、屋敷を掃除し遺書をしたためたのち、屋敷に火を放って、家臣に首を打たせ命を断った。7月17日の午後のこと、三十七歳であった。キリシタンは自害が許されなかった。細川家に伝わる『侍女覚え書き』は最後の様子を詳しく記す。芥川龍之介はこの本をもとにして『糸女覚書』を書いている。

コース概観

今回のコースは、上町台地を訪ねる。大阪の由来となった坂道の多い台地。すぐ西まで海が押し寄せ、難波の御津と呼ばれた港が設けられていた。「難波津に咲くやこの花」と詠われた港から大陸へ漕ぎ出していった海の玄関口であった。首都難波宮には異国情緒が漂っていた。上町台地を北から南へ、歴史を片手にぶらりと歩いてみると、何気ない風景が新鮮に見える。



豊津（玉造）稲荷社『摂津名所図会』

JR環状線の森之宮駅で下車。駅の西側に森之宮神社がある。正しくは鎮之森之宮という。聖徳太子が、父用明天皇を祀ったのが最初と伝える。明治半島から持ち帰った鎮をこの森で飼ったのでその名がついた。

市立労働会館内の森ノ宮ピロティーホールの一階西側に森之宮遺跡の展示室がある。大阪では数少ない日様の見つかった地。縄文時代末期の人骨十八体と数万点の遺物が出土した。照葉樹林の広がる台地での狩猟、顔面に広がる水辺での漁労、河内潟から河内湖へと変貌した大阪平野の形成の順が復元された。

玉造稲荷神社は稲倉魂命ほかを祀る。豊臣秀頼の奉納した石鳥居が残されている。起伏に富む境内地を平坦化するため、寛政元年（1789）東横堀川の川ざらえで出る土砂を運ぶ「砂持」が行われた。揃いの浴衣を着てお囃子を入れ、老若男女が群がり賑わったと古書は伝える。この地は古代勾玉などを作った玉作部が住まいしていた。

聖マリア大聖堂には細川ガラシャとキリシタン大名高山右近の像が玄関にたたずむ。

「題中井　細川忠興夫人秀林院殉節之頌社

ちりぬべき時知りてこそ世の中の
花も花なれ人も人なれ」

逝去に際しての歌。新村出の碑文が建つ。和歌はガラシャの辞世。このあたりは細川越中守忠興の屋敷のあった所。その邸内の井戸が越中井と呼ばれ今に残る。

難波宮跡は、復元された大極殿を中心に史跡公園として整備されている。天武朝の前期難波宮（7世紀後半）と聖武朝の後期難波宮（8世紀前半）の遺構や飛鳥時代の住居跡等が見つかっている。

難波の宮跡を南へ。宮跡の西に接して上町台地を南北に貫く道路を上町筋と呼ぶ。秀吉の昔、東西の道を「通り」、南北の道を「筋」と呼んだことによる。

「兵部大輔大村益次郎卿殉難報国之碑」と刻まれた巨碑が国立大阪病院南東角にそびえる。適塾で学び僅か一ヶ月で塾頭になるほどの傑物であった。医学蘭学から兵書砲術に通じ、上野に籠もった彰義隊を一日の銃撃戦で壊滅させ名をあげた。明治二年（1869）兵部大輔に任ぜられ、兵制の確立と人材の育成に努めた。廃刀令の断行、徴兵制の施行等は、不平士族の反感を受け、同年9月4日、京都の木屋町で襲撃された。右脚に重傷を負い、この地にあった適塾仮病院で右脚切断の手術をうけたが、すでに手遅れで敗血症のため死亡した。

東に行くと聖マリア大聖堂に戻る。南へ向かう。円珠庵は『万葉代匠記』で名高い国学者契沖が晩年に隠棲、古典の研究に親しんだ所。境内に足を入れると樹の木に無数の鉄が打ち込まれているのが目につく。この北側付近に真田の出丸を築いた幸村も必勝祈願をしたと伝える。庵の前の穏やかな坂道を三光坂と呼ぶ。鴻臚館へ向かう要人の通った道。

西へ歩くと浪華仮病院跡。大福寺の門前に「明治二年（1869）二月、緒方惟準を院長とし、関医ボードウィンを教師として当寺内に浪華仮病院が開設された。現在の医科大学の前身である」と記されている。

上町筋を渡ると誓願寺。武田鱗太郎文学碑が建つ。「誓願寺を出ると、丁稚奉公を兼ねて遊宮の儀式もあるといふ生土の方へ、ひとりでに足が向いてゐた。季節の到来に勢ひづいた蓮池の近くの金魚屋も、大きな水槽を十幾つも並べて、郡山の金魚鉢を浮べ、好事家を待ってゐた。水も紅に染まって目のさめるやうな眺めであった」との、小説『井原西鶴』の一節が刻まれている。

「西鶴、中井一族墓所碑」がある。「西鶴は人文主義に徹した文豪である。中井氏は懐徳、竹山、履軒ら父子継承して儒学を修め、私塾懐徳堂を創建運営した」。

近松・西鶴と並んで元禄文化の華を咲かせた西鶴は、西山宗因の門で「阿蘭陀西鶴」といわれるほど前衛的な作品を発表した。矢数俳諧に挑戦し、住吉大社で一昼夜二万三千五百句をよむ興行をした後は、『好色一代男』『日本永代蔵』『世間胸算用』など鋭い観察と奔放な筆致で新天地を開いた。

大阪・上町台地付近略図

仙臨西鶴

元禄六年八月十日

下山瓢平　北英団水編

傍らに句碑が建つ。筆は野間光辰

鯛は花は見ぬ人もあり今日の月

さらに西に向かうと、谷町筋沿い、かつて妙法寺のあった跡に、『曽根崎心中』に始まる世話物浄瑠璃の作者として大いに名をあげ、日本のシェースクピアとまで言われた劇作家近松門左衛門の墓が残る。

阿弥陀寺発　日一長足居士

一珠院妙中日書信女

徳三　近松氏　正七

相撲用語でひいきの客のことをタニマチというのは、昔、谷町に住んでいた蘭医者が大の相撲好きで、力士から治療代を取らなかったからだという。

谷町筋を横切ると高津宮。かつて大坂随一の眺望地とされ、上返舎一九の『東海道中膝栗毛』にも登場する。

☆コース☆

JR森之宮駅—森ノ宮遺跡—玉造稲荷神社—越中井—難波宮跡—大村益次郎殉難碑—円珠庵—浪華仮病院跡門—誓願寺—近松門左衛門墓—高津宮—地下鉄谷町九丁目駅

特選コースガイド①　鈴鹿

母鹿の子育てを見た
地獄谷から御在所岳

中級コース（★★）

岡崎　五郎

出発点は武平峠。ここから南乙岳をめざす人に混じって沢谷に向かう。ちょっとした乗っ越しを過ぎて右に現れる細流は神崎川の源流である。やがて広場が現れると、右へおりてコクイ谷をめざす。南乙岳へ行く人はここを直進していく。一人になってしばらく歩くと、夫婦連れが戻ってきた。

「道を間違えちゃいました」

「しかし、こちらからでも南乙岳へ行けますよ」

「うん。でもちょっと長くなるから……」

同じ道を歩く人が他に二人でもいるほうが、何となくほっとするのだが、と思いつつも二人を見送った。

海を眺めて急下降するとコクイ谷におり立つ。ここからの道は、沢身を歩いたり、右岸左岸を歩いたりと変化に富む。つねに道があるわけではないから、「次はどちら」と踏み跡を見失わぬよう緊張を強いられる。要所にはテープやペンキ印があるので迷うほどのことはない。それに何より谷に沿ってくだって行けばよいのだ。

山腹はみごとな紅葉だが、谷の底はやや色が浅い。それでも小さな淵の底に赤や黄や茶色の落ち葉が沈んでいて、ほっとするような美しさの所があり、十分に満足できる。

左手から谷が合流し、河原が広くなる。左手の谷をつめると彦岳から南乙岳へのコースである。この河原でひと休みするが、だれも来る気配がない。腰を上げて沢筋を離れ、上水呉谷出合をめざす。

突然、前方の木立ちの中を鹿が走った。右から左へ悠々しいひづめの音が残ったと思うと、そのあとピタリと静寂がもどった。おかしい。左の木立ちへ駆けこんだ鹿は立ち止まったのだろうか。ピンときたので右方を見ると、いたいた、木立ちの間に子鹿が頼りなさそうに立ちすくんで母鹿のほうを見ている。母鹿はこちらに姿を見せない。子鹿は無防備な姿をさらしている。子鹿は母鹿のもとへ走りたいのだが、こちらが気になって走れないらしい。

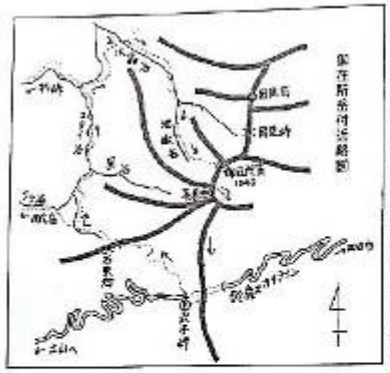
私は急地塗く歩の成り行きを見守ることにした。しばらくしてふと気がつくと、左方の樹林の中に母鹿が姿を現している。こちらの注意を引いて子鹿にチャンスを与えようというのであろうか。私は動かないで二頭の鹿を等分に見ていた。子鹿がせつなげに首を振るのを見て、母鹿は二、三歩戻ったようである。これ以上意地悪をする気になれなくて、私は母鹿に向かって口笛を吹き手を振った。ふり返ると子鹿はもういなかった。母鹿もまた姿を消していた。

なんだ裏に迂回ルートがあったのか。子鹿は、こちらからは見えない樹林の背後から母鹿のもとへ走ったのである。ではなぜ、母鹿は私に気づいた時、その迂回ルートを

紅葉のコクイ谷

とらなかったのだろう。単にうかつだったのか。あるいは私を弱い敵と見て、危険に際しての逃げ方や相手の強わし方などを子鹿に教えたのだろうか。冬も近い。生きるための智恵を教えることは母鹿の急務だったのかもしれない。

まもなく上水呉谷出合に着き、ここから谷沿いの道を国見峠に向かって登っていく。一人で歩き始めて、ここに来てようやくおりてくる人に出会った。聞きはしなかったが、おそらく彦岳から南乙岳をめざすのだろう。さらに次々と四人がおりてきた。いずれも判で押したように中年男性、単独行、



森閑ときている。私もそうであるが。

地獄谷出合は小広くなっていて、ひと休みしたくなる。右手から谷流している谷が地獄谷である。黒谷出合ほど暗く陰湿な雰囲気がないのでありがたいが、いかにも急である。ここまで登りらしい登りがなかっただけに、気を引きしめて地獄谷に入る。

谷は平凡で明るい。踏み跡は薄いが、赤テープを拾いながら木流をつめていけばよい。谷をおおう紅葉と、紅葉の間にのぞく青空を眺め、鳥のさえずりを聞きながら、いよいよ急になった道を歩く。ほぼ源流と思われる二股のところで、まん中の小尾根を登っていく。最後の急登である。ずり落ちそうになりながら両手で木の根をつかみ、踏み跡を見逃さないように登っていくと、頂上で頑張る人の声が聞えてくる。岩の間から御在所岳西山頂に飛び出す。

山頂は登山客に加えて、ロープウェイで上ってくる観光客でごったがえしていた。息を整えながら、歩いてきたコクイ谷を見下ろす。そこは秋の陽に輝く錦絵の谷であった。紅葉に彩られたきょうの山行の印象に、さらに加えて赤や黄の絵具を塗りつけるような、そんな気がして、やや食傷気味の感がないでもない。

昼食ののち、帰路は南へまっすぐ武平峠への道をおりる。急だが好展望の道である。

（平成8年10月27日歩く）

◇コースタイム◇

武平峠（50分）コクイ谷分岐（1時間）上水呉谷出合（30分）地獄谷出合（50分）御在所岳（50分）武平峠

◇地形図◇2万5千＝御在所山

昭文社＝「他御在所・鎌ヶ岳」

※両図とも地獄谷最上部で南の尾根に上がる道が記されているが、御在所岳へ直登する。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発㈱へ!!

・小型（20人・24人）
・中型（28人乗り）
・中2階（45人乗り）
・大型（35人・60人）
いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578　東大阪市鴻池本町1－20 オカダビル4F
電話06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
(夜間・電話06(946) 0816・FAX 06(945) 3044)

特選コースガイド図

北摂

展望抜群の 峰ケ畑

中級コース（★★）

慶佐次 盛一

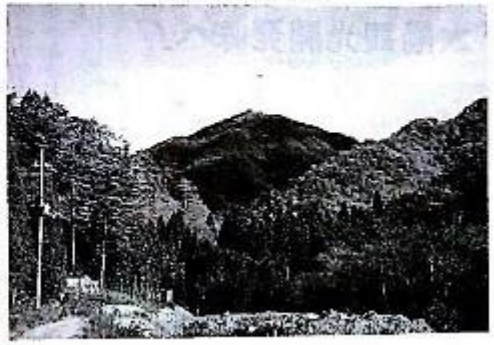
松茸で名高い北摂の山は、その季節にはなかなか近寄れない山が多い。ここに紹介する峰ヶ畑も、おそらく松茸山ではなかろうかと、そのシーズンをはずして11月の末に登ったのだが、歩いた感じではそのおそれはなく、季節に関係なく歩けるようだ。

しかし、峰ヶ畑から尾根伝いに扶美ヶ岳、山王山と縦走してみたが、全体に植林と自然林の葉が落ちた初冬か早春のコースとしておすすめしたい。以前の峰ヶ畑はあまり展望に恵まれなかったようだが、今ではKDDの大きなアンテナが新設され、そこからの展望は実にすばらしい。またこの季節の稜線は深い落ち葉におおわれ、その上に、裸木の影を幾重にも落とす明るい道は、歩く者の心をなごませる。山慣れた人には難しいコースではないが、道標もなく一部サナやぶもあるので中級向きとする。

JR三田駅から神姫バス乙原パレイ、または母子行きに乗り、乙原バス停で下車する。バス停前の大根川に架かる天神橋を渡り、川沿いの林道大根谷線を北上する。地道、舗装と交互に変わる広い林道だが、いずれは全面舗装になることであろう。

やがて黒川のほうからの峠越えの道が右から合流し、左にも道が分かれる。これは千丈寺山への北側の登山口でもある。大根川の軽やかなせせらぎや、野鳥たちのにぎやかなさえずりを聞きながら進んでいると、前方に紅白に塗られた大きなアンテナが立つ峰ヶ畑が見えてくる。その奥には高圧線の鉄塔も見える。雑木の地味な色合いの紅葉におおわれ、堂々としてなかなか恰幅のよい山だ。

ほとんど傾斜がなかった林道も次第に斜度を増し、セメント舗装となり、山線を描きながら高度を上げて行く。ふり返ると千丈寺山が大きく盛り上がっている。永沢寺方面へ越える峠が近づくと、峰ヶ畑のアンテナの保守点検路の鉄製階段が一直線に上がっているのが見えるが、関係者以外は利用できない。このあたり、この時期にはムラサキシキブの実が目をなごませてくれる。



大根川からの峰ヶ畑

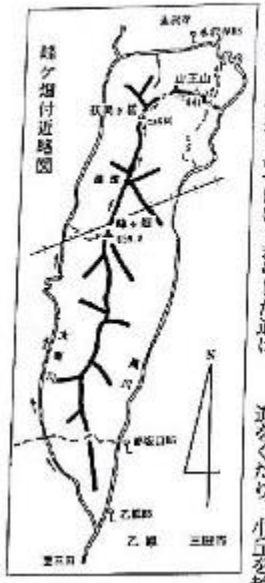
これを過ごすと右に関電の巡視路標識と、兵庫県の保安林の黄色の標識があり、ここから植林帯の急傾斜の巡視路をしばらく登る。高圧鉄塔まで登ると傾斜もゆるみ、松の木も混じる雑木の道となる。足元に紫色のリンドウの花や赤い実をつけたツルリンドウを見ながら登っているとパッと前方が開け、遠から見えていた金網に囲まれたKDDの大きなアンテナに出る。峰ヶ畑頂上三角点はアンテナから少し離れた高みにある。

アンテナの金網に沿って巡れば展望は抜群だ。近くに三国ヶ岳（大井畑）・大野山・羽束山、遠く深山・中山連山・六甲連山が望まれる。展望を満喫したら、三角点から北へ向かおう。反射板の迂回路標識を回り込んで高圧鉄塔に出て、稜線に細い道が続く。視界が明るさされ、そのまま進むと東へ寄ってしまうが、足元のセメント標識九から緩走路は左へ分岐するから要注意だ。最初は少々やぶっぽいが次第に道らしくなり、雑木帯の明るい湿地帯にくだる。右へコースを修正し、落ち葉の豊かな稜線道がしばらく続く。扶美ヶ岳へははっきりした道はないが、雑木の間をぬって登れる。

扶美ヶ岳は小さな頂だが、西側に三国岳・愛宕山・鍋山・黒頭峰・高梁山・松尾山に西光寺山などが見える。くだりきった所には地形図にない道が横切っており、左（北）へとれば永沢寺方面へ早くくだれるだろう。

時間があればさらに稜線を進もう。ここからはまったくのササやぶで踏み跡もないが、10分程度で稜線に達し、踏み跡が現れる。目の前にこれから登る山王山が迫り、ふり返ると今まで歩いてきた峰ヶ畑から続く長い稜線が一望できる。

山王山手前の鞍部までくだり、ゆっくり登り返せば山王山の頂上だ。山王と刻まれた碑が立ち、山王権現をまつっている。松などに囲まれた静かな山である。南南東の道をくだり、小王を越えて峠から永沢寺方面へくだる。くだりきるとススキにおおわれた道になるが、小さな富士形の山王山が美しい。廃屋と民家の横を通って車道に出ると永沢寺バス停はすぐだ。



≪コースタイム≫

三田駅（神姫バス25分）乙原（1時間10分）巡視路入口（30分）峰ヶ畑（40分）扶美ヶ岳（15分）峠（30分）山王山（15分）地形図の峠（20分）永沢寺バス停（神姫バス45分）三田駅

〈地形図〉2万5千＝福住・篠山・藍本

〈問い合わせ〉

神姫バス三田営業所

0795（65）5711

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎〈075〉211-5768
FAX〈075〉231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

特選コースガイド③　美濃

2等三角点のある山
貝月山と池田山

初級コース（★　）

山形　歳之

貝月山（1234・5m）点名　品又

伊吹山の北東に位置する貝月山は、美濃といえども関西圏からの日帰りが可能な山である。標高1234・5mと数字がきれいに並んでいるので、簡単に覚えるように名神ハイウェイを関ヶ原のインターで降り、国道21号線を大垣に向かう。大垣で国道417号線に入り、揖斐川町を過ぎ久瀬村に入る。津汲で左折して日坂川沿いに揖斐薄原に向かい、スキー場で目坂峠を乗り越すと貝月山が姿を現す。坂内村からの道に合流して上流に向かうと、ゴルフ場の先に「ふれあいの森」のゲートが現れる。

ゲートは開放されているので、そのまま「ふれあいの森」に入れる。ロッジや管理棟がある広場に案内板が立っていて、貝月山の登山口も示されているので確認しておこう。

目越峠への林道は工事中なので、「ふれあいの森」の最上部にある貝月山歩道（1100m）の道標の所から登る。道端に数台は駐車可能である。

登山道は丸太の階段で、すぐ左手の尾根に登って行く。尾根は明るく新緑まっ盛り。頂上が近づくと、雨水に削られた砂岩の急坂が現れるが、たいしたこともなく、目越峠からの道が合流すると、貝月山頂上である。

頂上は360度の展望が得られ、椅子・テーブルと展望台が新しく設置されている。

貝月山の山頂

見渡す限りの山また山である。もちろん、2等三角点の標石も健在である。

目越峠へもよい道がのびているので、峠に回って下山してもよいし、逆に峠から登ってもよい。どちらにしても、たいして時間はかからない。

◇コースタイム◇

ふれあいの森歩道入口（45分）貝月山

◇地形図◇20万＝岐阜　5万＝横山

2万5千＝横山

池田山（923・9m）点名　池田山

池田山は山頂付近が「池田の森」公園になっていて、車道が山頂直下まで通じている。

関ヶ原インターで降りて、貝月山と同じように国道21号線を大垣に向かう。手前の垂井町から町中を北に抜けても行けるのだが、判りにくいので417号線を北上し、池野から西に池田山の山麓にある桜の名所・霞間ヶ渓に向かう。

池田山の山頂

車で行くと、1日行程なので、貝月山の説述に池野から入るとよい。

霞間ヶ渓から山麓を伝って南下し、新しい池田温泉の前を抜け、海谷越えの林道に向かうと池田山の林道口になる。22時からは通行禁止と標示されている。

林道は曲がりくねっているが、舗装もよくまずまずの幅があるので簡単に池田の森に達する。展望所や駐車場・トイレ等、公園の設備が完備している。巡石神社を過ぎアンテナの立つ稜線の所で林道が分岐しているが、直線ぎみに稜線の西側に進むと池田山の標示が出てくる。どちらの林道を入っても先で合流している。やがて林道はゲートがあり、行き止まりとなる。道端に車を置いて稜線の登山道に登る。車の置けない時などは、1・5km手前に駐車場がある。

林の中のササの道を15分程で、池田山に到着する。山名の刻まれた大きな石柱と、丸太作りの簡単な展望台があるだけで、腰を下ろす所もなく、展望も得られない。

標石は健在だが文字が少し削られていた。よく整備された池田の森に比べると、何か忘れられたような感じがした。山中の案内も岩圧鉄塔の標示ばかりが目についた。

池田山は東海自然歩道が通っていて、霞間ヶ渓から達磨元観の良い道があり、歩いて登ってもよいだろう。

車のない場合は、JR大垣から揖斐線で池田下車、霞間ヶ渓まで約2・5kmである。

下山後は池田温泉で汗を流して帰ろう。

（平成9年5月歩く）

◇コースタイム◇

（車）林道ゲート（15分）池田山

（歩）揖斐線池野駅（40分）霞間ヶ渓公園

（2時間40分）巡石神社（1時間）池田山

◇地形図◇20万＝岐阜　5万＝大垣

2万5千＝池野

特選コースガイド④　奈良中部

妙好人の通った念仏坂

清九郎道

初級コース（★　）

柴田　昭彦

大和の清九郎と言えば、妙好人、すなわち、行状の立派な念仏者、それも、浄土真宗（親鸞が開宗、蓮如が中興）の篤信の信者として知られ、孝子・徳行の人としても名高い。

清九郎は延享六年（1678）高市郡谷田村（現橿原市）に生まれた。父親が酒とバクチに手を出したため、家屋敷と田畑を失い、幼少の頃、両親とともに、西隣りの丹生谷村（母の郷里）に移った。十八歳の時、父が亡くなり、奉公（近くの百姓の家とも、下市町の呉服屋ともいわれる）に出たが、ひっかなも読めないほどであったために、うまくゆかず、一年でやめ、信心深い母親と暮らし、山仕事や馬方の仕事をした。母親は茶摘みや綿繰りなどの巨細い仕事をしていた。二十五歳の時、気立てのよい妻を迎えたが、安穏な生活の中で、だんだん酒とバクチにおぼれるようになる。二十八、九歳の頃、一人娘も生まれたが、無類の生活は改まらなかった。そんな時、雨もりを防ぐため、他人の筵を盗んだことがばれて村人の反感を買い、追い出されるように、吉野郡鉾立村（現大淀町）に移住した。三十一歳の時であった。

鉾立に移ってからは、農業をしながら過ごしたが、三十二歳の時、妻が病で亡くなり、悲嘆にくれる日々となった。そんな時、光蓮寺の住職に導かれて発心する。飯貝の本願寺（蓮如が開創）での三物展覧の折に、蓮如上人が生前所持していた鵜・瓶の説明で、常は「法を聞け」とさえずる鳥なので、上人は貴重（珍重）されたという因縁を聞き、山仕事の折に耳にしたさえずりは、「法を聞け」という催促であったと気づいたと伝えられている。その後、聴聞を重ねる中で信仰を深めていったという。こうして、「ほこたて清九郎」の名が広まっていった。

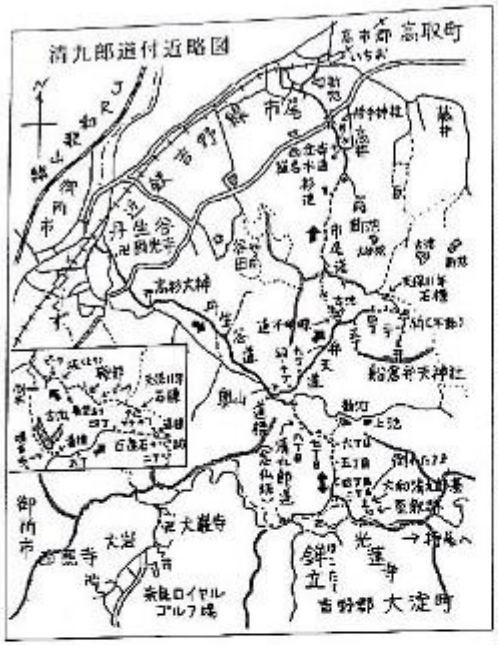
清九郎の回心により、丹生谷村の人から戻ってきてほしいと言われるようになり、三十四歳の時、三年ばかりいた鉾立村を離れることにするが、追い出しておいて何を今さらという鉾立村の人々の言い分もあって、両村の対立をさけるため、両村の境に近い丹生谷村の領分に移り住んで、田畑を耕し、薪売りをしながら暮らすことにした。四十一、二歳の頃、孝養を尽くして大事にしてきた老母が亡くなった。

清九郎が四十六歳の時、一人娘は十七、八歳となっていたが、縁あって、吉野郡矢

清九郎道（念仏坂）

走村（現大淀町）の久六という、酒とバクチを好むおばれものを婿に迎えた。清九郎の誠心によって、久六をみごとに改心させ、念仏生活に入らせたので、人々は驚くことしきりであった。娘は子どもがないまま、二十六歳で亡くなったが、久六が清九郎の老後のめんどうをよくみてくれた。清九郎は信仰一筋に生き、生前より、念仏行者の鑑とたたえられた。すでに、四十四、五歳の時に、東本願寺十七代法主真如上人より「釈浄元」の法名をいただいている。

清九郎の徳行を伝えるエピソードは数多い。物売りに出かけた先で柴の値段を安くしたり、綿を商人に売ったあとで相場が下落して商人が損をしたと聞き、返金をしようとしたり、種もみの入ったひょうたんの中にネズミが入り込んで太り、出られなくなっていたのを殺さずに逃がしたとか、馬を引いて行っても、馬には乗らず、しかも薪二束のうち二束を馬に乗せて、あと一束は自分で背負ったなどと伝えられている。京都の本願寺には、年に二、四回、薪をかついで参詣しているが、その際、大津川が増水して船が出ないことがあった。清九郎が念仏を唱えて渡ろうとすると、水が二つにわれて道ができ、向こう岸に渡れたという話は有名であるが、実際は、清九郎のために船頭が大水を押して命がけで対岸まで渡り切ってくれたということのようである。



寛延二年（1749）、蓮如上人九世の孫で、徳望の高さで知られた実成院知誉師は当時三十歳であったが、七十二歳の清九郎に出会っている。晩年の清九郎は徳名高かったが、わらぶきの小屋に妻子、三枚を敷いて、釜一つ、茶碗一つ、三つのほかは家具もない質素な暮らしであったという。寛延三年（1750）に、七十二歳で大往生をとげた。その住居跡のある鉾立峠に石塔が建立され、有志の者によって、毎年8月4日に法事が行われ、その遺徳をしのぶことを忘れなかったという。今では、毎年4月18日に清元忌が、若狭所の光蓮寺で行われている。

清九郎については、江戸時代に真宗や心学の立場から大いに宣伝され、明治以降は、孝子、妙好人、菩薩、聖人としてたたえられ、その生涯は映画（大正十一年）にラジオに紙芝居になった。『高取町史』（昭和三十九年）には、碑石への「参拝者のあとを絶たない」と記されているが、今日では、いつ訪れても、ひっそりとしており、時代

の流れを感じさせられる。

今回、清九郎の通った丹生谷から清九郎道をたどって墓へ至り、町石の立つ弁天道から、江戸時代に鄙社として近在の人々の信仰を集めた船倉弁天神社を訪ね、市尾方面へくだる古道をたどるハイキングコースを紹介する。

近鉄吉野線鶴橋駅で下車。駅前から右へ出て踏切を渡り、つきあたりで左折する。少し先で右折して進むと清九郎の宿坊、墓所山岡光寺に出る。本尊は木造阿弥陀如来立像である。寺の由緒は不明であるが、宝永五年（1708）以前の創立と考えられている（『鶴橋町史』）。清九郎古跡の石碑があり、「新木載上図」や柴を荷った初などの遺品が保存されている。竹の棒を逆にさして、畝の杭に使っていたら、芽が出て葉が茂ったという話が伝えられている。これを「奇瑞の竹」とか「逆竹」などといい、光蓮寺境内に移植したものは昭和十七、八年頃に枯死したが、因光寺に分植したものは今でも栄えているとのことである。遠藤撮雄『妙好人清九郎物語』（昭和六十二年、法蔵館、絶版）によれば、この種の竹は徳川・越後地方によくあるもので、清九郎の没後に北陸から持ち帰って植え、杭の話に結び合わせて「奇瑞」と称したものではないかという。

丹生谷道に沿って宅地造成も進んでいるが、耕村から2キロほどの、船倉川の上流の弁天山麓にある奥山集落（住民は福元と珍本姓である）へ入ると、昔ながらの風景が残る。分岐に新しい道標があり、まず大和清九郎の墓へ向かう。ほどなく右へ折れて山道に入る。この道は清九郎が念仏を唱えながら通った念仏坂として知られており、苔むした気持ちのよい坂道で、町石が残っている。やがて幅広い地道に出て右へ進むと舗装道に出る。正面には、地蔵の下に「右ほこたて道　左岩坪ひかいもと」と刻んだものと、「左せいくろさんはかミち」と刻んだ大正九年の石標がある。前者の石標から、右は鉾立街道、左は矢走から岩坪を経て稲垣本に出る間道が存在したことが分かる。大淀中学校（松垣本）の北西の八幡神社の東側の三差路に倒れている自然石の道標には、「右ほこたて清九郎ほか　左大阪さかい道」と刻まれ、裏面には安政二年（1855）の年号があるという（植口呂徳『吉野郡の道標』昭和五十一年、絶版）。

さて、左へ舗道を上がり、案内板に従って左へ細い道をたどると、清九郎の屋敷跡

と立派な墓に着く。ひっそりとしてはいるが、花が供えられ、清浄な雰囲気である。もとの舗装道に戻り、案内板により、清九郎の菩提所、清松山光蓮寺まで往復してくるとよい。光蓮寺は、もとは氏神社の下方にあって、山門を構え、二重屋根の堂々たる伽藍であったが、荒廃して、明治三十年代に改築された現在の地のお堂だけがなごりをとどめているとのことである。本尊は宅町末期の阿弥陀如来立像で、清九郎に毎

清九郎の墓

富士川游「新選妙好人伝第5編　大和清九郎」（厚徳書院・昭和12年）より

巨椿礼していたという。

もとの道をくだって、道標分岐に戻り、船倉弁天神社をめざそう。鳥居には天動祠、百度石がある。鳥居をくぐり、急坂を上がれば弁天社に着く。宮延二年（1749）の石灯籠があり、天保年間には、十七か村の郷社として信仰範囲も広い弁天様であった（『鶴翼町史』）が、明治維新以後はこの組織は自然消滅となり、現在はさびれている。モミジの木があり、紅葉の頃にはさぞかし美しいことであろう。

麓に戻り、道標に従って市尾道をたどる。ササが茂った道は右へ折れて、「右弁さい天」と刻まれた天保十一年（1840）の石標のある分岐に出る。左へ折れて尾根沿いの道をたどる。鞍部から坂を上がった後、分かりにくい分岐があるが、右をとってくだる。植林地に入ってまもなく辻があり、直進する道は上りになっているが、右側にある二本の道のいずれをとっても下で合流する。左へくだる道は荒廃だが荒れている。ここは右へくだり、荒伏になった古道の雰囲気を味わいながら進むと、草の茂る道となり、民家の左側から舗装道に出る。

北へ進むとつきあたりに庚申塚や灯籠があり、地蔵がまつってある。左をとって進むと右手に勝手神社がある。大正四年の神社調査書によれば、享徳三年（1454）の棟札があり由緒ある神社であったらしい。陸橋を渡り、前方に白壁の旧家が見えたら、カーブミラーのところで右折する。新池を見守る地蔵を見ながら、なつかしい田園風景の中を市尾駅へたどり着く。

（平成9年4月26日・29日歩く）

◇コースタイム◇

近鉄鶴橋駅（30分）道標分岐（30分）大和清九郎の墓（10分）光蓮寺（25分）道標分岐（25分）船倉弁天神社（45分）近鉄市尾駅

〈地形図〈2万5千＝畝傍山・吉野山〉

〈入手可能な清九郎に関する本〉

○井筒大学『妙好人清九郎』（宮帯出版）

○平川了大『妙好人大和の清九郎』（法蔵館）

○山陰麻呂『妙好人清九郎ゆかりの寺』（『捨てられた大和路』入春書房〈絶版〉）

○遠藤撮雄『妙好人清九郎物語』（法蔵館）

○遠藤撮雄『妙好人清九郎のお領解』（昭和六十一年、光蓮寺）（以上三冊のうち、前者は版元で絶版になっているが、著者の話によれば、二冊とも入手できる。問い合せ＝〒638　吉野郡大淀町大字下大岩1710　因因寺）

錦秋の尾瀬紀行①

尾瀬ヶ原と至仏山

田中　誠

「尾瀬の会」主催の「尾瀬紀行・秋の部」に家内が申し込んでいたが、よんどころない事情で行けなくなった。代わりとして急きょ私が参加することになった。

「春の部」（5月の連休）に、二度も参加した家内の話を聞き、また、いろいろな尾瀬の写真を見せられた。あたり一面の雪景色、長蔵小屋の雪化粧、わずかに生えている水芭蕉などで、「それはそれはすばらしかったよ」と言われても、ただ相づちを打つだけであった。

かの有名な「夏の思い出」の歌「夏がくれば思い出す、遥かな尾瀬、遥かな尾瀬」を知ってはいるが、「沼」とか「原っぱ」とかをわざわざ見に行ってもしかたないと考え、家内からお行け行けと言われても気乗り薄であった。しかしこのことがとんだ大間違いであることがわかった。

「尾瀬のことは尾瀬に行って尾瀬に聞け」と、「尾瀬の会」の松下会長の言葉通り"百聞は一見にしかず"で、私が描いていた尾瀬のイメージとは大変な違いがあった。

行程表には、到着した日の10月10日と翌11日には自由行動が組み入れてあり、希望者は「日本百名山」の至仏山と燧ヶ岳に登ることができるとあった。それで俄然行く気を起こしたのであった。尾瀬ヶ原や尾瀬沼はただ歩くだけでもよい。今回は百名山のうち二つも登れ、また機会があれば武尊山にも登れるかも知れない。

10月9日、京都駅八条口21時、大阪からのメンバーを乗せた大型バスが到着、京都からのメンバーも乗り込み一路尾瀬をめざした。バスの中では、松下会長より、極やかで機知に富み、またどこまで本当かとしばらく考えさせられるような、それでいて決して的をはずさぬ説明を受ける。一同大笑いのうちに打ち解け和気あいあいとなった。

木道の尾瀬ヶ原

名神を通り、小牧から中央道に入り、2時間ごとのトイレ休憩をはさみながら翌朝5時30分、尾瀬戸倉のホテル玉城屋に到着した。

一行全員洗顔を済ませ、ホテル料理長自慢の手作りハム付きのおいしい朝食をとり、

昼弁当を手渡され、大型バスから地元の小型シャトルバスに分乗し鳩待峠へと向かう。ここからは大型バスやマイカーは乗り入れ禁止となり、地元の小型や中型の緑ナンバーのみが入れる。急坂を登り始めるとバスの中はすぐに大はしゃぎとなる。車窓から眺める景色は、はや紅葉が始まっている。30分程の乗車時間もあっという間に過ぎ、8時10分鳩待峠に到着した。

早朝にもかかわらず鳩待峠は出発を待つハイカーでごったがえしていた。私らのパーティーは、尾瀬ヶ原にくだりて田代十字路の弥四郎小屋へ直行し、いったん休憩をして、三条の滝を往復する組と、至仏山を往復し、弥四郎小屋へ行く組とに分かれる別行動となる。見ていると、尾瀬ヶ原に向かう人のほうが断然多かった。割合から言えば八対二くらいである。

至仏山へは鳩待峠から往復する。ほとんどの人がザックの中身を軽の山小屋に預け、荷を軽くした。しかし登山には何が起こるか分からない。私はいつものことだが、中身を少しも軽くすることなく列の最後尾につき歩き始めた。

登り始めた当初は、順序よく並んでいたパーティーも他のグループに追いつかれたり、先行しているパーティーを追い抜いたりして、いつの間にかごちゃ混ぜになり、だれがどこのグループのメンバーなのかまったく分からなくなってきた。しかし、不思議なことには、あれほどごちゃ混ぜの登山者列も、しばらくもすると整然とゆっくり歩くようになってきた。前方に狭い木道が現れ、先を急ぐも追を譲るもままならず、しかたなく先行する人の後ろを歩くことになり、列は完全に一本にまとまり我慢の登山となってきた。

その我慢をやわらげてくれたのが紅葉であった。昨日降ったという雨にぬかるむ山道も気にならず、泥の水たまりに足を入れながら、右の紅葉、左の黄葉に目を移し、上を見上げればブナの葉っぱが朝日にキラキラと光っていた。いま、まさに精いっぱい輝くさまは、この秋一番のすばらしさを私たち登山者に見せびらかしているようにも思えた。このすばらしい錦絵は尾瀬紀行の最後の日まで続いた。

天然の織りなす美の「まんだら模様」を眺めながら、大勢のハイカーの後方を、あえて急ぐこともなく、ゆっくりと登る贅沢な山登りとなった。先行者が時折あげる歓声に目を向ければ、真っ赤に彩られた葉っぱが行く手の山道をふさぎ、まるでハイカーを通せんぼしているようにも思えた。

樹林帯を抜けるといきなり視界が大きく開けた。いちだんと大きな歓声が上がった。ふり返れば鳩待峠、そこから東へ中原山・富士見峠・白尾山と連なり、しっかりと色づき始めた高原が続いている。中間には尾瀬ヶ原、その向こうには悠々とそびえる燧ヶ岳、目の前は至仏山に続くなだらかな山稜。また真っ赤に色づいたうるし（？）の木々が、ばらまいたように山腹の所々に散らばり、まるで大きなてんとう虫の背中にも似て、メルヘンの国の山のようであった。登山者一同感嘆の声を上げながら尾瀬ヶ原をバックに記念写真の撮り合いとなった。狭い木道の上は渋滞してしまった。立入禁止の立て札を無視して木道を外れ草地に入って写真を撮り、年配の登山者から注意される者もあったりと、なかなかにぎやかな場面となった。

約10分ほど小休止の後、また登り始める。木道もやせ細り、傾みがだんだんと激しくなり道も悪くなる。狭く傷んで荒れた道を我慢しながら半時間も登り、小さな山を左に回り込むと、目の前にいきなり尖った小至仏の頂上が現れた。下から見ていたの

と同近から見たのでは山頂の様子がまるで違っていた。山肌いっぱいに大小の白い石が散在している岩稜地帯が続き、その登山道をハイカーが慎重に登っているのが見える。しかし、そこに行くまでの山道は所々でぬかるみ、いかにもよく滑りそうな丸い「蛇紋岩」、登山者がその岩の上に泥水で汚れた靴を順次乗せていくものだから、なおいっそう滑りやすくなり皆真剣に歩かざるをえない。

案内書によれば、鳩待峠から至仏山まで行程約2時間とあったが、小至仏頂上までで2時間余も費してしまった。しかしだれ一人として不満をこうものはおらず、楽しく優雅な山行となった。

小至仏山に到着し、至仏山の山頂を望めば、白い岩に挟まれた狭い登山道が延々と続いている。およそ30分の行程と予想する。稜線の左側は尾瀬ヶ原に続くなだらかな山肌、左側遠かに山岳地帯が続く。

小至仏の頂上に着く頃から、利根側より風が強く吹き始めてきた。登りに温った体も徐々に冷えてくる。上着を一枚重ねる者あり、帽子を深めにかぶり向かい風を避ける者あり。松下会長がバスの中で説明されていたことをここで思い出す。この稜線から利根川側に滑り落ち、行方不明になられた人が何人もいるということを、我々グループの面々はしっかりと思いだし慎重になった。

見えている山は「遠い」というように、すぐに至仏山の山頂にたどり着けそうに見えていたが、そこから山頂までなお小半時を要した。山道の両側をよく見れば、雪深き高山地帯のみに生えるハイマツに寄り添うようにシャクナゲがひっそりと生えていた。

11時10分、登り始めてからおよそ2時間半、ようやく至仏山にたどり着いた。狭い頂上は登山者でごったがえし、記念写真の撮り合いに忙しい。まわりを見渡せば360度の展望、さえぎるのはなにもない。東は尾瀬を囲むように続く峰々、北は平ヶ岳、西には谷川岳、南に武尊山。

百名山をめざし登り続けているこの三年間、雨とガスに妨られ頂上の展望を証拠写真に撮るのみであった。むろんまわりの景色はほとんど見ることができなかった。山がこれほどまで雄大だったとは、至仏山を登るまでほとんど忘れていたような思いがした。庚男の神通力（？）も、ここでは晴れ男、晴れ女のパワーに負けたようだ。同行者氏にこころから感謝したい。

山頂にて、山の神々に感謝の気持ちをこめ少々のビールを供え、一人乾杯する。百名山をめざしてこれが27番目、名峰至仏山に乾杯。

登頂後は往路を引き返す。何回もふり返り、至仏山に向かってカメラのシャッターを切る。山肌の所々に赤色のかたまりが鮮やかに大きく浮かび上がり、緑色とのコントラストが実にすばらしい。写真を撮りながら、感嘆の声を上げながら、優雅なプロムナードの下山となった。鳩待峠14時帰着。

峠は早朝以上に大勢のハイカーで、タクシーやバスまで加わってごったがえしている。鳩待峠の山小屋に泊まる予定なのか、尾瀬ヶ原まで行くのか、はたまた尾瀬歩きを十分堪能し戸倉温泉へと向かうのか。缶ビールで乾いた喉を潤しながら熱って眺めていた。右や左へと動いている人の波が尾瀬旅情をいやがうえにもかき立てる。

案内書によれば尾瀬ヶ原を通り下田代まで約3時間とある。私らも下田代の弥四郎小屋をめざし、それぞれのグループに分かれ三々五々歩き始めた。

鳩待峠より山の鼻まで、くだり約1時間

とある。石段を尾瀬ヶ原をめざしおりて行けば、尾瀬ヶ原より登ってくる大勢のハイカーとすれ違う。夕方間近のこの時間ともなれば、登りの人が行列をなし、くだる人はほんのわずかである。登ってくる人の目は輝いてはいるものの、たいそう疲れた様子で息を切らし、中に側に経験をおこしダウンした人を四、五人も見かけた。尾瀬沼方面から入ってきたのだと思うが、尾瀬ヶ原から鳩待峠までの最後の登りは一般のハイカーにとってはなかなか大変なことだとみえる。「尾瀬ヶ原」「尾瀬沼」と言えども標高は1400㍍以上もあり、伊吹山よりなお高い山岳地帯である。私とてえらそうなことは言えないが、ぜひ山登り覚悟で訪れて欲しいものである。

木洞れ日に手をかざし仰ぎみれば、左手の山側には、先ほど登った至仏山が威風堂々とそびえている。木道の左右に目をはせれば、両側に浮かび上がるまんだら模様、紅葉、黄葉、もみじに楓に、ブナの木々、それぞれが一年中で今が一番と、晴れやかに、鮮やかに、最高のおしゃれを競いながら、あたり一面に晴れやかさをまき散らしている。カメラのシャッターを何度も何度も切る。

山の鼻にて約10分の小休止、15時30分、下田代に向かい歩き始める。何軒かある山小屋を通り抜ければ、いままでとはまるで違った木道が遠かかなたまで延々と続いている。ここがいままで何度も何度も聞かされていた尾瀬ヶ原であった。

草紅葉で埋めつくされた尾瀬ヶ原には、時期的なことゆえミズバショウやニッコウキスゲはいっこうに見当たらないが、所々にシラカバやブナの木が点在し、はるかかなたの山の裾野まで続いている。向こうの空には燧ヶ岳が、悠然とその姿を暮れゆく夕日に赤く浮かび上がらせていた。

時間的に遅いのか、すれ違う人もめっきり少なくなり、挨拶することもなく、遠慮なく木道の真ん中に立ち止まりカメラを構えたり、水辺をのぞき込んだり、先ほどまでの散策路の喧噪とは大違い、静かでのんびりした尾瀬ヶ原ハイキングとなった。ふり返れば沈みゆく夕日は至仏山の肩にかかり、徐々に暗さが増してくる、前を見れば燧ヶ岳がその雄大な姿を大きく現し始めていた。明日登る予定の山頂のその険しさに、やるぞという思いが湧いてきた。

至仏山に沈みゆく夕日に染られ、黄金色にかがやく草紅葉の中、延々と続く木道を歩いていると、これが本州最大の湿原「尾瀬ヶ原」かと、雄大な大自然にわれを忘れるほどであった。夕日が至仏山に完全に隠れた17時30分、弥四郎小屋に到着した。

弥四郎小屋ではありがたいことに、本日「お風呂」がわかしてあるとのこと。風呂に入り汗を流し、早めの食事を済ませ、「尾瀬の会」恒例の酒持ち寄りパーティーが始まる。私も清酒四合瓶を持ち参加した。聞けば松下会長、この群馬県桧枝岐村出身とのこと、尾瀬の山小屋の主人たちとは旧知の間とか、尾瀬では顔の売れたお方である。あとで聞いた話によれば松下会長はこれまで、この尾瀬に550回以上訪れているとのことであった。そこでついた名が「尾瀬の玉三郎」であると、ご本人自ら言われていた。言われてみれば、いますこしお痩せになったら似ても似つかぬこともないと、参加者一同笑いながらうなづく。うなづきながらもアルミコップにウイスキーを入れ、小屋横の名水「命の水」で水割りをつくり、酒を飲みながら、スルメをかじりながら、尾瀬談義、山の話を続ける。楽しい尾瀬の秋の夜の酒盛りであった。

（平成3年10月10日歩く）

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電車　叡電・京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽万歩ハイキング・30周年記念「標高1000㍍葛城高原」　9月6日(日)雨天中止集合(阿倍野線窓口駅前9時10分～40分(コース)　近鉄御所駅―葛城登山口駅―くじらの滝―行者の滝―葛城山頂上(ロープウェイ又は徒歩)　葛城登山口駅(バス又は徒歩)　近鉄御所駅(約10㌔)　参加無料(ロープウェイ・バス代は別途)　参加自由、天王寺事業06(624)0382～3

▽近鉄・南海合同企画・金剛生駒紀泉120㌔縦走・葛城山ロープウェイ開業30周年記念「金剛山から葛城山へ」　9月14日(日)雨天中止集合金剛山登山口(滝畑林駅からバス約35分、臨時バス運転)　9時～10時(コース)　滝畑林駅(バス)　金剛登山口(受付)―金剛山―水越峠―葛城山―ビジターセンター前(ゴール)　葛城中ノ駅(ロープウェイ又は徒歩)　葛城登山口駅(バス又は徒歩)　近鉄御所駅(ファミリー向け約10㌔、一般向け約17㌔)　参加無料(ロープウェイ・バス代は別途)　参加自由、天王寺事業06(624)0382～3

▽読売ファミリーハイキング・奈良大和路の峠を歩く・第7回「高取山から小南峠へ」　9月21日(日)雨天中止集合宮滝駅、市口駅前9時(コース)　下市口駅(バス)　川合―高取山―小南峠―洞川温泉(バス)　下市口駅(約14㌔)　洞川温泉に泊まる者は入浴可、参加無料(バス代は別途)　参加自由、天王寺事業06(624)0382～3

▽歴史街道キャンペーン1997「歴史街道100選」探訪ハイキング第3回「山の辺の道(桜井)を訪ねる」　9月23日(祝)小雨決行集合大阪線桜井駅北改札前10時10分(コース)　桜井駅(バス)　巻の内―檜原神社―三輪明神―金屋石仏―率川神社―聖林寺―メスリ山古墳―安倍文殊院―桜井駅(約13㌔)　参加自由、謝礼桜井市観光協会、上本町事業06(775)3566

▽ウィークデーハイク・歴史街道花の道を行く(彼岸花)・石段を赤く染める曼珠沙華「仏隆寺」　9月25日(木)雨天中止集合大阪線橿原駅前10時(コース)　橿原駅(バス)　高井―弘隆寺―室生口大野駅(約12㌔)　参加無料(バス代別途)　参加自由、上本町事業06(775)3566

京阪

▽スポニチファミリーハイク「水井山・大原コース」　9月27日(日)雨天中止集合ケーブル八瀬遊園駅9時～10時(コース)　ケーブル八瀬遊園駅(ケーブル)　比叡駅―八瀬―沖土塔前―釈迦堂―玉体杉―横高山―水井山―仰木峠―大原上野町―三千院前(解散)―大原バス停京阪電鉄事業部06(944)2522

叡山電鉄

▽スポニチファミリーハイク・叡山から小南峠へ　9月21日(日)雨天中止集合宮滝駅、市口駅前9時(コース)　下市口駅(バス)　川合―高取山―小南峠―洞川温泉(バス)　下市口駅(約14㌔)　洞川温泉に泊まる者は入浴可、参加無料(バス代別途)　参加自由、天王寺事業06(624)0382～3

▽近鉄登山・名山を行く「荒野富士から御在所岳・国見岳へ」　9月27日(日)～28日(月)雨天決行集合鈴鹿の山麓鈴鹿駅11時10分(コース)　1日目・湯の山温泉駅―荒野富士―斉滝―山の家(泊)　2日目・山の家―武平峠―御在所岳―国見岳―湯の山温泉駅(約24㌔)　＊天候状態等によりコースを変更する場合があります。参加費5000円定員100名(6月2日より電話受付開始)　参加資格中学生以上60才までの健康な方、謝礼三重山岳連盟、天王寺事業06(624)0382～3

電シリーズ4「鈴鹿・養老ヶ岳コース」　10月12日(日)雨天中止集合阪急鈴鹿駅9時～10時(コース)　鈴鹿駅―薬王坂―静原―高畑ヶ岳―紫見坂―鈴鹿木野駅(約12㌔)　叡山電鉄運輸部075(702)8111

阪急

▽キャラバンスペシャル・六甲全山縦走チャレンジシリーズ3「旗振山・須磨アルプスコース」　9月7日(日)雨天中止集合山陽須磨浦公園駅前出発10時(コース)　須磨浦公園―鉄伏山―旗振山―鉄拐山―おらが山公園―高倉台住宅―摩尼山―横尾山―東山―鈴法寺駅(約13㌔)上級向　参加自由・無料、阪急創遊開発部06(373)5326

▽第15回東六甲山系クリーンハイキング「神会滝・奥池コース」　9月14日(日)雨天中止集合阪急芦屋川駅下車すぐの芦屋市勤労福祉会館前出発9時30分(コース)　勤労福祉会館前―桜道―桜谷滝―ゴロゴロ岳―イモリ谷―奥池(約6㌔)一般向　参加自由・無料、阪急創遊開発部06(373)5326

▽日刊スポーツファミリーハイク「十万辻・中山最高峰コース」　9月23日(日)雨天中止集合JR武田尾駅前出発10時30分(コース)　武田尾駅―立会新田―四十万辻―波谷―長尾谷ダム―中山最高峰―廣の荒参道―中山寺―阪急中山駅(約12㌔)一般向　参加自由・無料、阪急創遊開発部06(373)5326

▽キャラバンスペシャル・六甲全山縦走チャレンジシリーズ4「高取山・菊水山・鍋蓋山コース」　10月10日(日)雨天中止集合地下鉄妙法寺駅前出発10時(コース)　妙法寺駅―高取山―丸山住宅街―鍋越駅―鈴蘭台下水処理場―菊水山―天王谷橋―鍋蓋山―大龍寺―市ヶ原―新神戸駅(約16㌔上級向)　参加自由・無料、阪急創遊開発部06(373)5326

南海

▽朝日ファミリーハイキング「学文峰ハイキング」　3月13日(日)雨天中止集合神海高野線学文峰の台駅前9時30分(コース)　学文峰の台駅(バス)　神ヶ丘口―延命寺―千早口駅―地蔵寺―ジルミ峠―学文峰―下峠―浜谷八幡―大日駅(約9㌔)　参加無料、参加自由、南海総合サービスセンター06(643)1005

▽朝日ファミリーハイキング「鉢巻山ハイキング」　10月4日(日)雨天中止集合加太線加太駅前10時(コース)　加太駅―日浦―鉢巻山(小島の森―家族の広場―見晴しの丘)―淡島神社―加太駅(約7㌔)　参加無料、参加自由、南海総合サービスセンター06(643)1005

山陽電車

▽山陽ハイキング「須磨名月ハイク」　9月15日(祝)雨天中止集合須磨浦公園駅下車・鉄伏山上展望閣前18時30分(コース)　須磨浦山上展望閣前―旗振山―おらが山―須磨寺(約4㌔家族向)　＊懐中電灯必携のこと、会費無料、参加自由、須磨浦遊園ハイキング係078(731)2522

▽山陽ハイキング「萩とススキの道ハイク」　9月23日(日)雨天中止集合妻鹿駅・東5・5㌔松原八幡宮お旅所10時(コース)　妻鹿駅―お旅所―小富士山(海牛山)―白浜の宮駅(約10㌔一般向)　会費無料、参加自由、須磨浦遊園ハイキング係078(731)2522

○新ハイ関西サービスチェーン

名称・二破登山　小自然―大台原―甲子・熊沢への縦走基地　1名でも経営上採算可能(要予約)　奈良県内と内容

福島・二破温泉
日親連　大和館
〒952-06
福島県佐賀郡夫婦村二破温泉
電　0248-88-2021
F　0248-84-3105

西円山・湖ノ丸山・池の平原山縦地
標高360㍍、日本列島山のうち約30が指降できる第二の大パノラマへ

新潟県東蒲原郡
真田屋
〒959-10
新潟県東蒲原郡村上町熊沢温泉
電　0257-98-0111

富士登山・富士一周
東富士自然歩道
(石割山・ハリモミ・紅葉)
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401-05
山梨県南都留郡山中湖村平野
電　0555-65-6515

大菩薩峠登山の中継
ふもと松籟荘の宿
(国道・塩山駅より約40分タクシー40分
バス約50分塩山口下車徒歩3時間)
山小屋　福ちゃん荘
〒404-　山梨県塩山市上萩原
電(自)　0553-33-4639
(山小屋)　0530-14-7921

▽山陽ハイキング「御津町イモ掘りハイク」 10月10日(日)雨天中止集合山陽網干駅下車西約0・3㌔揖保川河川敷右岸10時〈コース〉揖保川河川敷右岸―新屋―城山新田（イモ掘り）―宮鳴神社―龍門寺―大覚寺―山陽網干駅（約10㌔）家族向）イモ掘り関入園料要、会費無料、参加自由、須磨離宮園ハイキング係078（731）2520

▽山陽ハイキング「高御位山縦走ハイク」 10月19日(日)雨天中止集合山陽曽根駅前曽根天満宮境内10時〈コース〉曽根天満宮―時光寺―鹿嶋神社―高御位山―長尾―曽根駅（約16㌔）壮健向）会費無料、参加自由、須磨離宮園ハイキング係078（731）2520

神戸電鉄

▽神戸事件にかかわる歴史の道・「藍那・大歳神社・名谷・徳川道ハイク」 9月23日(日)雨天中止集合藍那駅10時10分〈コース〉藍那駅―横尾辻―徳川道―大歳神社―白川台―名谷駅（約8㌔）一般向）会費無料、参加自由、神鉄観光事業部078（521）0321

▽「小野・加古川市境ミステリーハイク」 10月5日(日)集合粟生駅10時25分（健脚向）〈コース〉当日発表、会費無料、参加自由、神鉄観光事業部078（521）0321

▽歴史を秘めた静寂境を歩く「神鉄鉱山跡と丹生山ハイク」 10月19日(日)雨天中止集合藍那駅9時20分〈コース〉藍那駅―藍那古道―菊炭鉱山道―菊炭山―丹生山―市バス丹生神社前（約12㌔）壮健向）会費無料、参加自由、神鉄観光事業部078（521）0321

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「宇賀渓砂山（山沿いコース）」 9月7日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム8時〈コース〉近鉄富田駅（電車）大安駅（バス）宇賀渓キャンプ村―（山隠道）―五階滝―長屋滝―（砂山道）―砂山―宇賀渓キャンプ村（バス）大安駅（電車）近鉄富田駅（約8㌔）初心者向）参加費200円、参加自由、三岐鉄道観光係059 3（64）2141

▽鈴鹿の山を歩こう「初秋の御池岳」 9月21日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム8時〈コース〉近鉄富田駅（電車）御池（バス）御池岳登山口―（コグルミ谷）―御池岳―鈴北岳―鞍掛峠（バス）西藤原駅（電車）近鉄富田駅（約11㌔）参加費200円（バス代大人1000円小人500円）予約申込制200名、三岐鉄道観光係059 3（64）2141

▽鈴鹿の山を歩こう「初秋の藤原岳」 9月23日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム8時〈コース〉近鉄富田駅（電車）大安駅（バス）宇賀渓キャンプ村―五階滝―ヨコ谷出合―（中道）―竜ヶ岳―石神峠―小峠―（旧道）―鞍掛峠―宇賀渓キャンプ村（バス）大安駅（電車）近鉄富田駅（約12㌔）壮健向）参加費200円、参加自由、三岐鉄道観光係059 3（64）2141

尾鷲、平ケ三国峠特と釣りの山小屋
秘境三川川荒屋迫公園内
清四郎小屋
ほんものの手打そばと炭出は
海
〒946 新潟県北蒲原郡
電 0250―55―8002（表銀山）
0257―21―5026

汗をたっぷり流せる温泉と
恵ケ峰牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949―21 新潟県中頸城郡
妙高高原町池の平温泉
電 0255―86―2261

高山の花、湿原の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949―21
新潟県中頸城郡妙高高原町
池の平温泉 ナガサキロッジ
電 0255―86―2261

海から昇る朝日と海に沈む夕日
を眺め、山と海の両方が楽しめ
る、大佐渡観光の拠点。星と夜
景に酔いながら語らいはずむ
国民宿舎 大佐渡ロッジ
1泊2食付き 6800円
〒952 新潟県両津市椎
電 0259―27―4570

せせらぎ

題字・小林玻璃三

1月12日、「鈴鹿を歩く20」に参加しました。

綿向山、それはずっと以前から心のどこかであこがれていた山でした。能登に車を駐め、まず滝を見に行きます。滝の近くにある神社に置いてあったノートに「今年も無事に登れる山が歩けますように」と記入する。お賽銭もあげずにお参りだけです。

文三ハゲの手前では小休止。目の前にうっすらと雪を冠った綿向山。文三ハゲは下から見上げると木曽駒の千畳敷カールのよう。踏み跡のないまっさらの雪の上を、まず、山本さんが一歩一歩注意深く足を踏み入れます。そして、次が私。アルプスの雪渓を歩いている気分です。稜線に出てからは、雪で平分ササが倒れているので歩きづらいことこのうえなし。

綿向山の頂上は展望の良いらしで、雨乞岳・イブネ・クラシ・杉峠・御池岳も見えます。そして、鎧ヶ岳に仙ヶ岳。

目の前の小枝には雪の花がしっかり付いています。綿向山の北斜面は雪の花が満開で、一番の感動場面でした。「桜の花が咲いたみたいねえ」とメンバーの方。

水無山に登る途中、遠く霊仙や伊吹も見え、身も心も洗われるようでした。人が通った後、枝から舞い落ちる雪が、キラキラッと光る素敵な光景も見ました。

青空に感謝の一日でした。

（小田 妙子）

昨年の今頃、西部郡（長野県西部）の名水の場所を知りたいと、ある観光者の質問を受けた。宝町期に「信濃十水」と呼ばれた名水があり、茶人などに親しまれたがその後水脈が濁れたり、埋め立てや忘れられたりして一部をのぞき昔の面影はない。

今、名水と呼び、街人がポリタンクを車に積んでやって来る所は、村人が数日年守ってきた飲料水や旅人が喉を潤した清流の湧水である。この水源に踏み込み、蛙音とゴミを捨てマナーの悪さに辟易していたので情報の提供を条件に"来た時よりも美しく"の啓発標語を入れるようにお願いした。

林道工事や建物の建設中に水脈に当たり、これに「名水」を冠し、観光資源にしている町村も現れ、名水とは何なのか聞いたい気分である。ちなみに、我が家の冷蔵庫には2日の山の水が収まっている。

（須磨岡 巍）

長い間山にカメラを持って行くことはなかった。重量のある一眼レフを持って歩く程の体力もないし、軽量のバカチョンカメラでは満足な写真も撮れないし、という

休憩食・食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福島館
〒250―06 神奈川県足柄下郡
箱根町仙石原―338
電 0460―4―9041

「温泉の師匠子」の湯煙 レトロな宿
駿下に河川の源流
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘
ご婚礼の方に当地（天城山）ハイキングコース案内書を差し上げます
〒413―05
静岡県賀茂郡河津町湯ヶ野503
電 0558―35―7225

四季織りなす東富士原のハイク
上吉田・富士吉田へ 冬はスキー
けやき造りと炉の宿・日蓮連
温泉旅館 けやき山荘
〒390―15
長野県南安曇郡安曇村温泉西原
電 0263―93―2333

さわやかな信州
歴史の湯巡り 山吹の湯
湯田中温泉（神湯）
日野屋旅館
〒381―04 長野県下高井郡
山ノ内町湯田中温泉稲荷
電 0269―33―3578

誤である。

しかし、数年間三角点測量石に大変興味のある方と知り合い、その方と何度か山に登っているうちに、いつの間にかこちらもマニアになってしまった。

以来山行きには必ずバカチョンカメラを提げて行くことにしている。三角点測量石を撮るくらいはこのカメラで充分である。お陰で相当数の枚数になっている。

本来一回一山主義なので、余程の事のない限り再登はしない。まして今迄石の写真を撮るためにのみ山に登るようなことは先ずなかった。しかし昨年秋頃から、過去に登った山で三角点測量石の写真のない山のリスト表を作って、一つずつ再登している。

目的の山の登山道や下山道の近くに、2万5千図に三角点の山があれば、それが少名のない山であっても、少々の時間が掛かっても、ついでに写真を撮ってくることにしている。

再登して思ったことは、以前に比べてずいぶん山が荒れていることで、全く放置された山の多いのは悲しい。倒木で山道が塞がれルートが変わっていたり、沢の流れが違う方向になっている山もある。整正、いい山の思い出が一つ一つ壊れていくような気がしてならない。

（辻　三郎）

高山横断のコバイケイソウは花も美しく、群生する姿が印象に残るのが、知っている人は多いはずです。ところでバイケイソウの花となるとどうでしょうか？

私たちがフィールドとしている北鈴鹿には群生していますが、いままで花はほとんど見ることはありませんでした。おおざっぱに言って500～1000本に1本咲くか咲かないかといったところでした。

多く咲く年の御池岳でも100本に1本くらいしか咲きません。しかし、今年は雲仙山・御池岳・藤原岳においては、80～90％。場所によってはその全てに花が付いているのです。それは見事な眺めですが、このようなことは過去の記憶になく、何かの自然現象の前触れではないかと疑いたくなるほどです。

ササに花が咲くと枯れると言われますが、このところイブキザサの花も時たま見ますので、「じくね」（イブキザサが一斉に枯れること。大君ヶ畑の言い伝え）が来るのでしょうか？

このようにバイケイソウに多くの花が咲くのは一生に一度あるかなしかのことなのでじっくりと見守っていくつもりです。

（山田　明男）

5月11日、本誌24号・64ページのコースガイド「三国岳」（出口憲次著）のコピーを持って、早朝4時過ぎ茨木市の自宅を車で出発した。

途中トンネルを6時までに通過したので、通行料150円は不要。古座に6時過ぎに到着した。朽木村の人は、登山者に非常に親切である。登山口だけでなく流尻橋付近の駐車場所まで教えてくださった。

登路では、すでにシャクナゲの花期は終わっていたが、イワカガミの花がまだ咲いており、その美しさに感動しているうちに、いつのまにか登頂（8時15分）した。

1時間弱の休憩後、尾根道をくだる。イワカガミはここでも咲いていた。圧巻は、伐採地に出て針畑川が真下に眺められる所からだ。

標高2000m級の上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384
長野県小諸市菅平高原
電 0267－25－2000

日本最高位の温泉（34℃）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先〒930－14
富山県上新川郡大山町米宮3－47
電 076－482－1331
4／9～11／25は見地へ
電 0764－65－4595

ハイキングに／スキーに／
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯終点下車
電 0269－34－2421
東京事務所 東京都新宿区新宿3－20－5（新洋第2ビル）
㈱スポーツサービス
電 03－3341－0211

塩の道 千国街道
百八十七峯「裏信濃」
ホテル
白馬プランシェ
〒399－93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 0261－72－4452

イワカガミの小群落が満開で、ツボ状林道に飛び出るまで、次から次へと歓迎してくれた。

県道に通じる針畑川の尖太橋はみつからなかった。地元の方の証言では、流失してしまったとのこと。やむを得ず、迂回して桑原橋を経由しての駐車場所までの道のり（10時30分着）は、長かったが、たくさんのイワカガミの花に出会えた喜びで苦にならなかった。

最後に一言。「イチリンソウは標山岳、イワカガミは三国岳」

（吉條　孝次）

6月の例会の赤坂山は、自然観察山行として実施しましたが、27名という多数の参加となりました。全員の方がじっくり植物などの観察を楽しむというのもむつかしく、期待はずれだった方もおみえになると思います。

回数を重ね、皆さんからのご意見もいただきながら工夫していきたいと考えています。

ところで、最近出版された書籍のご案内をいたします。

一つは、財団法人東海財団が発行した「中部の山々」という小冊子です。これは、登山のガイドブックではなく、山の自然を観察するための入門書として、中部の山々の自然の様子をまとめたもので、長野・岐阜・三重・愛知・静岡各県の山岳のうち、アルプスから1000m級の山のいくつかを紹介しています。発売所で書店には置いてなく、東海銀行本店内東海財団（〒460名古屋市中区錦3の21の24 ☎052（21）1111）へ、270円切手（郵送料）を同封して申し込む必要があります。財団へ直接出向けば、無料で入手できます。

ただ、ここで紹介する書には、ひょっとすると予定配布数が完了しているかもしれません。その場合には、あしからず。

もう一つは、ものみ山自然観察会・海上の森ネットワークを著者として、拳（こぶし）出版から発行された『海上（かいしょう）の森の花虫鳥』という本です。

愛知万博の会場として開発が予定されている海上の森で、八年間にわたり自然観察会を行い、森とその周辺の自然を撮影した美しい写真を満載し、観察のポイントなどが分かりやすく解説してあります。失われつつある雑木林の草・樹木・昆虫・哺乳動物などの図鑑としても優れた、大変楽しい本です。定価は1860円＋消費税。最寄りの書店に注文してください。

（鷲見　守康）

山と渓谷社の『大阪周辺の山』や昭文社の『山と高原地図』を開くと、北摂の山々としては、北部に弥十郎ヶ岳・深山・大野山・高岳・剣尾山・小和田山・千丈寺山・大船山・笠床山・三草山・歌垣山、南部に羽束山・百島峠・妙見山・大峰山・大岩岳・中山連山・五月山等山を見ることができる。

近畿百名山（本誌9号）には剣尾山しか採られていないし、標高は、最高の深山でも791mしかないとあって、登山者の評価は低いようである。しかし景観の優れている山が多いことや、能勢の里のように「のどかな農村風景の中に点在する、里山ハイキングにうってつけの山が多い」（『分類登山ガイド』）反面、独立峰的な尖峰にも登れるとあって、低山愛好者には捨てがたい魅力を発揮してくれる。

私は、この5月には最深部にある弥十郎ヶ岳（715m）へ、6

春・秋 小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和田森
〒399－93 長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
電 0261－72－6351

登山歴20年のオーナーが雪倉～朝の木岳、西鉢山～火打山などへご案内します。
テントキーパー
1泊2食付き 6500円から
〒399－93
長野県北安曇郡白馬村おちくら
電 0261－72－2151

八ヶ岳南麓標高1000m
50年秋新館増築完成全部屋
木の香りの新館生まれ生木山荘
オーレン小屋
1泊2食付き 6000円
4月末～11月末開設
〒391－02 茅野市湯平27220 小平勇夫
電 0266－72－2279

北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー
JR茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
家族旅館
プチホテル カナール
〒391－03
茅野市北山蓼科高原笹丸平553
13の1
電 0266－67－2258

月にはやはり北部に位置する高岳（722㍍）に登り、その良さを十分満喫することができた。

後者は、本誌主催の地図読み山行会に参加したもので、これまでに本では読んだことのある地図やコンパスの使い方を実地に勉強したかった。また「山頂直下の広場から北側の全部の山を見ることができます」というフレーズに魅かれたためでもある。

懸念された天候も問題なく、前記広場にて山座同定が行われた。北側は樹木の茂りに遮られてチラッと深山を見つめたのみだったが、南側では大船山・羽束山・能上山・堂床山・三平山をはっきり確認することができた。

これで前記の山々のうち、十一山を登ったことになり、今後も北摂の山に登って行く予定であるが、それには今回のいろいろな経験が非常に役立つであろうことは間違いない。あらためて当日ご指導いただいた中村リーダー代行に感謝の三唱を捧げる次第である。

（東谷　宏）

6月30日、友人といっしょに鈴鹿北端の霊仙山に登ってきました。JR柏原駅から柏原道を登ることにしました。

名神高速道の下をくぐり、養鶏場の横を過ぎて行くと、上流は砂防堰堤工事のために延長された車道となり、左岸に渡たる橋に着きました。

橋の少し上流で崩壊があり、ここも修復工事中でした。普通ならもっと上流まで車で仕事に行く人が、私たちの後から歩いて来られました。

しばらく雑談を交しながらいっしょに歩いていましたが、山仕事の山林に入られる手前で、「この谷はヒルが多いから用心しいや。六合目から七合目くらいまでいよるよ」と教えてくださった。

そういえば、今年の5月1日、湖の山温泉から雲海峰を越えて鎌ヶ岳をめざした時にも、「今年はヒルが多いから気いつけや」と教えてもらったことがありました。

昔は、大彩谷の登山道でも何回かやられたものですが、この二十数年間、人さまの被害は見たり聞いたりにしましたが、私自身はやられておりませんので、この日も「草むらに入らないようにして、道の真ん中を歩いていれば大丈夫ですよ」と言いました。

ところが、それから10分あまり歩いて、一合目までの半ばあたりで、ザックを下ろして一服したあと、歩きだそうとしたら、友人のズボンの裾に一匹ついているではありませんか。念のため、地面に置いたザックの底を調べたら、そこにも一匹ついていました。

下山は、谷山谷を上丹生へ向かいましたが、滝ヶ滝の休憩所までは何事もありませんでした。休憩所で、丸太のベンチに腰を下ろし、右のスボンの裾をまくると、驚いに一匹吸いついていました。払い落としたあとへ、友人の吸殻入れの灰を擦りこんだら、吸いついてすぐだったらしく、出血もほとんどなく、カユミもたいしたことなく済みました。ザックにも一匹ついていました。これは滝の上部の登山道で、写真を撮るためにザックを下ろした3～4分の間についたものでしょう。

このヒル、だいたいは草の葉の裏や、湿った枯れ枝・小石の間などを住み家にしているそうですが、狭い谷などでは、樹上からも落ちてきて、首筋から侵入することがあるといいます。

日本唯一の女人禁制の山「大峰山」（当名「山」）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638-04
奈良県吉野郡天川村洞川
電　07477-4-0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電　09974-5-3021

ハイキング・キャンプに！
鈴鹿国定公園
観明渓谷　あさけ茶屋
〒510-112
三重県三重郡菰野町千草
電　0593-93-1789

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。山行の思い出や感想など。一行15字詰め・20行程度にお書きください。

新ハイキング関西編集室

標高700㍍から800㍍の山では、10日半ばまでひっつくということですから、せいぜい用心してください。（松尾　和三郎）

薄雨の晴れ間をねらって声生へ山同いた。「三国岳・杉尾峠」は何度も歩いたコースだが、今回は約一年ぶりになる。木曜ハイクの10月例会の下見を兼ねたので、木ハイの亜鎮N氏にご同行願ったところ、大阪から車で駆けつけていただいた。

杉木村奥の集落生杉からなお急峻林道を1・5㌔奥へ入り、若狭路谷の三国峠登山口から入山した。登山をほんの2～3分も歩いた地点で、左手の茂みの中から一頭の鹿が跳び出し急斜面を駆け上っていった。奈良公園の鹿などとは大違いでスリムで俊敏、思わず「お出迎えありがとう！」

「三国岳」の稜線に登り着いた所がクチクボ峠で、若狭側は見事なブナの原生林。鹿の通る緑のバウダイスだ。小さな峠に佇む「○経塚」と刻字のある石塔をあとにして急登に挑み、一汗かいたら三国峠山頂に到着した。

三角点（775・9㍍）からはほぼ全方向に眺望が得られて、わずかに潮の香りがあった。北方の重畳たる山並みの彼方には日本海が広がっているはずで、潮の香は気のせいではないようだ。

下山路は生杉のブナ原生林への道を見送り枕谷ルートをとる。由良川最源流の枕谷は穏やかで、のんびりと散歩気分で声生の中山神社横に降り立った。

上谷に架かる木橋を渡って右、杉尾峠をめざす。サワ谷渓流との分岐は直進し、右手に野田畑温泉を見ながらさらに上谷の上流へと歩を進めると、ブナやトチの大木が散見できるようになる。澄きった冷水にそれらの影が映える。小さな池の周囲の樹木にはモリアオガエルの卵塊がぶら下がっていた。幻想的であくまでも静寂なこの谷間は、広大な北山山塊でも秘境中の秘境と言えるだろう。

杉尾峠（765㍍）からは丹後や若狭方面の展望がよく、時によっては冠雪鮮やかな雲山が望めるのだが、今回は残念ながら見えなかった。休憩の後Uターンして長谷谷作業所に立ち寄り、さらに地蔵峠へ。林道を25分ほどくだると左前出の生杉ブナ原生林に着く。10月の本番には迎えのバスがここまで来るのだが、この日はさらに30分歩いて駐車場に戻った。

（前中　毅）

山は焼けているだろうなあ、青空を透かして紅葉、黄葉に谷は埋まっていることだろう。

早く帰るからと手近な鎌ヶ岳に行くことにした。宮妻峡に入ると渓流は浮うじて見えるものの森の梢先はガスの中に吹かれていた。

鎌ヶ岳のバッドレスを視野一杯におさめると、頂上に行きたくなってしまい、小鈴のピークに向かう。この峰はほんの少しの広さしかないけれど、誰一人居ることはちょうどよい二畳ほどの広さなのだ。

北はよろいの岩場、頂部から西側に大量の崩壊が走って新しいルンゼが生まれている。お山も年々変わっているのだ。

安定した岩場に生えるツツジ類は赤く染まって、岩をつなぐ杜のように見える。山頂の雑木は紅葉を落としてイガグリ坊主のように、いや、馬のたて髪が逆立っているかのようでおもしろい。

赤い杭の上に寝ころんでビールを飲く、ラジオを入れて、ヤッケを着込んで寝ころんで空を見る。うすネズミ色の空から思いついたように雪が降りてきて、イガグリ坊主の髪を融すのだった。

岳峰における、宮妻峡へ回り込むと、紅白合が見事な紅葉で埋まっている。こんなに色鮮やかに焼け染まったのを見るのはひさしぶり、ため息がでるほどでした。

（筒井　克治）

六月山行報告

1日　「やま上塩形区の会」例会。Ⅲ△百石（「大和白石」）案内。参加24名。

5日　伏見公民館「大和の峠を歩く」案内。伊勢澤街道・高見峠を登り下る。水準点4つ。45人。

7日　Ⅲ△瑞水（「上田内」）へ。計364㍍。93%。

11日　生駒さくら会案内。天理市松尾の滝～大親峠～大国見山。参加9名。

22日　「点のつどい」例会。Ⅲ△柚野山（「中戸」）と西吉野温泉案内。参加26人。

26日　「峠一番」例会。石切峠・椿生街道案内。18人。

（上田　健弘）

山行計画

（9・10月）

新ハイキングクラブ岐阜

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名義代その他の資料代等費をいただくことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。

体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発当日呼の際、係に保険料日額100円と救援対策費日額50円合計150円（後行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上傷害保険と契約）

	日額	日新
死亡・後遺障害保険金額	1000万円	
入院保険金	6000円	2500円
通院保険金		

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行名（正確に記入すること）

期日

住所 〒

氏名

会員番号

（会員でない方は会員外と記入）

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL

（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

富士・古光山（やや健脚向き）

期日 9月7日(日) 日帰り

集合 近鉄名古屋駅北口7時15分（7時31分発に乗車）

コース 名古屋駅（電車）名張駅（タクシー）大峠—古光山—後長峠—太良路（バス）名張駅（電車）名古屋駅（18時38分着解散）

費用 約6000円（名古屋からタクシー代含む）

地図 2万5千＝倶留尊山・笹野

係 ◎小出良春

申込み 〒448 刈谷市一里山町一里山59の3 小出まで

ピークの連続を縦走とロープにつかまりながらの滑りやすい稜線を縦走する。雨天中止

＊名張駅へは、9時40分頃着きます。名張駅で集合の人は申し込みハガキに明記してください。

平Eふれあいハイク4

北良・蛇谷ヶ峰（一般向き）

期日 9月9日(日) 日帰り

集合 JR京都駅湖西線のりば8時（8時12分発近江今津行きに乗車）

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。

申し込みの返信案内は期日が迫まり次第、山行日の10日前頃にします。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

（初心者向き）やさしいコース

（初級向き）どなたでも歩けます

（一般向き）ハイキングの高揚コース

（中級向き）かなり経験者のコース

（やや健脚向き）（健脚向き）は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

コース 京都駅（電車）近江高島駅（バス）畑—ボボフダ峠—蛇谷ヶ峠—猪の黒場—桑野橋（バス）安曇川駅（解散）

費用 約4000円（京都から）

地図 昭文社＝「46比良山系」

係 ◎川上久堅

申込み 〒610—01 城陽市寺田大峠10の10 新ハイキング関西まで

比良山系の最北の山。山容もよく頂上から展望もよい。コースは樹林の中で涼しい。雨天中止

平田木曜ハイク33

朽木・自倉岳（中級向き）

期日 9月11日(木) 日帰り

集合 JR湖西線・堅田駅8時10分

コース 堅田駅（バス）西村井登山口—鳥越千峠—日倉岳—南原—朽木指三（バス）堅田駅（解散）

費用 約2500円（バス代・保険料）

地図 2万5千＝久多・鞍迫野

係 ◎前中 毅 ○藤田元彦

申込み 〒610—01 城陽市寺田大峠10の10 新ハイキング関西まで

白倉三山を縦走します。主峰からは比良・武奈ヶ岳が指呼の間に望め、中岳では巨大杉が迎えてくれます。小雨決行

三軍の山35

鈴鹿・御在所岳（一般向き）

期日 9月13日(日) 日帰り

集合 近鉄湯の山温泉駅前8時

コース 湯の山温泉駅（車）蒼滝の駐車場—裏道—藤内小屋—国見峠—御在所岳—中道—負れ石—裏道—蒼滝—蒼滝駐車場（解散）

費用 150円（交通費各自）

地図 昭文社＝「45御在所・鎌ヶ岳」

係 ◎長崎英五 ○滝田逸夫

申込み 〒519—03 鈴鹿市大久保町2065 稲垣まで

涼しい風が吹き上げる初秋の御在所岳を歩く。コースは歩きやすいよく踏まれた道です。急登あります。雨天中止

山伏修行1日入門

大峰・山上ヶ岳（一般向き）

期日 9月13日(日)～14日(月)

1泊2日

集合 （13日）洞川温泉バス停

（14日）集合地—旅館（泊）

コース （13日）集合地—能泉寺水行—旅館（泊）

（14日）旅館起床2時出発（バス）大峠大峯—一本松茶屋—洞辻茶屋—表行場—山上宿坊—裏行場（金剛童子のみ）—往復コース—旅館（入浴）—能泉寺（終了証の授与）—旅館（昼食・精進あげ後解散13時頃）

費用 約10200円（宿泊・修行代1泊3食と保険代、当日）

＊現地までの交通費は各自で

係 ◎奥村誠治

申込み 〒648 橋本市城山台2丁目39の7 奥村まで

男性に限る（8月31日必着で）

全国唯一の女人禁制の山、大峰山（山上ヶ岳）で山伏修行を行います。現地での旅館、夜間登山の案内、修行等については旅館組合で対応します。雨天決行

自然観察山行4

美濃・伊吹北尾根（中級向き）

期日 9月14日(日) 日帰り

集合 岐阜県揖斐郡春日村役場9時

コース 春日村役場（車）国見峠—国見岳—大禿山—御座峰—薬師ヶ原—笹又—さざれ石公園（車）春日村役場（約5時間）

費用 保険代100円（交通費各自）

＊マイカー分乗はガソリン代頭割り

地図 2万5千＝美濃・関ヶ原

係 ◎鷲見寿雄

申込み 〒504 岐阜県各務原市蘇南町1の19の5 鷲見まで

＊マイカー山行

伊吹北尾根の秋の花を探訪します。マイカーがなく7時半までにJR岐阜駅に集合できる方や前日泊で参加希望の方は係八☎0583（83）3978〉まで相談ください。縦走するには登り口と下山口両方に配車を要するため、参加状況により国見峠から御座峰までの往復コースに変更します。小雨決行

湖北・山本山歩道縦走
余呉湖・賤ヶ岳から山本山
（一般向き）
期　日　9月15日(日)　日帰り
集　合　JR北陸本線余呉駅9時
（大阪駅発6時35分・京都駅発7時12分長浜行が便利）
コース　余呉駅―大岩山―賤ヶ岳―山本山―山本（バス）河毛駅（解散）
費　用　約4000円（大阪から）
地　図　2万5千＝木之本・竹生島
係　◎村田智俊
申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　村田まで
余呉湖や琵琶湖を見下ろしながらの自然探勝道を歩きます（約13㎞・5時間）。小雨決行

九州・九重山　（一般向き）
期　日　9月20日(土夜)―23日(祝)　3泊4日（給中2泊）
集　合　（20日）東神戸（六甲アイランド）ダイヤモンドフェリー待合室19時15分（20時発大分行きまで）
コース　（21日）大分港（バス）牧ノ戸峠―涌蓋山―久住分かれ―久住山―中岳―白口岳―鉢立峠―法華院温泉（泊）
（22日）法華院温泉―段原―大吾越―平治岳―坊ガツル―雨ヶ池越―九重山登山口（バス）別府市鉄輪温泉（バス）大分港（フェリー）東神戸港へ
（23日）東神戸港（解散）7時頃
費　用　約30000円（当日）
地　図　昭文社＝「64九重・阿蘇」
宿　泊　法華院温泉山荘
係　◎村野東彦　○加藤元彦
申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
定員40名（会員に限る）
九重の山々をめぐり、温泉でゆっくり汗を流します。雨天決行
＊阿蘇山噴火や天候によりコース変更もあります。

鈴鹿を歩く34
鎌子ヶ口と水舟の池
（能褒向き）
期　日　9月23日(日)　日帰り
集　合　紅葉谷律崎橋広場8時30分
コース　鎌子ヶ口登山口―須谷川源流―北峰―水舟の池―大峰―鎌子ヶ口―東峰―紅葉谷（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝御在所山
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
4月の山行では途中で中止しましたので再度計画しました（31号・43ページ参照）。雨天中止

京都北山歩き56
茶吞峠から東俣山（ムナカタ）
（一般向き）
期　日　9月23日(祝)　日帰り
集　合　京都駅八条口近鉄改札口前8時
コース　京都駅（バス）山国―竜ヶ坂―鳴滝―茶吞峠―東俣山―尾根道―出山（バス）京都駅（解散17時30分頃）
費　用　約3000円（バス代・保険代）
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎中西信行
申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
初秋の静かな道を東俣山へ歩きます。くだりの尾根道は多少やぶこぎあり。小雨決行

初秋の紅葉と涼風に会いに
鈴鹿・七人山から南乙谷
（やや健脚向き）
期　日　9月23日(祝)　日帰り
集　合　朝明ヒュッテ前駐車場8時
コース　朝明―根ノ平峠―コクイ谷―七人山―南乙谷―杉峠―根ノ平峠―朝明
費　用　交通費各自
地　図　5万＝御在所山
係　◎荷井克治　○木村吉秀
申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行
七人山の若いブナ林に秋の匂いをかぎに行きましょう。小雨決行

ハイキング入門8
南山城・鷲峰山行場めぐり
（初心者のための）
期　日　9月28日(日)　日帰り

集　合　京阪宇治駅バスのりば9時35分（9時49分発湯屋谷行きに乗車）
コース　京阪宇治駅（バス）湯屋谷―鷲峰山金胎寺―行場めぐり―高倉谷または縫中前（バス）京阪宇治駅
費　用　交通費・行場和川料各自
地　図　2万5千＝朝宮・笠置山
係　◎西沢忠二　○湯浅次男
申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
定員10名（会員に限る）
山歩きをしていると道場に行き当たることがあります。道場巡礼の基本を体験しましょう。雨天中止

多紀アルプス・西ヶ嶽と三嶽
（一般向き）
期　日　9月28日(日)　日帰り
集　合　JR宝塚線篠山口駅前9時55分（大阪発8時36分の快速で尼崎のりかえ）
コース　篠山口駅（タクシー）栗柄東谷―西の嶽―分岐―三嶽往復―西ヶ嶽―栗柄口（バス）篠山口駅
費　用　約4000円（大阪から）
地　図　2万5千＝宮田・村雲
係　◎井上　保
申込み　〒674 明石市大久保町高丘3の1・20の104　井上まで
定員20名
多紀連山西の入口栗柄からの登りは道場や西の嶽の岩場があります。雨天中止
＊マイカー参加者は定員外で受付ます。申し込みハガキに明記してください。

地図読み山行23
東海自然歩道を歩く（1回）
宝塚から恵比寺
（新ハイ関西支部合同）
期　日　9月28日(日)　日帰り
集　合　阪急宝塚駅8時
コース　宝塚駅―宝塚温泉―政の茶屋跡―最勝ヶ峰―勝尾寺―北摂霊園―京阪―恵比寺バス停（バス）阪急茨木市駅（解散）
費　用　約1000円（大阪から）
地　図　2万5千＝広根・高槻
係　◎塚元一彦　○中村　登
申込み　〒536 大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元まで
定員30名（9月15日まで）
東海自然歩道を歩いて地形図の読み方とコンパスの使い方をレッスンします。最勝ヶ峰では360度のパノラマを楽しみ、西国二十三霊場の23番札所の勝尾寺を訪ねます。シルバーⅢ型コンパスと指定の地形図持参のこと。雨天中止

平日木曜ハイク34
京都北山・半国高山
（一般向き）
期　日　10月2日(水)　日帰り
集　合　京都地下鉄北大路駅③出入口東（堀内茶店の前）
費　用　京都バスのりば8時20分　約2500円（バス代・保険料）
コース　北大路駅（バス）岩屋橋―吉明院―薬師峠―岩屋山―錫杖峠―青谷峠―岩谷峠―半国高山―出雲路―小野郷口（バス）阪急大宮（解散）＝京都駅
地　図　昭文社＝「47京都北中1」
係　◎前中　敏　○藤田光彦
申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
三角点峰二座と五つの峠を訪ねる。やぶこぎあります。雨天中止

岐阜・桜吉山　（一般向き）
期　日　10月5日(日)　日帰り
集　合　JR名古屋駅中央改札口8時・JR岐阜駅③番ホーム9時（9時17分発に乗車）
コース　名古屋駅（電車）岐阜駅（電車）上麻生駅―林道―（中級コース）―納古山―（初級コース）―林道―上麻生駅（電車）名古屋駅（16時40分頃解散）
費　用　約3000円（名古屋から）
地　図　2万5千＝上麻生
係　◎小山良祥
申込み　〒448 刈谷市一里山町一里山39の3　小山まで
低山ではあるが登りがいのある山で眺望は良い。大和谷ルートを歩く。雨天中止
＊岐阜駅へ集合の人は申し込みハガキに明記してください。

鈴鹿を歩く35
御池岳の池をめぐる
（能褒向き）

期　日　10月5日(日)　日帰り
集　合　306号線鞍掛橋8時30分
コース　鞍掛橋―御池谷―ヒルコバー―御花池―丸池―鹿池―ボタンブチ―幸助池など―鈴北岳―鞍掛尾根―遠視峠―鞍掛橋（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社「44霧島・伊吹・藤原」
係　◎山本久雄　○岩野　明
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

去年の秋にも実施した池めぐりのコースを歩きます。ササやぶあり。雨天中止

大峰・観音峰と大天井ヶ岳
（中級向き）

期　日　10月10日(祝)～11日(日)
1泊2日
集　合　〈10日〉近鉄下市口駅9時40分
〈10日〉下市口駅（バス）観音峰登山口―観音平―観音峰―三ツ塚―法力峠―洞川温泉（泊）
〈11日〉洞川―ゲマタ橋―五番関―大天井ヶ岳―岩黒峰―大峰山―展望台―洞川温泉（入浴後バス）下市口駅（解散17時30分頃）
費　用　約13000円（バス代・宿泊代、当日）
地　図　昭文社＝「56大峰山系」
宿　泊　洞川温泉「紀の国屋旅館」
係　◎村山智後
申込み　〒610―0―0―城陽市寺田大畔10の10　村山まで

紅葉の始まった大峰の静かな山を歩きます。雨天決行

自然観察山行5
奥芦鷹・能郷白山（一般向き）

期　日　10月19日(日)　日帰り
集　合　岐阜県本巣郡根尾村「うすずみ温泉」駐車場9時
コース　うすずみ温泉（車）温見峠―能郷白山（往復）
＊歩行時間約4時間。温見峠への道が通行止めになった場合、能郷谷からは往復7時間ほど要するため、冠山などに変更あり
費　用　保険代100円（交通費各自）
地　図　5万＝能郷白山
2万5千＝能郷白山
係　◎喜多守康　○村田智後
申込み　〒504岐阜県各務原市蘇原柯南町1の19の5　喜多まで
＊マイカー山行

奥芦鷹の禿峰能郷白山に温田離の温泉峠から登ります。マイカーがなくて前日泊で参加希望の方は係〈☎0583(83)3978・夜間〉まで相談ください。雨天決行

鈴鹿を歩く36
御池岳南部・奥の平
（健脚向き）

期　日　10月19日(日)　日帰り
集　合　御池林道の小又谷分岐広場8時30分
コース　御池林道―678mピーク―918.8mピーク―南峰―奥の池―1134mピーク―東のボタンブチ―土倉岳―ノタノ坂―御池林道（解散）
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝鈴立・竜ヶ岳
昭文社＝「44霧島・伊吹・藤原」
係　◎岩野　明　○山本久雄
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

ブナ林の尾根から御池岳南峰に登り、奥の平を一周する。ササやぶあり（24号・49ページ参照）。雨天中止

錦の谷間に強者共の栄華を訪ね
三光谷（錦山）から中尾根（錦山）
（やや健脚向き）

期　日　10月19日(日)　日帰り
集　合　青川渓谷入口接待場前駐車広場8時
コース　青川渓谷接待場―三光谷出合―柳寺砂地探索中尾根―錦水銀山跡地探索―蛇谷乗越―治田峠―青川渓谷奥広場
費　用　交通費各自
地　図　2万5千＝竜ヶ岳
係　◎岩井克治　○木村吉秀
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊マイカー山行

『伊勢治田銀鋼山の今昔』で、黒川静夫氏の書を締く。人の暮らしの哀歌を想う。小雨決行

京都北山歩き57
アソガ谷から鞍馬尾根
（一般向き）

期　日　10月19日(日)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅京都バスのりば9時
コース　出町柳駅（電車）貴船口駅―貴船―アソガ谷―旧花背峠―鞍馬尾根―貴船口駅（約12㎞・解散15時30分頃）
費　用　約1000円（京都から）
地　図　昭文社＝「47京都北山」
係　◎今西光男
申込み　〒610―0―0―城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

アソガ谷をつめて旧花背峠に登り、鞍馬尾根をくだります。雨天中止

運末ハイク3
比良・北小松から駅迎岳
（一般向き）

期　日　10月25日(日)　日帰り
集　合　JR湖西線北小松駅9時
コース　北小松駅―涼峠―ナケ山―ヤケオ山―駅迎岳―カラ岳―イチョウガレ―大非ワンゲル道―イン谷口（バス）比良駅（解散）
費　用　約3500円（大阪から）
地　図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎岩野東彦　○加藤元彦
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

紅葉のなか、リトル比良から南西へ続く峰走路を至福感を感じながら歩きます。登り、くだりとも一分手応えのあるコースです。小雨決行

地図読み山行24
東海自然歩道を歩く（2回）
竜王山から摂津峡（一般向き）
（新ハイ関西支部合同）

期　日　10月26日(日)　日帰り
集　合　阪急茨木市駅バスのりば8時20分
コース　阪急茨木市駅（バス）忍頂寺バス停―宇治池―竜王山―東竜王大橋―萩谷―摂津峡―上ノ口バス停（バス）JR高槻駅
費　用　約1000円（大阪から）
地　図　2万5千＝高槻
係　◎櫻元一彦　○中村　登
申込み　〒535大阪市城東区関目4の14の9の201　櫻元まで
定員30名（10月15日まで）

かくれキリシタンの里から歩き始め、竜王山からは大阪平野を一望して地形図の読み方とコンパスの使い方を勉強します。シルバーⅢ型コンパスと指定の地形図持参のこと。雨天中止

文学歴史散歩38
ミタライ渓谷から洞川温泉
（一般向き）

期　日　10月26日(日)　日帰り
集　合　近鉄下市口駅前9時
コース　下市口駅（バス）天川合―河川口―ミタライ渓谷―観音峰登山口―村宮
洞川温泉センター―洞川温泉バス停（バス）下市口駅（解散）
費　用　約5600円（近鉄運賃・保険・入湯料）
野橋起吉交通費・保険・
地　図　2万5千＝河川・弥山
係　◎松永恵一
申込み　〒580松原市岡2の22　松永まで

関西一の紅葉と言われているミタライ渓谷をゆっくり巡り、大峰千年湯・洞川温泉で汗を流す。湯ったりノンビリのハイキング（19号・54ページ参照）。雨天中止

ハイキング入門9
比良・八淵の滝
（初心者のための）

期　日　10月26日(日)　日帰り
集　合　JR京都駅湖西線のりば7時30分（7時57分発に乗車）。または近江高島駅8時35分
コース　京都駅（電車）近江高島駅（バス）ガリバー青少年旅行村―八淵の滝―ローブウェイ山上駅―イン谷口（バス）比良駅（解散）
費　用　交通費各自
地　図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎西沢広一　○湯浅次男
申込み　〒610―01城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
定員10名（会員に限る）

山歩きをしていると結婚に行き当たるときがあります。結婚遠過の基本を体験しましょう。

雨天中止

泉州・三国山から槙尾山
（中級向き）

期　日　10月26日(日)　日帰り
集　合　南海本線泉佐野駅バスターミナル(1)のりば8時30分（難波駅6時02分発が便利）
コース　岸和田駅（バス）牛滝―1等三角点―鍋谷峠―経塚山―七越峠―三国山―槙尾山施福寺―バス停（バス）和泉中央駅（解散）
費　用　約2500円（難波から）
地　図　2万5千＝内畑・岩湯山
係　◎真村誠治
申込み　〒646橋本市城山台2丁目39の7　真村まで
定員25名

和泉山脈の西国巡礼道を縦走します。季節ごとに変化する自然と親しみ、静かな山歩きを楽しみましょう（歩行約7時間）。
小雨決行

平日水曜ハイク11
瀞峡・鎧冠山と逢坂山
（一般向き）

期　日　10月29日(水)　日帰り
集　合　JR草津駅帝産湖南バスのりば8時50分
コース　草津駅（バス）上桜生―落ヶ海―鎧冠山―天狗岩―白石峰―逢坂山―上桜生（バス）草津駅（解散）
費　用　約3000円（大阪から）
地　図　2万5千＝瀬田・三雲
係　◎湯浅次男　○錦田　昇
申込み　〒610―01城陽市寺田大峠10の10　新ハイキング関西まで

琵琶湖アルプスの一山を訪ね、稜線歩きと巨石・奇岩を楽しみます。
小雨決行

平日水曜ハイク35
芦生散策・三国峠から杉尾峠
（一般向き）

期　日　10月30日(水)　日帰り
集　合　JR湖西線・安曇川駅8時40分
コース　安曇川駅（バス）三国峠登山口―クチクボ峠―三国峠―中山神社―地蔵峠―生杉ブナ原生林（バス）安曇川駅（解散）
費　用　約2500円（バス代・保険料）
地　図　昭文社―「48岳北山2」
係　◎羽中　敏　○錦田光彦
申込み　〒610―01城陽市寺田大峠10の10　新ハイキング関西まで

冬期の三国峠へ登り、杉尾峠では青苔山を望むなど、雑木の原生林を縦走します（会報79ページ参照）。小雨決行

山塊・森山と大山（中級向き）
期　日　11月1日(日)夜～3日(水)
2泊3日（車中一泊）
（1日）JR京都駅八条口近鉄改札付近22時30分（集合次第出発）
（2日）（バス）森山高原―上森山登山口―上森山―口森山―下森山―大抜峠（バス）関金温泉（泊）
（3日）関金温泉（バス）大山寺橋―弥山―六合目―行者コース―大山寺（入浴・昼食後バス）京都駅（解散20時30分頃）
費　用　約26000円（3日）
地　図　昭文社―「60大山・森山高原」
宿　泊　関金温泉「高鍋旅館」
係　◎羽野東彦　○加藤光彦
申込み　〒610―01城陽市寺田大峠10の10　新ハイキング関西まで
定員40名（会員に限る）

森山を縦走し、次の日は大山に登ります。雨天決行

○大阪市立環境学習センター
「生き生き地球館」オープン
4月30日、大阪鶴見緑地に地球環境を学ぶことができる環境学習センターが誕生しました。温暖化・海洋汚染・森林破壊・エネルギー問題など、地球環境について楽しみながら学習できる参加体験型の施設になっています。

○鈴鹿スカイラインが
11月12日から無料化
亀野町湯の山温泉（三重県）と土山町（滋賀県）を結ぶ鈴鹿公園有料道路（鈴鹿スカイライン）約11・9㎞の通行料が無料になります。鈴鹿方面の山行にご利用ください。

山行報告
（5・6月）
新ハイキングクラブ関西

四国・瓶ヶ森から石鎚山
5月2日(金)夜～5日(日)朝
3泊4日（船中2泊・山小屋1泊）
（2日）晴れ　大阪南港オレンジフェリー待合室20・30（乗船）21・10発（船中泊）
（3日）曇り時々晴れのち夕刻　東予港4・50～5・05（バス）下谷高原旅館5・40（朝食）6・35―瓶ヶ川6・45―瓶ヶ森登山口7・50～8・00―笹庄9・00―烏帽子50～10・05―瓶壺11・50（昼食）12・45―瓶ヶ森女山13・25～40―男山13・55～14・00―瓶ヶ森林道登山口14・20～40―シラサ峠・山荘しらさ15・45（泊）
（4日）快晴　山荘しらさ6・10―伊吹山6・35～40―よさこい峠7・05（朝食）7・25―土小屋8・40～55―二ノ鎖上11・40―弥山11・55（昼食）13・00―二ノ鎖土小屋13・20―夜明峠13・40～50―石鎚神社頂上社15・05～15―ロープウェイ山麓駅15・30～50（ロープウェイ）山麓下谷15・57―高速長浜16・05（入浴・夕食）19・10（バス）東予港20・10～21・10発（船中泊）
（5日）朝雲間　大阪南港4・20（解散）ニュートラム始発5・23
林道登山口から10分の子持権現山で7人が試し鎖を楽しんだ。
二日目は快晴。アケボノツツジが満開だった。凍結する二ノ鎖に全員が挑戦し、落伍者もなくクリアーでき、よい思い出となった。弥山山頂は人であふれ、天狗岳への往復は希望者のみにした。
（参加者）多賀剛一　多賀久子　明神武行　前田幸子　中村雄香　北川良子　宮本真幸　平亀琴子　真田久子　井上　保　三木良子　小林　稔　青木一雄　中上紀代子　上田重子　三宅　明　吉田誠宏　川嶋敦子　吉植　汐　安田文美江　河部邦彦　竹田利夫　湯浅久男　藤村勝彦　高橋　寛　小島フジ子　大平　漸　大平敦子　高月ミツヨ　前田平一　長塚春子　野口　修　谷　久雄　小田潤子　美村三枝　前田栄三　桑原　茂　堀　久子　○加藤光彦　◎羽野東彦（計40名）

北山・シャクナゲ尾根から天ケ岳
（木曜ハイク30）
5月8日(木)　◎錦田光彦
雨天のため中止しました。

台高・高見山（三重の山33）
5月10日(土)　快晴
国道―166号線飯高町の駅駐車場9・45（車・高見トンネル経由）高見峠10・35～45―高見山11・35（昼食）12・30―笹尻岩―国見岩―乳岩―小峠13・35～45―高見峠14・15（車）飯高町の駅15・00（解散）
春霞もなく展望の陳望でした。リュウブ・ヒメシャラ・ブナの新緑にストレス解消。くだりで耳にした竹笛をたたくような、ポポッ、ポポッと鳴いていた鳥は「ツツドリ」でした。
（参加者）徳田　哲　北野　達　亀野均子　小駒卓男　川木　隆　平　龍一　平　幸子　北川　明　大野　博　大野晴紀　相沢正二　岡田研輔　藤井　武　藤井みつる　宮福止人　○稲垣逸夫　◎尾崎英五　（計17名）

丹波・長老ヶ岳
5月11日(日)　晴れ

会員募集

山想同人・峰

結成以来5年
主として近畿の山を歩いています。例会山行は1200回を数え、メンバーは赤線引き病や三角点病が数多くいます。
日本百名山・近畿百名山・100三角点をめざす人、大歓迎。生のアドバイスをします。
年齢・経験・性別不問。

さあ、みなさん!!
今日から「峰」の会員になりましょう。

入会は随時。申し込み・お問い合せは左記へ。
（連絡先・金盛まで）
（昼）06（761）4360
（夜）06（944）9396
（事務局）
〒559　大阪市住之江区南港中2の2の44の923　高橋一郎方

京都駅八条口7・30～7・35発（バス）弘主8・55～9・05―橡原社9・15～30―キャンプ場10・30～50―仏念利塔11・10～20―長老ヶ岳11・30（昼食）12・45―林道終点13・45～14・10―上乙見14・30―下乙見15・00～30発（バス）京都駅16・50（解散）

天気は良かったが視望はいまひとつ。さわやかな風が吹くなか、のんびりとした山行だった。バスの乗車時間が短くて早く解散できた。

（参加者）芝野泰明　近藤　恭　浅田徳男　小川助美　砂原忠美子　川端敏子　長沢佑美　中川光郎　荒井敏子　佐藤春義　桐井清之　家入敏光　家入親子　東　美智子　加藤佳彦　村上春代　小西静雄　江村忠雄　前田政雄　松田好市　堀尾勇蔵　武部　剛　武部美美子　三宅　明　若木修二　小林伊佐子　血原満男　血原智子　吉田ソノ子　隣　嘉子　辻村延夫　邊見千恵子　美村孝治　美村三枝　渡邊順一　入江武史　黒河内東洋明　河村忠夫　大島行子　中井ひろみ　吉植　清　仲秋敏子　里井昌子　村橋一雄　平　幸子　矢倉ひろ　○奥村誠治　◎中西信行（計46名）

丹波・半国山

（ハイキング入門4）

5月11日(日)　晴れ

JR亀岡駅（バス）赤熊―青水渓谷―半国山―金剛寺―宮川（バス）亀岡駅（解散）＊タイムとらず

（参加者）渕田　京　真島百合子　斎藤妙子　前田幸子　○湯浅欣男　◎西沢広二（計6名）

宇治・天ヶ瀬ダムからくつわ池

5月11日(日)　晴れ

京阪宇治駅9・30―天ヶ瀬ダム10・20～30―上六石山三角点11・30―くつわ池12・00（昼食）13・00―東海自然歩道―白川神社14・10～30―紅葉谷―塔ノ島15・20（解散）

宇治川のつり橋を渡って天ヶ瀬ダムを見学後、山道に入りくつわ池へ。池周辺はキャンプ場で大勢の人だった。ヘラブナ釣り客も大ものをあげていた。

（参加者）平田敬夫　立川郁夫　日高史郎　石丸常太郎　石丸常子　石丸常太郎　南　寛子　新治俊子　高木美津子　池　知治　村上治子　吉田喜美子　西田一夫　吉野節夫　増田フミ子　奥村清一　大本　勝　大本久子　内本昌子　森屋　満　森島紀美代　中坊智代　四ノ宮勝子　岩本いすゞ　○黒崎裕美　◎村田智義（計25名）

カクレグラ・ダイジョウ

（鈴鹿を歩く28）

5月11日(日)　晴れ

フジキリ谷旧林道入口8・30―向平公分岐8・50―支尾根取付9・30―稜線10・10―カクレグラ10・45―ダイジョウ手前ガレ場11・45（昼食）12・30―ダイジョウ北尾根13・40―ダイジョウ14・10―アケビダン14・40―桜地蔵15・15―旧林道入口16・00（解散）

絶好の登山日和。芽吹いたばかりの新緑にさわやかで明るく、まさに森動き山笑うの感じで秘境をのんびり歩いた。ダイジョウに着くとシャクナゲの花が待っていた。

（参加者）山田恵三　大石將美　藤村正人　近藤英夫　池田喜雄　池田繁美　谷　久雄　小林　稔　寺井恒夫　馬場宏美　葵井宰生　○山本久雄　◎芝野　明（計13名）

湖東・鈴鹿山

5月17日(土)　晴れ

JR近江八幡駅9・40発（バス）長命寺バス停10・00―長命寺10・30～45―津山山11・40（昼食）12・30―展望所12・45～13・00―林道13・30―渡合バス停14・20（解散）

さわやかで汗もかかずに歩けた。花の香をかぎ、巨岩に登ったりして思いきりノンビリ遊んだ。下山道ではたくさんのウラシマソウが咲いていてうれしかった。

（参加者）芝野泰明　前田政雄　西田一夫　池　知治　池　れい子　稲本芳雄　古川裕子　中禁吉五郎　田中孝三　藤本千代　黄田久子　平成美子　黄田幸子　中上紀代子　砂原忠美子　◎妻鹿弘子（計19名）

美濃・霊峰粒山

5月18日(日)　晴れ時々曇り

坂内村役場8・00（車）大谷川林道西俣出合8・20～35―林道終点小広場9・25―小粒峠粒山分岐点11・30―粒峠粒山12・30（昼食）13・30―小粒峠粒山分岐点14・25―林道終点小広場16・15―大谷川林道西俣出合17・10（解散）

今年は花期が早く、シャクナゲは山頂部に咲き残っているだけでした。厳しい急登が続き、脚を痛めたり、しんどい思いでたどりついた山頂は360度の展望。チシマザサのタケノコなど山の幸も楽しみました。

（参加者）加藤元彦　高木鎮夫　田中澄子　谷　久雄　豊田真理子　深坂　寛　深坂昌子　○奥井宰生　◎霞見守康（計9名）

鈴鹿・土倉岳から丁バック尾根

（花の子ルンルン2）

5月18日(日)　うす曇り

小文谷入口8・30―桂谷出合8・50―池ノ谷峠尾根10・00―土倉岳10・50―ブナ樹林の平11・15（昼食）12・30―お母さんブナ13・30―（P889）対往復）14・10―姫のブナ林14・30―展望ベンチ14・40―林道15・15―小文谷入口駐車場15・30（解散）

五月晴れに視界が広がる雑野の新緑山行になった。渡る風はさわやかで甘い匂いをのせてくる。ブナ樹間とファミリーブナの緑の揺らぎのなかで、幸せを感じる時を過ごした。

（参加者）三井絵一　小田妙子　山田明男　太刀將美　高杉　博　小林　稔　山本久雄　藤原竹国　藤村正人　○中村健次　◎筒井克治（計11名）

高蒲谷池から高雄

（京都北山歩き52）

5月18日(日)　晴れ

大覚寺前10・00―宮見峠10・25―石蒲谷池10・50―高雄11・30（昼食）12・30―観空寺谷13・00―大覚寺13・45（解散）

北経路の竹林のタケノコを見て、新緑の山道に入り高蒲谷池から高雄へ。神護寺下の清滝川から観空寺谷を経て元の大覚寺前に戻った。モチツツジが咲いていた。

（参加者）近藤　恭　石丸芳子　高木忠夫　名倉重信　名倉マサ子　岡崎澄博　高橋恵治　高橋田紀子　堀　久子　中村英雄　中村愛美子　辻　行子　白浜清子　和田信雄　◎今西光男（計15名）

高野・弁天岳から奥の院

5月18日(日)　晴れ

南海極楽橋駅9・35～45―清不動10・15～25―女人堂10・40～45―弁天岳11・05～15―大河11・30―愛宕神社11・50（昼食）12・30―相の浦女人堂跡12・50―646ピーク12・55～13・00―西覚律寺13・30―奥の院14・10～25―三昧院14・40～50―金剛峯寺15・10～20―極楽橋駅16・25（解散）

新緑のなか、さわやかな風がそよぐ高野山上の緑本と奥高野の雑木な眺めを楽しんだ。名もない花に感激した一日だった。

（参加者）立川郁夫　大平　漸　大平敬子　城戸清幸　山高多恵子　前田政雄　小林　桂　増田フミ子　石田登二　岡田真介　千葉千枝子　古川裕子　船越利明　船越みよ子　木村太郎　内木良子　岡田恵美子　山本　勉　青木一雄　芝村孝治　三木民子　布施清美　小出調子　○岡田　昇　◎奥村誠治（計20名）

北山・雲取山

（豆日ふれあいハイク2）

5月20日(水)　◎川上久堅

雨天のため中止しました。

静ヶ岳・セキオノコバ

（鈴鹿を歩く29）

5月25日(日)　曇り時々晴れ

近戸トンネル手前堀野のヘリポート8・35（車）大谷学園駐車場8・55―草原ピーク9・50―1047対ピーク10・35―静ヶ岳11・00―セキオノコバ11・25（昼食）12・00―新池12・16―静ヶ広12・40―西尾根の池13・20―茶屋川林道14・10―大谷広場14・55（解散）

昨夜の雨もすっかり上がり、新緑が目に染みるさわやかな尾根を登る。静ヶ広から鈴鹿のユートピア・セキオノコバにくだり池の周辺で昼食。山田明男氏が最近発見されたばかりの新池を確認。西尾根の池にはモリアオガエルが水辺の木に泡状の卵塊を幾つも産みつけていた。

（参加者）三井絵一　山田堅三　河合正彦　高杉　博　森澤二博　森澤國子　小林　稔　中川博史　近藤英夫　鹿野　健　川上久堅　星野正弘　谷　久雄　高村延三郎　神野芳允　竹田利夫　谷　守　池田喜雄　池田繁美　豊田真理子　筒井喜治　高橋　寛　落合ひろ子　西辺牧男　筒井繁子　○山本久雄　◎石野　明（計27名）

歌垣山から妙見山

（水道ハイク9）

5月28日(水)　晴れ

能勢電鉄妙見口駅9・25（バス）歌垣山登山口9・47―歌垣山10・35―奥の院11・50（昼食）12・40―野間大原13・20―本滝寺13・50―妙見山三角点14・25―妙見口駅15・55（解散）

天候不順が続くこの五月に、こ

の日だけはうソのような良いお天気で遠く丹波の山々や大甲の山がよく見えました。古代の東合の広場に大きなログハウスが建っていて……？。低い山ですが、二山とも登りは急でよい汗をかきました。

（参加者）杉井　武　菊池すみ子　長沢佑美　立川郁夫　小林静子　荒木文明　中村静香　成川みさお　松山みつ　諏訪綾子　岡田千歩子　細井和子　西沢広二　山本千鶴子　大嶋隆造　宮井孝介　砂原恵美子　辻　行子　白根芳子　山下知奈子　深坂　寛　深坂昌子　中上紀代子　菅木一雄　川上久堅　千葉千枝子　城戸満幸　吉住芳子　水口記美代　上田雅子　隣　彩子　柳本和幸　中川芳治　瀬里勝谷　岩本いすゞ　堀　久子　大島桂子　前田政雄　浦上　明　藤井益子　光川二美子　中山光郎　梁瀬克子　○岡田　舞　◎湯浅次男　（計45名）

大峰・鷹丈山から行者山

6月1日(日)　◎福本勇作

リーダーの都合で中止しました。

比良・武奈ヶ岳北稜

（木曜ハイク31）

6月5日(水)　晴れ

JR堅田駅8・15（バス）坂村8・50～9・00—御殿山11・00～15—武奈ヶ岳11・50（昼食）12・35！—釣瓶岳13・20～35—蓬莱山14・50—ヨコタ峠15・10～15—知15・45（バス）JR近江高島駅16・15（解散）16・24（電車）京都17・00

比良の縦断コースを踏破したが「次は、さらに蛇谷ヶ峰まで足をのばそう」との声があった。実現できるよう検討します。

（参加者）中井　博　秋原忠美子　馬能平男　宮城敏彦　堅田美奈子　石原智子　北尾信枝　松本いつ子　真田勇子　氷見真一　氷見真砂子　前田政雄　山縣俊夫　小林伊存子　辻　行子　白根芳子　都司喜八郎　都司恵江　川上久堅　吉田ソノ子　福松雅子　加藤佳彦　山本千鶴子　荒井智子　寺本幸男　中村佐代子　血原清男　血原智子　辻　嘉一郎　雑上　明　若木悠二　遠目平真子　古川裕子　藤井益子　草野智雅子　高木　晋　山下恒三　石近八栄子　高岡信男　風見瑞子　川福敏子　○西上和和　◎酒中　毅（計29名）

奥琵琶・岩岳と雷倉

6月7日(土)～8日(日)　1泊2日

（7日　晴れ）京都駅八条口7・30（バス）椿坂峠登山口8・00—道中の樹林下12・20（昼食）13・05—展望所13・50～35—岩岳14・15～30—登山口16・30—檜見住吉屋旅館17・00（泊）

（8日　晴れのち曇り）旅館7・10（バス）八谷登山口7・30～40—雷倉峠9・30～40—林道縦断9・50—雷倉11・00（昼食）12・00—林道12・40～45！（林道歩き）—八谷登山口14・45（バス）うすずみ温泉15・00（入浴）16・10（バス）京都駅19・30（解散）

二山共に急登であったが、山頂は広々として眺望は抜群。遠く能郷白山を望み、美濃の山々を楽しんだ。山深い新緑の中を歩き、温泉で日常のストレスが解消できた。

（参加者）阿部邦彦　長比裕美　森川信之　前田幸子　麦島弥子　金森節子　近藤　忠　狩野東彦　永井哲男　三井益一　安田文美江　鈴木恭子　隣　嘉子　渡辺達郎　大平　潮　大平敦子　深坂　寛　深坂昌子　城月満幸　浅田俊男　松見　昭　小林　桂　秋原恵美子　鈴木広和　岩田晋士　堅田美奈子　近江秀子　西内美二　前田政雄　○加藤五彦　◎石田智枝（計31名）

奈良・生駒山

（ハイキング入門5）

6月8日(日)　晴れ

北摂・高岳（地図読み山行22）

6月8日(日)　晴れのち曇り

日生中央駅9・19（バス）9・52～10・14—変電所10・34～37—猪名川不動尊11・00～20—高岳12・20（昼食）13・30—谷滝下点14・16—林道出合14・30—山田15・05—森上バス停15・35（解散）

人間誕前の貴重な晴天。参加者30人中、初めての人が18人と多く、地図読み習得の熱意が感じられる。山頂からは三平山・大野山から六甲山までが眺望できた。ほぼ予定通りのタイムで歩いた。

（参加者）秋原英雄　秋山　統　大嶋隆造　斎藤　隆　栗谷　宏　北村　正　長岡良雄　本間　隆　岡崎澄博　山中英三　藤森　功　前山　章　北方清重　藤森加代子　堀越武敏　堀谷静子　佐田只一郎　四方郁美　四方静子　甲木尊子　嶋津康子　福井治之　松本ミユキ　芝野泰明　川上久堅　岩本いすゞ　岡田晋子　梅田久子　○田中三重子　◎中村　登（計30名）

奈良・生駒山

（ハイキング入門5）

6月8日(日)　晴れ

近鉄石切駅—生駒山縦走路—四法寺—生駒山縦走路—京大天文台—暗峠—府民の森—近鉄瓢箪山駅（解散）＊タイムとらず

予定の松尾山を変更して生駒山を歩いた。

（参加者）堅田峰夫　領方敏子　中西和子　田中直美　堀口昌之助　斎藤妙子　石丸宗平　石丸常太郎　真島百合子　○湯浅次男　（計11名）

日本コバ・岩屋・豹ノ穴

（鈴鹿を歩く30）

6月8日(日)　晴れ

知恵宮B・30—岩屋尾根8・40—大杉9・40—838紅ピーク10・00—日本コバ10・35—シャロ谷道分岐11・15（昼食）12・30—日本コバ12・25—岩屋13・00—豹ノ穴13・40—知恵宮15・00（解散）

南東尾根から登り北西にのびる日本コバの平頂をのんびり歩いた。若葉が茂り合う深い樹林はみずみずしい生気をみなぎらせていた。流星が吹き上げる岩屋からの眺望を楽しみ、豹ノ穴では洞窟の中に神秘的な奥の池を確認した。

（参加者）山田晃三　大石稔夫　奥村一平　中川博史　中澤朝司博　森澤泉博　森澤泉子　高村孫二郎　奥井弥生　池田良逢　池田繁美　呉山繁三　河辺牧男　高杉　博　馬場勇英　小林　実　◎岩舞　明（計17名）

リトル比良（週末ハイク2）

6月14日(日)　晴れ

JR近江高島駅9・05—大炊神社9・30—岩鼻岩屋跡10・25—毘山10・55—オ！ム岩11・35（昼食）12・20—岩間沙利山13・10—銀川越13・25—寒風峠14・35—ヤケ山15・05—流峠15・15—春之瀬16・10—JR北小松駅16・30（解散）

入梅後の晴れた一日、自然林の木立が強い日差しをやわらげてくれる緑陰の中をゆっくり歩きました。寒風峠からヤケ山を経由し、釈迦岳や武奈ヶ岳の峰を展望しました。毘山で休憩の悪い方が一人、一時リタイアしましたが、流峠で追いつき合流して無事下山しました。

（参加者）馬能忠男　池田繁子　森川信之　山下恒三　前田政雄　山縣勝美　熊田千枝子　二井紘一　石田孝子　森澤泉博　高木紘夫　大淵芳治　木村忠一　中川博史　菲木益子　平敏英子　笠田久子　藤井益子　山野　貴　鈴木　崩　大隈和洋　竹田利夫　辻村延夫　宮角孝雄　中上紀代子　若木悠二　寺本幸男　下西　和　血原清男　血原智子　青木一雄　御田信子　中川光郎　辻　嘉一郎　人江武史　○加藤五彦　◎狩野東彦　（計29名）

湖北・赤坂山と三国山

（自然観察山行2）

6月15日(日)　曇り

JRマキノ駅9・00（バス）マキノスキー場9・30—登山口9・40～55—ブナの木平10・40—赤坂山11・40（昼食）12・20—三国山13・20—山田峠14・25—三谷バス停15・40（解散）

梅雨期の最天で霧氷などの展望は無理でしたが、赤坂山から三国山への周遊コースを歩きました。ヤマボウシ・ベニドウダンツツジなどの樹木の花を中心に、花を咲かせていた草木は約30種でした。

（参加者）荒井哲子　稲本光雄　大木政夫　金澤昭子　木村鎮恵　鈴木泰雄　斎藤　隆　斎藤妙子　下村悦子　鈴木　崩　多賀岡二　田中禮子　中西　昭　中西和子　中路加代子　深坂　寛　深坂昌子　細井和子　堀　久子　三井紘一　光川二美子　駒神慶行　森川信之　○加藤五彦　◎狩野東彦　（計27名）

敢倉山・青葉山・耳成山

（文学歴史散歩36）

6月15日(日)　曇り

樫原神宮前駅9・10発—久米寺9・15～25—樫原神宮9・40～45—敢倉山10・20～35—本薬師寺11・20—紀寺11・55（昼食）12・30—香具山13・00～05—畝傍宮跡13・35～55—耳成山14・45～55—近鉄八木駅16・25（解散）

今にも降りだしそうな天候だった。降りだす前にと早足でまわった。藤原京ではさわやかな万葉の風が吹いていた。

（参加者）堅田峰夫　立川郁夫　早川　徹　石丸宗子　石丸常太郎　河井典子　西田一夫　福井順子　三木民子　西松雅子　千葉千枝子　浦田文乃　樫原弘彦　矢谷ひろ　新宿修子　大本久子　内本良子　高橋陽介　木村太郎　宮村孝次郎　山本　勉　北川良子　安達潤子　森田順子　前田有夫　伊藤麻紀香　前田泰孝　前田晃治　前田　萌　○前田知康　◎松永忠一（計31名）

桃山から沢山

（高槻北山歩き53）

6月15日(日) 曇り

源光庵前9・30—桃山—吉兆山—沢山—沢泡11・30（昼食）12・30—白砂山—三宝寺—福王子13・50（解散）

木々の緑もいちだんと濃くなり、桃山・吉兆山・沢山・白砂山の山々に登り楽しいハイキングができました。

（参加者）池 知浩 池 れい子 高木忠夫 小林 昇 橋本賀二郎 工藤澄子 大藪道栄 名倉マサ子 名倉雅信 青木一雄 青木いすゞ 松田好市 芝野恭明 郡司喜八郎 郡司長江 池田 隆 竹内喜久子 戸川剛子 ◎今西光男（計19名）

天狗堂

（鈴鹿を歩く31）

6月22日(日) 曇り

君ヶ畑小学校手前駐車場9・35—尾根10・10—7・12ピーク10・35—天狗堂11・35（昼食）12・30—君ヶ畑神社14・00（解散）

最初からの急登で植林の尾根に出ると、コアジサイやササユリの花が待っていた。最後の急登を岩に登ったが、眺望はガスにおおわれていた。滑ったりヒルにたかられたり。この山に31名のグループが登ったのはおそらく初めてだろう。分かりにくいルートもくだりにはしっかりした踏み跡が続いていた。

（参加者）山田晟三 山形 明 小林 稔 江村彩雄 三井紘一 近藤英夫 森澤元博 森澤敏子 奥井幸生 辻 宣序 徳田暢子 鈴木 郁 児島照光 河合正彦 竹田利夫 谷 久雄 村橋一雄 中川博史 神野孝允 東野太一郎 谷 守 河辺敬男 星野正弘 伊藤則男 高橋 寛 豊田真理子 池辺彦逸 池田繁美 新村孫三郎 ○山本久雄 ◎岩野 明（計31名）

奥ノ深谷から大摺鉢へ

（比良の森を歩く）

6月22日(日) 曇り

出町柳駅8・05（バス）坊村9・00～20—牛コバ10・10—大橋11・40（昼食）12・30—八雲ヶ原13・30～45—曲谷滝14・50～15・30—大摺鉢16・00—ガリバー旅行社16・30～40（バス）JR近江高島駅17・00～17・18発（帰京）

比良の渓谷沿いに坊村から大摺鉢へ長い道のりを歩いた。涼しくて気分のよい森林歩きだった。貴船流のクサリ場の下降を試みたがこわくて引き返し、巻き道を通って大摺鉢へくだった。

（参加者）近藤 恭 小川晴夫 堀 良男 立川郁夫 稲本芳雄 真田明子 城月義幸 堀 久子 内田琴子 大田琴子 西田美佳子 人見正信 吉植 清 吉植ミチコ 前田敏雄 福井治之 石丸郁太郎 石丸寿子 中尾君子 陽茂次男 小林は なえ 青木一雄 岡田春夫 野田マツヨ 小西静雄 大越完造 高橋由紀子 村井 武 高橋孝治 辻 行子 松田好市 畠佐裕美 白根清子 人見京子 北川文子 山森多恵子 阪口貴司 中上紀代子 古川裕子 山縣勝美 中村英雄 大東繁雄 秋田博師 森島 義 森島紀美代 若木修二 川中 保 湯浅千恵子 下西 昭 山原清男 山原智子 内本良子 村上春代 辻 孟一郎 橋本 寿 上政延枝 中井ひろみ 岩田育士 明神成行 井林恭奈子 入江武史 吳山繁三 吳原美代子 小林 桂 中川光郎 川端俊子 ○測定係夫 ◎村田智殷（計40名）

鈴鹿・銚子ヶ口から銚子

（夏山に向けてのトレーニング）

6月29日(日) 曇りのち晴れ

朝明駐車場7・20—お金明神9・20—銚子ヶ口11・30（昼食）12・30—大峰13・00—深谷山13・30—銚子14・30—佐目峠15・00—杉峠16・00—板ノ平峠17・50—朝明駐車場18・30（解散）

台風の残り雲が山稜に引っかかり、虹がアーチをかけている。銚子ヶ口までのきつかった登りも、お昼をとって元気百倍。青空と緑の木もれ日のなかをさわやかな西風に吹かれて、設定のコースを歩き抜きました。

（参加者）山形 明 小田妙子 中村健次 徳田暢子 辻 宣序 神原社国 伊藤則男 田中美代子 今岡民代 美野孝雄 ○木村吉秀 ◎高井真治（計12名）

山陽自然歩道・小野アルプス

6月29日(日) 晴れ

JR加古川駅8・59発（電車）小野町駅9・25—鴨池口10・00—鴨池周遊—キャンプ場11・30（昼食）12・30—野荒城12・50—紅山14・10—鴨池15・00—小野町駅16・30（解散）

梅雨の晴間をぬっての低山ハイク。涼風の池畔では昼食に蕎麦を食する人、岩壁の紅山のくだりに難儀した人、里山の花を撮る人等、にぎやかな一日でした。

（参加者）秋田朝郎 前田孝一 篠崎勝彦 藤岡忠子 岡田恵美子 岡田 昇 今村 真 兼田幸子 立川郁夫 松田好市 草 佐孫子 宮下淳一 島田幸子 宮村孝次郎 今津省司 平松英子 四ノ宮鶴子 山本武臣 山本金子 老松敬子 船越利明 船越みよ子 大藤松祥 熊田千夜子 ◎須藤岡 組（計26名）

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー（係）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会費には毎号「新ハイキング・別冊関西の山」（年間隔月6号分）をお届けします。会員は山行例会に優先参加できます。

入会金 500円（バッジ代）
年会費 3000円（郵送費）

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名（ふりがな）及び第何号からの送本かをきれずにご明記ください。

尚、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

リーダーは2か月に一～二回程度の山行計画を立案し、実施していただきます。

経験のある人や、やってみたいと思われる人は、当会本部（下記）までご連絡ください。

マニュアルを記した小冊子「新ハイ関西・リーダー必携」を送ります。

○新入会員紹介

新しいお仲間の皆さんです。会員番号3335Ｏから3425まで

【埼玉】 高橋 暢 吉川トミ子 【愛知】 兵藤忠博 【三重】 辻 宣序 東 美智子 美濃茂孝輔 【滋賀】 藤岡美智子 【奈良】 辻村正明 小濱紀久子 植村住志 【京都】 中尾和弘 光井玲子 西澤久枝 八田浩司 小濱紀久子 田中芳雄 稲岡早苗 秋山幸子 秋山哲三郎 矢野隆幸 竹林京子 飯田芳子 【大阪】 水尾元厚 北野宏東 加藤英和 数貝保雄 磯 誠 小田直美 小坂靖文 小坂明子 上田政子 清水文子 笹山輝代 宮崎祥彦 大年雅文 後藤一彦 【奈良】 浦田文乃 上野信廣 丸山順介 大木 勝 大村俊子 野田芳雄 小河百合子 【兵庫】 大西義則 小林修子 宮下淳一 田中孝三 原 千代子 一本昌郎 一本良子 松下 敏 松下一英 福井英雄 松下 敏 老松敬子（67名）

訂正とお詫び

33号（鳳凰）34ページの写真は「美濃沢丸から三周ヶ岳（中央）・黒部山（左）を望む」が正しい。

35号（盛夏）37ページ上段最終行「…宿舎に帰る…」は「…宿舎に帰る…」が正しい。

35号（盛夏）60ページ見出しの「芦屋山」は「高平山」が正しい。同ページの下段最終行の「勝地」のルビは「かちち」が正しい。

36号（盛夏）73ページ12行目「…角点1000m以上」は「100m以上」が正しい。

35号（盛夏）80ページ上段3行目「賀茂寺院」は「賀茂寺院」が正しい。

35号（盛夏）82ページ20行目「延命寺」は「延命寺」（えんれいそう）が正しい。

（編集室）

毎号お求めになりたい方へ

前もって書店に毎号「はしいと」「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。毎月の20日ごろ（翌月号）の発売です。